

講義科目名称： 哲学

英文科目名称： Philosophy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
大沼美雄				
人文・社会科学				

授業概要	普通の学問は知識を探究するものだが、哲学はそれよりも、そもそも知識とは何か、というように問題の根本に立ち帰り、批判的に考察しようとするものである。本講義では、哲学の様々な問題を一緒に考えながら、授業を進めていく。毎回次回の問題を呈示するので、学生諸君が予備的考察をしてきていることを前提にする。議論なしでは授業は進められないので、学生諸君の積極的発言を期待している。なお学生諸君からの問題提起は大歓迎である。シラバスに予定されている問題はあくまで予定に過ぎない。授業の展開により適宜変更されることがあるので、そのつもりで受講して欲しい。		
授業計画	第 1 回	無知の自覚から始めよう 1 回目は予習しなくてよい。	
	第 2 回	夕日は赤いか？ 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 3 回	過去は存在するか？ 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 4 回	確実な知識は存在するか？ 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 5 回	第 1 回小テスト、解説 今回はこれまでのテーマについて簡単なテストをするので、今までの講義における議論をまとめておく。	
	第 6 回	神は存在するか？ 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 7 回	善とは何か？ 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 8 回	自由とは何か？ 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 9 回	第 2 回小テスト、解説 今回は第 6 回から第 8 回までののテーマについて簡単なテストをするので、今までの講義における議論をまとめておく。	
	第 1 0 回	功利主義と義務論 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 1 1 回	民主主義で何？ 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 1 2 回	捕鯨問題を考える 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 1 3 回	第 3 回小テスト、解説 今回は第 1 0 回から第 1 2 回のテーマについて簡単なテストをするので、今までの講義における議論をまとめておく。	
	第 1 4 回	哲学とは何か？ 今回のテーマについて予め考え、自分の意見をノートにまとめておく。	
	第 1 5 回	まとめ これまでの講義全体を振り返り、自分の哲学観をまとめる。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	哲学を学ぶことによって批判的に考える態度を養うことを目指す。自分の理性を働かせてこそ、教養が単なる飾りではなく、実のあるものになる。 (学習・教育目標 1) 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得		
教科書	なし		
参考書			
評価基準及び成績評価方法	講義 3・4 回に一回の割合で小テストを実施する。小テストの合計点で評価する。 授業の到達目標の一つは、「～できる」とか「～を知っている」などと安易に言わない批判的思考態度を身につけることである。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 小テストを採点后返却する。 ◎達成度評価 深く反省的・批判的に考える力が養われているかを小論文において見る。		
資格情報			
オフィスアワー	哲学の授業は、何かを覚えるのではなく、考えることを目指しているので、学生諸君は次回のテーマについて必ず前もってある程度考え、自分の意見をもって授業に参加して欲しい。		
備考			

履修登録条件	
--------	--

講義科目名称： 文学

英文科目名称： Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
大沼美雄				
人文・社会科学				

授業概要	口承文芸に始まり、中国文学や仏教、さらに西洋文学との出会いを経て今日まで展開して来た日本文学。及びそれに非常に大きな影響を与えて来た中国文学。先ずその2つについてその流れ等を簡単に振り返る。そして、その中から本県ゆかりの文学作品、例えば『万葉集』の中の本県関連の歌や『徒然草』の中の足利の染物の逸話を読んで行く。また、『論語』の街足利で学ぶ人間として『論語』の中の特に有名な一節も丁寧に読んで行く。	
授業計画	第1回	日本文学の領域、その全体を確認する。時代区分やジャンル等をしっかりと押さえる。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第2回	日本文学のうち、上代文学と中古文学についてその概要をしっかりと押さえる。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第3回	日本文学のうち、中世文学と近世文学についてその概要をしっかりと押さえる。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第4回	日本文学のうち、近代文学と現代文学についてその概要をしっかりと押さえる。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第5回	『万葉集』の中に見える足利や小山や那須の人々の歌、『平家物語』の中に見える那須与一の武勇伝を読む。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第6回	『徒然草』第216段を読み、北条時頼と足利義氏の関係や当時既に足利の染物が有名であったことを確認する。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第7回	『奥の細道』や『曾良日記』を読み、芭蕉の栃木・日光・塩谷・黒羽・那須・白河等での足跡を理解する。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第8回	尾崎紅葉・吉屋信子・立松和平の作品のうち、塩原・栃木・日光などと関連のあるものを読む。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第9回	漢籍の分類法についてその概要を把握することにより、中国学（シノロジー）の領域、その全体を確認する。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第10回	中国史を王朝の交替史としてしっかりと理解する。また、「四書」「五経」「十三経」等の儒教の経典についてその概要を把握する。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第11回	春秋戦国時代に活躍した儒家・法家・墨家などの諸子百家について、その思想の中身や特徴等を理解する。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第12回	足利学校に伝わって来た『論語』の古い注釈書である『論語義疏』（市指定文化財）等についてその概要を把握する。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。
	第13回	『論語』の中の「巧言令色」の章や「温故知新」の章など特に有名な一節を含む章を読む。 予習・復習：『論語抄』を音読する。
	第14回	『論語』の中の「朝聞道夕死可矣」の章や「徳不孤必有隣」の章など特に有名な一節を含む章を読む。 予習・復習：『論語抄』を音読する。また、第1回から第13回までを総括し、日本文学とは何か、その中で本県地方がどう表現されて来たかを考える。また、中国文学とは何か。「足利」が『論語』とどう関係を持って来たかといったことなどについて考えてみる。
	第15回	まとめと試験 予習・復習：「文学」（日本文学、中国文学）についてもう1度振り返り深く考える。
準備学習の内容		
教育目標に対する科目の位置付け	「文学」とは何か。先ず文学一般についての知識を深める。また本県ゆかりの文学作品や足利ゆかりの古典『論語』を読み、本県で学ぶ人間にとって特に大切だと思われる知識や情報を得て行く。	
教科書	『論語抄』（足利市教育委員会史跡足利学校事務所）、及び講師作成のプリントを使用する。	
参考書	『栃木の文学』（栃木県高等学校教育研究会国語部会）	
評価基準及び成績評価方法	毎回の小テスト（授業の後半に実施）が40%と期末試験が60%。総合で60点以上を合格とする。	
達成度の伝達及び達成度評価	小テストの結果と期末試験を返却する。	
資格情報		
オフィスアワー	「足利」で学ぶ者として本県関連の文学作品や『論語』を身近なものとして受け止めよう。	
備考		
履修登録条件		

講義科目名称：科学史

英文科目名称：History of Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
茂木謙之介				
人文・社会科学				

授業概要	明治から昭和にかけての日本における科学者の理念や概念、思想背景について考察する。近代日本において「科学」に関してはどのような思想が提示されてきたのか、それらはどのように同時代の「科学」に影響を与えてきたのかを概観する。		
授業計画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 科学思想史とは何か 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 3 回 開化と啓蒙 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 4 回 「地理」の発見 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 5 回 「精神」をめぐる問い 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 6 回 心理と心霊 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 7 回 進化論と万世一系 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 8 回 災害と想像力 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 9 回 「日本人」の起源 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 1 0 回 歴史哲学と生物学 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 1 1 回 核と文学 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 1 2 回 戦後科学論の転回 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 1 3 回 科学批判とは何か 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 1 4 回 脳死と臓器移植問題のはじまり 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。 第 1 5 回 まとめ・試験 配布レジュメを見直し、疑問点がないかを確認する。		
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	科学思想史の基礎的な考え方を習得するとともに、近代日本における科学思想の展開について理解する。（教育目標①）		
教科書	毎回レジュメを配布して講義を行う。		
参考書	授業中適宜指示する。		
評価基準及び成績 評価方法	小レポート× 2 （20%）、期末試験（80%）で配点し、60点以上を合格とする。		
達成度の伝達及び 達成度評価	小レポートに関しては講評を付して返却する。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：心理学Ⅰ

英文科目名称：PsychologyⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
萬代宰				
人文・社会科学				

授業概要	ヒトについて研究する哲学や文学から脱却して心理学が他の自然科学と同様に科学的な研究方法を用いるためにその研究対象を「こころ」から直接観察可能な「行動」に大きく変えました。確かに我々が観察可能な現象は外部に現れた「行動」とそれらの行動を引き起こした環境要因だけです。これらの変数の間にある関係を見出すことが科学的心理学の出発点となった行動主義的心理学の目的でした。この科目では行動主義的心理学の方法とその研究から得られた人間行動の原理を概論します。		
授業計画	第 1 回	行動主義的心理学とは？ どんな行動があるかリストアップする。	
	第 2 回	行動の原因 日常的に使われる「原因－結果」の説明はどんな特長があるか調べる。	
	第 3 回	行動とは何を指すのか？ 機械と生物に関して、その内部に入ることをしないで区別できるか検討する。	
	第 4 回	行動の原理（１）古典的条件づけ パブロフはなぜ重要か具体的な項目を挙げて考察する。	
	第 5 回	行動の原理（２）オペラント条件づけ オペラント条件付けの基本的枠組みを熟知する。	
	第 6 回	行動をどのように変えるか？（１）強化スケジュールのさまざま 強化スケジュールの基本と多様性を具体的な例を挙げて確認する。	
	第 7 回	行動をどのように変えるか？（２）シェイピングとチェイニング 自分の行動を有効に変容させる具体例と手法を検討する。	
	第 8 回	行動をどのように変えるか？（３）消去と部分強化 効果的な強化の方法を具体的な事例に従って検討する。	
	第 9 回	行動分析学の背景、基礎そして応用 科学的思考の基本である「決定論」の意味を把握する。	
	第 1 0 回	スキナーの思想と実験的行動分析 理論と実践の総合的調和として、実験的手法の重要性を考える。	
	第 1 1 回	問題行動の理解と対応 具体的な問題行動の例を準備する。	その解決法を行動分析の手法を用いて提案する。
	第 1 2 回	行動療法と自己管理法 自分の行動観察を通して、目的遂行のスケジュールを構築する。	
	第 1 3 回	補論：行動変容を目的とするその他の方法 他の心理療法と違いを明確に把握する。	
	第 1 4 回	補論：言語行動 日常生活での会話の例を準備する。	それを習得した手法で分析する。
	第 1 5 回	まとめと試験、解説	
準備学習の内容	毎回の授業で要点をまとめているので、その復習と次回の授業範囲の部分の事前に読んでおくこと。また授業中に使用されたパワーポイントは学内ネットワークで公開フォルダーにアップロードしているので、その復習に活用して欲しい。		
教育目標に対する科目の位置付け	本科目では心理学を自然科学の方法である実証科学的視点から考察し、現代心理学の基本概念についての知識を獲得する。そしてそれら一般的な知識とその応用力の習得を通して実務に活用応用できる技術の習得を目指す。 また、課題レポートの作成を通して、理解と表現力の獲得し、さらには、社会に働きかける積極性と自己学習の習慣を身につける。 ①(学習・教育目標3)自然科学の理解 ②(学習・教育目標4)専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 ③(学習・教育目標6)積極性と自己学習の習慣		
教科書	行動分析学入門 杉山尚子著 (集英社)		
参考書			
評価基準及び成績評価方法	授業への積極的取り組みやレポート提出を鑑み、試験による評価を行う。 評価基準は学習・教育目標(1)(2)を小テストと期末試験で、学習・教育目標(3)を演習でそれぞれ評価する。評価の割合は、(1)(2)を80%（小テスト30%、期末試験50%）、(2)を20%とし、60点以上を合格とする。この授業を通じて到達すべきポイントを整理すれば、i)行動随伴性の概念を用いて行動分析が出来る、ii)強化スケジュールを操作して行動変容につながる計画を立てるの2つとなる。期末試験の際には、i)を50%、ii)を50%の割合で試験問題を構成する。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 演習問題および小テスト・期末試験を採点后に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (40) ③ 自然科学の理解		

	(40) ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	水曜日 3 コマ目 (本館 6 階 6 0 3 号室)
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：心理学Ⅱ

英文科目名称：Psychology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
萬代宰				
人文・社会科学				

授業概要	古来「こころ」と呼ばれていた仮想概念は近年、神経生理学やコンピュータサイエンスなど色々な学問の発展によって、直接目に見えない過程であっても研究することが可能になってきました。つまり、精神活動を外部の情報を取り入れ、それを処理して（神経回路の働きによって）そして行動や言語の形で外化される一連の流れ（内的過程）としてとらえる認知科学の発展です。特に、記憶や判断など生体の高度な精神機能を対象にするのが認知心理学と呼ばれ、現代心理学の主な分野になっています。			
授業計画	第 1 回 記憶はどのように研究されてきたか。 「記憶」ついて一般的に言われている特徴を列挙する。 第 2 回 記憶の構造 記憶についてのモデルを理解し、その特徴を把握する。 第 3 回 記憶の測定法 測定について一般的特徴と「生体」に固有の問題を理解する。 第 4 回 感覚登録器 各種感覚器官の特性を理解する。 第 5 回 短期記憶 実際に電話番号などを記憶することで短期記憶の特性を理解する。 第 6 回 ワーキング・メモリー 日常的な場面での「ワーキング・メモリー」の働きを確認するために課題を行う。 第 7 回 長期記憶の記銘（意味的符号化と体制化） 記憶における「意味」の重要性を確認し、具体的な例で演習する。 第 8 回 長期記憶の忘却 忘れやすい項目に共通する特性を把握する。 第 9 回 記憶の変容 記憶における文化や社会の影響を具体的な例で確認する。 第 10 回 記憶の障害 病理学的見地から見た記憶の障害を理解し、日常生活での留意点を確認する。 第 11 回 記憶の脳生理学 記憶の基本をなす、神経回路の構成とニューロンの働きを熟知する。 第 12 回 睡眠と記憶 睡眠時の脳機能の理解と認知活動の関係を理解する。 第 13 回 使える記憶法 記憶を改善する具体的方策を理解し、具体的項目に関して実践してみる。 第 14 回 まとめ 第 15 回 試験と解説			
準備学習の内容	毎回授業の要点がまとめられているので、それを復習すること。また授業中に使用されたパワーポイントは学内ネットワークで公開フォルダーにアップロードしているので、その復習に活用して欲しい。 準備学習としては次回の授業範囲を事前に示しているのでその範囲を読んでおくこと。			
教育目標に対する科目の位置付け	本科目では心理学を自然科学の方法である実証科学的視点から考察し、現代心理学の基本概念についての知識を獲得する。そしてそれら一般的な知識とその応用力の習得を通して実務に活用応用できる技術の習得を目指す。 また、課題レポートの作成を通して、理解と表現力の獲得し、さらには、社会に働きかける積極性と自己学習の習慣を身につける。 ①(学習・教育目標3)自然科学の理解 ②(学習・教育目標4)専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 ③(学習・教育目標6)積極性と自己学習の習慣			
教科書	「覚える」 岡市広成著 （二瓶社）			
参考書	R. スクワイヤ、E. カンデル著 「記憶のしくみ」 上下 講談社ブルーバックス 1 8 4 2 ならびに 1 8 4 3			
評価基準及び成績評価方法	評価については、学習・教育目標(1)(2)を小テストと期末試験でそれぞれ評価する。評価の割合は、(1)(2)を80%（小テスト30%、期末試験50%）、(3)を20%とし、60点以上を合格とする。この授業を通じて到達すべきポイントを整理すれば、i) 記憶の研究方法が理解できる、ii) 記憶の神経生理学的基礎が理解できる、iii) 課題レポートが作成できるの3つとなる。期末試験の際には、i) と ii) を80% iii) を20%の割合で試験問題を構成する。			
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 レポートおよび小テスト・期末試験を採点后に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (60) ③ 自然科学の理解			

	(20) ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	水曜日 3 コマ目 (本館 6 階 6 0 3 号室)
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 地域史

英文科目名称： Regional History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
大沼美雄				
人文・社会科学				

授業概要	先ず日本史の流れについてその概要をきちんと押さえる。そしてその上で、対象を本県に絞り、主として『下野国誌』によって幕末期に於ける本県の全体的な姿を把握する。また、足利・梁田両郡と那須郡の歴史を深く学び、本県で学ぶ人間にとって特に大切だと思われる「歴史」に裏打ちされたたくさんの地域情報を得て行く。		
授業計画	第 1 回	日本史のうち、古代と中世についてその流れをしっかりと押さえる。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 2 回	日本史のうち、近世についてその流れをしっかりと押さえる。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 3 回	日本史のうち、近現代についてその流れをしっかりと押さえる。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 4 回	『下野国誌』（嘉永3年・1850完成）の影印本によって、本県の旧国名の由来や九郡の沿革等を学ぶ。 予習・復習：『下野国誌』の影印本の目録部分のコピーを手にし、その全体の体裁を把握する。	
	第 5 回	『下野国誌』によって、本県の名所旧跡や社寺について学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 6 回	『下野国誌』によって、本県の古城址や武将について学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 7 回	本県の足利・梁田両郡の歴史のうち、古代と中世について学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 8 回	本県の足利・梁田両郡の歴史のうち、近世について学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 9 回	本県の足利・梁田両郡の歴史のうち、近現代について学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 1 0 回	本県的那須郡の歴史のうち、古代と中世について学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 1 1 回	本県的那須郡の歴史のうち、近世について学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 1 2 回	本県的那須郡の歴史のうち、近現代について学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 1 3 回	本県の文化財のうち、足利地方と那須地方のものについて学ぶ。 予習・復習：プリントを太字で印刷されている部分に注意しながら読む。	
	第 1 4 回	足利・梁田と那須を古墳・領主・自由民権運動という3つの点から比較学習する。 予習・復習：第 1 回から第 1 4 回までを総括し、「歴史」とは何か、「日本史」とは何か。本県特に足利・梁田地方と那須地方に於いてはどのように展開して来たのかその流れを具体的な史料を意識しながら振り返り考えてみる。	
	第 1 5 回	まとめと試験 予習・復習：地域や地域の特徴についてもう 1 度振り返り深く考える。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	「歴史」とは何か。日本史とは何か。先ず日本史一般についての知識を深める。そしてその上で、本県や本県の中のある特定の地域に的を絞り、それを古代・中世・近世・近現代とひも解き、本県で学ぶ人間にとって特に大切だと思われる知識や情報を得て行く。		
教科書	講師作成のプリントを使用する。		
参考書	『歴史とは何ぞや』（ベルンハイム著、岩波文庫本）、『下野国誌』（河野守弘著、関東史料研究会）、『ふるさと 栃木県の歩み』（栃木県教育委員会）、『足利藩』（菊地卓著、現代書館）、『那須の文化誌』（那須文化研究会、随想舎）		
評価基準及び成績評価方法	毎回の小テスト（授業の後半に実施）が40%と期末試験が60%。総合で60点以上を合格とする。		
達成度の伝達及び達成度評価	小テストの結果と期末試験を返却する。		
資格情報			
オフィスアワー	歴史は身近な所にいくらかでも隠れております。		
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：日本と世界の歴史Ⅰ

英文科目名称：History of Japan and the World Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
新井久夫				
人文・社会科学				

授業概要	世界の動きと関連づけながら日本近現代史を振り返る。江戸時代の幕藩体制と２００年続いた鎖国政策によって日本の近代化は大きく遅れた。明治時代に急速な近代化を進めた日本は４０年足らずで「一等国」の仲間入りを果たしたが、その後の４０年も大正、昭和と膨張主義をとった日本は、１９４５年に敗戦という結末を迎え、日本は焼け野原になってしまった。このように激動の日本近現代史を扱いますので、グローバル時代を生き抜く力と時代を読む眼を養っていきます。			
授業計画	第１回	プロローグ（歴史を学ぶ意義）１８６８（慶応４・明治１）年～１８８０（明治１３）年の出来事 １８６８年に江戸時代から明治時代へと移っていった。すでに幕末に欧米列強の力を痛いほど見せつけられていた明治政府の中心人物たちは急速な近代国家づくりを目指すことになる。その過程での政治制度としての版籍奉還、廃藩置県、徴兵令。経済制度としての富岡製糸場に代表される官営模範工場や地租改正。 【予習】教科書P２６～P５３を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第２回	１８７４（明治７）年～１８９０（明治２３）年の出来事 西南戦争を頂点とする士族反乱と、自由民権運動が巻き起こる。この時期は明治政府高官の権力闘争に一つの決着がつく。薩長閥の中心人物である伊藤博文は大隈重信が仕掛けた開拓使官有物払下げ事件を利用し大隈重信を政府から追放する。そして、伊藤は盛り上がる自由民権運動に対して自分たちに有利な憲法制定、議会開設で対抗しようとした。 【予習】教科書P５４～P８３を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第３回	１８７８（明治１１）年～１８９５（明治２８）年の出来事 幕末に江戸幕府が結んだ不平等条約の改正が明治政府に大きくのしかかった。また、富国強兵と殖産興業を急速に進めてきた日本は、隣国朝鮮を「利益線」と位置づけ、今後の日本の発展にとって重要な意味を持つとした。近代化を進めてきた日本と近代化に遅れをとった清国とでは勝敗は明らかであった。敗北した清国は欧米列強の帝国主義に屈服していく運命が待ち受けていた。日本も三国干渉によって新たな敵ロシアを意識することになる。 【予習】教科書P８３～P９２を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第４回	１８９０（明治２３）年～１９１０（明治４３）年の出来事 急速な近代化の弊害として公害問題を初めとして社会問題が深刻化した。当地においては足尾鋇毒事件がある。その解決方法とは。ロシアの極東進出を警戒するイギリスが日英同盟で最大の支援を約束し、さらにアメリカからも資金援助を受けて日露戦争に何とか勝利した日本は世界の「一等国」への仲間入りを果たした。そして、朝鮮（韓国）を併合していく。 【予習】教科書P９３～P１２９を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第５回	１９１２（明治４５）年～１９１８（大正７）年の出来事 明治時代が終わった。明治天皇の崩御は大きな影響を与えた。そして、大正時代は大正政変という劇的な幕開けであった。その後普通選挙運動に代表される大正デモクラシーが大きく発展した。第一次世界大戦が勃発し、日本は空前の好景氣を迎え、明治末期から慢性的な不況と財政危機に悩まされていた日本経済は一気に立ち直った。 【予習】教科書P１５１～P１６２を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第６回	１９１８（大正７）年～１９２３（大正１２）年の出来事 第一次世界大戦で空前の好景氣を迎えた日本であったが、庶民の暮らしは米価上昇に代表されるインフレで困難を極めた。その結果、近代最大の民衆闘争と言われる米騒動が大正７年の日本の夏を震撼させた。また、ロシア革命潰しのシベリア出兵や宮中某重大事件を扱う。大正１２年に発生した関東大震災はその混乱の中で在日朝鮮人の大量虐殺が起きてしまった。 【予習】教科書P１６３～P１９５を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第７回	１９２０（大正９）年～１９２７（昭和２）年 第一次世界大戦の戦争景氣は大戦の終結とともに１９２０（大正９）年戦後恐慌となった。日銀のでこ入れで切り抜けたところに関東大震災による震災恐慌になった。時代は大正から昭和へ移っていったが、若槻内閣の震災手形処理法案をめぐって金融恐慌に突入していった。こうして若槻内閣総辞職、幣原外交の終焉となった。これは対中国外交をめぐっての路線対立が背景にあった。 【予習】教科書P１６７～P１９８を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第８回	１９２７（昭和２）年～１９３０（昭和５）年の出来事 田中内閣が成立し、中国で展開されている北伐を阻止すべく山東出兵を３度強行した。しかしながら北伐を阻止するのは難しく、関東軍の一部は満州某重大事件を引き起こす。この処理をめぐって田中首相は天皇の信任を失い辞職する。また、１９３０年にはロンドン海軍軍縮条約をめぐって支配層を二分する大激論を起した。 【予習】教科書P１９９～２０４を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第９回	１９３１（昭和６）年～１９３３（昭和８）年の出来事 ついに関東軍は満州事変を決行した。わずか半年で満州国の建国へともっていった。そしてこれを認めない国際連盟を脱退してしまうのである。国内的には右翼・国家主義が台頭し、クーデター未遂事件があり、５．１５事件によって現職の首相が殺害されるといった状況が生まれた。 【予習】教科書P２０８～P２１４を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第１０回	１９３６（昭和１１）年の出来事 陸軍内の皇道派と統制派の対立は２．２６事件という悲劇的な結末をもって終了した。以後統制派によって総力戦に備えた高度国防国家の建設へ突き進んでいくことになる。また、この頃話題になった忠犬ハチ公についても触れる。		

	第 1 1 回 【予習】教科書P 2 1 9～P 2 2 1を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 1 9 3 7（昭和 1 2）年～1 9 4 0（昭和 1 5）年の出来事 北京郊外の盧溝橋で起きた衝突事件は、宣戦布告のないまま日中の泥沼戦争へとなったいった。やがて、ヨーロッパではナチスドイツのポーランド侵入に対して英仏が宣戦布告し、第二次世界大戦となった。日本ではヒトラーと組んだ方が得策とする三国同盟が有力となっていた。 【予習】教科書P 2 2 6～P 2 4 1を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第 1 2 回 1 9 4 1（昭和 1 6）年の出来事 三国同盟後日米関係は悪化していった。しかしながら軍事力・工業力・資源力等においてアメリカは強大で日本は劣勢であった。対米戦争となれば主力となる海軍は反対であった。それがどうして折れてしまったのか。アメリカの思惑は。 【予習】教科書P 2 4 2～P 2 4 5を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第 1 3 回 1 9 4 1（昭和 1 6）年～1 9 4 3（昭和 1 8）年の出来事 太平洋戦争の戦局その 1（緒戦の勝利、ミッドウェー海戦、ガダルカナル島争奪戦、勤労動員、学童疎開、インパール作戦） 【予習】教科書P 2 4 6～P 2 5 0を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第 1 4 回 1 9 4 3（昭和 1 8）年～1 9 4 5（昭和 2 0）年の出来事 太平洋戦争の戦局その 2（神風特別攻撃隊、東京大空襲、沖縄戦、原爆投下、敗戦） 【予習】教科書P 2 5 1～P 2 5 6を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第 1 5 回 1 9 3 7（昭和 1 2）年～1 9 4 5（昭和 2 0）年の出来事 近衛文麿、東条英機、鈴木貫太郎、3 人の首相をとおして戦争と平和、政治家の決断等について考える。 【予習】教科書P 2 2 5～P 2 5 5を読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。
準備学習の内容	教科書を読んで不明な部分や興味をもったところを明らかにする。それを授業中に解決できるようにする。できなければ質問する。
教育目標に対する科目の位置付け	日本の近現代史の展開を世界史的視野からアプローチしながら、総合的に考察して、自分なりの考えを持つようにする。歴史的思考力を伸ばし、日本の歴史の特色を他者に伝えられる程度まで身に付ける。日本史の様々なテーマについて関心を持ち、自らの考え方、価値観を形成することができる。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	半藤 一利著 『昭和史 1 9 2 6～1 9 4 5』 平凡社 小林 英夫著 『日本近現代史を読み直す』 新人物往来社 池上 彰著 『そうだったのか！現代史』 集英社
評価基準及び成績評価方法	授業への取り組み（「レポート」の提出状況・内容） 6 0 % 試験 4 0 % レポート点と試験を合算して 1 0 0 点満点に換算し、6 0 点以上を合格とする。ただし、6 0 点に満たない者でも試験やレポートの内容が十分であると認められる場合は合格とすることもある。 この授業を通して到達すべきポイントを整理すれば、i）過去の出来事を学ぶことによって現在と未来を見通することができる、ii）過去の出来事に対して自分なりの主体的な考えを持つことができる、iii）思考力や判断力を醸成することができるの 3 つとなる。
達成度の伝達及び達成度評価	毎時間の授業で「授業を通して考えたこと」を作成する。それを次回の授業の冒頭に数人発表してもらい、授業者のコメントを述べます。 随時課すレポートを採点、添削後に返却し、達成度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	受講生への約束 ① 授業のねらい（目標）を授業の冒頭で示し、シラバスに沿って授業を進行していきます。 ② 受講生の立場になって声の大きさやスピードを調節します。また、歴史用語はできるだけわかりやすく説明します。 ③ 受け身一方の授業ではなく、授業中に何回か発問し考えてもらいます。そして適宜発表してもらいます。 （思考・発言等を重視した双方向型の授業を目指します。） ④ 受講生の質問は大歓迎です。誠実に対応します。 受講生への要望 ① 授業には主体的、積極的に取り組む。（私語、居眠り、スマートフォンの操作をしない） ② 受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って授業に参加することを期待します。 ③ 明らかに受講態度が悪いと判断された場合は、厳格に指導します。（当然、減点します。）
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：日本と世界の歴史Ⅱ

英文科目名称：History of Japan and the World 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
新井久夫				
人文・社会科学				

授業概要	歴史を知る、歴史を学ぶ意義はたくさんある。しかしながら、高校までの授業で通史的に勉強すると、流れをつかむのが難しい面もあり、苦手になりやすい。そこで、歴史の中で興味深い事件や人物を中心に考察してみることにした。高校時代までとちがい、掘り下げて人物や事件を考察することによって、「歴史を学ぶことの面白さ」を体感してもらいたい。			
授業計画	第 1 回	女性史（持統天皇・北条政子・日野富子・東福門院和子） 日本史の中に何人か、その時の歴史に深く関わった女性がいる。持統天皇は子ども、孫に何とか皇位を継承させようと頑張る。北条政子は夫が残した鎌倉幕府を必死に守ろうとする。日野富子も将軍としての役割を放棄した夫足利義政に代わって幕府を立て直そうとする。東福門院は夫後水尾天皇が自分の実家である江戸幕府、徳川將軍家と仲が悪くなってしまう、その間に立って苦しむ。 【予習】 歴史をなぜ学ぶのか、自分なりによく考える。 【復習】 「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第 2 回	パレスチナ紛争とは 「パレスチナ」は『旧約聖書』の時代には「カナン」と呼ばれ、ペリシテ人が多く住んでいたところから「パレスチナ」と呼ばれた古い歴史を誇る土地だが、南ユダ王国が滅びて以来、第二次大戦後までは、実に2千年近くにもわたってこの地に国家はなかった。その土地が、ユダヤ民族がらみでにわかに脚光を浴び始めたのは、20世紀の第一次世界大戦中である。舞台回しをしたのはイギリスである。対トルコ協定の報奨としてイギリスは、1915年に「フセイン・マクホマン協定」でアラブ側にアラブ一帯の自治権を与える約束、一方、1917年にはユダヤ民族に「バルフォア宣言」でパレスチナ帰還を保証、さらにもう一方でフランスとの間に「サイクス・ピコ協定」を結んで英仏統治領の線引きをした。結果、イギリスがトルコに勝利したため、問題の「パレスチナ」はアラブ勢力の領土であり、かつユダヤ民族の帰還先であり、同時にイギリスの統治領である、という奇妙な土地に一変した。これがすべての元凶である。 【予習】 プリントを読む。 【復習】 「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第 3 回	人間にとって宗教とは？日本社会における仏教の存在感は？（鎌倉新仏教を通して考える） 人間にとって宗教とはどんな意味を持っているのだろうか？どういう時に人々は宗教に頼ろうとするのだろうか。日本の歴史で宗教が爆発的な勢いを持った時期が3つある。第一は平安末期から鎌倉時代、朝廷から鎌倉幕府へ、天皇と貴族の時代から武士の時代へと変わった時期。第二は江戸から明治へ、封建社会から近代国家へと変わった時期。第三は太平洋戦争後、軍国主義社会から民主主義社会へと変わった時期。3つの時期に共通するのは人間のものの見方、考え方、価値観に大きな変化が生じたことである。この混乱の時期に不安な人々の心を救済したのが宗教である。第一の時期には鎌倉新仏教といわれる、浄土宗・浄土真宗・時宗・日蓮宗・臨済宗・曹洞宗の6つの宗派が生まれ、今日まで大きな影響力を持っている。第二の時期には天理教・金光教などに代表される13の教派神道が生まれた。第三の時期には立正佼正会・創価学会などが発展した。 【予習】 プリントを読む。 【復習】 「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第 4 回	中世から近世へ：3人の生き方から学ぶ（信長・秀吉・家康） 「織田がつき羽柴（秀吉）がこねし天下餅座りしままに食うは徳川（家康）」と言われるが、この3人が日本史の中に果たした役割は大きい。戦国時代という戦乱の世の中を終わりにしなければ、という共通の思いがあったが、そこがどういうふうに受け継がれていったかを考えたい。また、信長の妹であるお市は近江の浅井長政に嫁ぐわけだが、浅井は義兄信長に滅ぼされてしまう。浅井と市の長女茶々は秀吉の側室となり、淀殿とよばれ、大きな権力を握る。淀殿と秀吉の子秀頼は家康によって滅ぼされる。お市の三女、淀殿の妹お江は2代將軍徳川秀忠と結婚し、跡継ぎ3代將軍家光を産む。早々と滅んだ浅井氏であったが、その血は徳川將軍家に流れていった。 【予習】 プリントを読む。 【復習】 「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第 5 回	同和問題とは？（被差別部落問題） ハラスメントとは、嫌がらせやいじめのことをいう。つまり、他人に対する行動や発言によって相手を不快にさせたり、不利益を与えたりすることである。パワハラ、マタハラ、アカハラ、モラハラ…様々なハラスメントが問題になっている。アイヌ人や朝鮮人への民族差別、女性差別もある。しかしながら、あらゆる差別問題の根源に江戸時代の身分制度に基づく差別、被差別部落問題がある。この問題の正しい理解をすることにより、現代社会の様々な差別問題を考える眼が養えると考ええる。 【予習】 プリントを読む。 【復習】 「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第 6 回	人権問題 基本的人権の体系について学ぶ。（平等権、自由権、社会権、参政権、請求権）新しい人権について学ぶ。 （環境権、プライバシーの権利、知る権利、自己決定権）冤罪事件はなぜ起きるのか？インフォームドコンセントと自己決定権臓器移植法と自己決定権（脳死は人の死か？）安楽死・尊厳死と自己決定権 【予習】 プリントを読む。 【復習】 「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第 7 回	近世芸術論（井原西鶴・近松門左衛門・松尾芭蕉）～世阿弥・能楽とのちがい～ 15世紀の初め、観阿弥・世阿弥親子によって日本の伝統芸能のひとつ能楽が生まれる。彼らは時の権力者足利義満に絶大な保護を受けて、芸術活動に打ち込むことができた。それから200年近くのち、江戸時代になると井原西鶴によって浮世草子とよばれる小説が、近松門左衛門によって人形浄瑠璃が、松尾芭蕉によって俳諧が完成する。特に西鶴と近松は天下の台所とよばれた商人の町大坂が舞台であり、いかにして商人たちに本を買ってもらうか、いかにして劇場に足を運んでもらうかを、考えていた。これこそ「売らない」芸術から「売る」芸術への大転換であった。芭蕉の旅も地方の有力な門人たちによる招待旅行の性格が強かったのである。 【予習】 プリントを読む。 【復習】 「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。		
	第 8 回	上杉氏の運命（上杉謙信～上杉鷹山）と対照的な二人の生き方（高野長英と渡辺崋山）		

	16世紀後半、戦国時代末期に信濃を舞台に越後の上杉謙信と甲斐の武田信玄が覇権を争ったのは有名である。10年にも及ぶ川中島の戦いは後世の語りぐさである。織田信長も上杉謙信を恐れ、洛中洛外16世紀後半、戦国時代末期に信濃を舞台に越後の上杉謙信と甲斐の武田信玄が覇権を争ったのは有名である。10年にも及ぶ川中島の戦いは後世の語りぐさである。織田信長も上杉謙信を恐れ、洛中洛外図屏風を贈り、関係の悪化を避けた。謙信のあの上杉景勝は五大老の一人として豊臣政権では重きをなした。やがて、上杉氏は越後から会津へ移ることになるが、これが関ヶ原の引き金となった。会津討伐を掲げて大坂城を出発した家康に対して石田三成が挙兵した。結果的に上杉氏は米沢に移されることになった。かつての大大名が大幅に石高を減らされたにもかかわらず、家臣団はそのまま維持したので、上杉氏は経済的に破綻していった。 【予習】 プリントを読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第9回 幕末史（開国と倒幕のドラマ）1～ペリー来航から貿易の開始と尊皇攘夷～ 「太平の眠りをさます上喜撰（蒸気船）たった四はいで夜も眠れず」と言われるように、1853年のペリー来航は鎖国日本にとっては大きな衝撃であった。鎖国を続ける（攘夷）は時代遅れであるのはわかっているが、外国の圧力に負けて開国するのでは日本の自主性、独立が守れるのが、多くの人々が悩むところであった。幕府の実権を握る保守派の譜代大名グループは井伊大老をリーダーとして勅許なしで通商条約に調印、開国に踏み切るのであるが、これが尊皇派と攘夷派を結びつけて、反幕府の尊皇攘夷運動へとなっていった。井伊大老は安政の大獄で弾圧をするが、自らは桜田門外の変で暗殺されてしまう。結局、ペリー来航から15年で江戸幕府は倒れるのであるが、この中で明治政府を担う人々の間に日本が目指すべき近代国家づくりが意識されたのである。 【予習】 プリントを読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第10回 幕末史（開国と倒幕のドラマ）2～公武合体と尊皇攘夷から攘夷論の転向へ～ 井伊大老の強硬路線が桜田門外の変で挫折し、幕府とこれに同調した薩摩藩で公武合体路線が推進された。一方、尊皇攘夷派は長州藩を先頭に藩横断的な運動を展開していった。将軍家茂を上洛させて攘夷を約束させ、長州藩は攘夷を決定していった。こうした情勢の中で薩摩藩、会津藩は8月18日の政変を成功させ、長州藩を都から追放した。池田屋事件、禁門の変、第一次長州征伐と尊皇攘夷派は後退していった。しかし、長州藩も薩摩藩もイギリスと戦いをする中でその力の差を痛いほど認識させられるのである。攘夷論は現実的に不可能となった。薩摩藩も公武合体路線の失敗から方針転換を図った。こうして奇しくも薩長は倒幕という同じ方向へ向かい始めることになった。 【予習】 プリントを読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第11回 幕末史（開国と倒幕のドラマ）3～薩長同盟から大政奉還へ～ 坂本龍馬の仲介により薩長同盟が秘密裡に結ばれた。幕府の威信を見せつけようと第二次長州征伐が計画されたが、このさなか将軍家茂が亡くなり、15代将軍慶喜の登場となった。庶民の暮らしは開国による物価上昇により困窮を極め、百姓一揆や打ちこわしは江戸時代最高の状況になっていた。賢明な慶喜は土佐藩の建白もあり、大政奉還という思い切った手段に出た。一方、倒幕派は倒幕の密勅を手に入れ、武力倒幕へ動き出すのである。 【予習】 プリントを読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第12回 日本の民主化 天皇・マッカーサー会談に始まる戦後（敗戦と一億総懺悔） 無策の政府に突きつけられる苛烈な占領政策（GHQによる軍国主義の解体） 飢餓で「精神」を喪失した日本人（政党、ジャーナリズムの復活） 憲法改正をめぐる右往左往（「松本委員会」の模索） 人間宣言、公職追放そして戦争放棄（共産党人気、平和憲法の萌芽） 「自分は象徴でいい」と第二の聖断（GHQ憲法草案を受け入れる） 「東京裁判」の判決が下りるまで（冷戦のなか、徹底的に裁かれた現代日本史） 【予習】 プリントを読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第13回 対日政策の転換、朝鮮戦争、サンフランシスコ平和条約 恐るべきGHQの右旋回（改革より復興、ドッジラインの功罪） 朝鮮戦争は「神風」であったか（吹き荒れるレッドパージと「特需」の嵐） 新しい独立国日本への船出（講和条約への模索） 【予習】 プリントを読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第14回 55年体制～60年安保闘争 55年体制ができた日（吉田ドクトリンから保守合同へ） 「もはや戦後ではない」（改憲・再軍備の強硬路線へ） 60年安保闘争のあとにきたもの（ミッチーブーム、そして政治闘争の終幕） 日露関係史と北方領土問題 戦後沖縄史 【予習】 プリントを読む。 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。 第15回 高度経済成長とそのひずみ 経済大国の実現 市民生活とバブル経済 嵐の如き高度経済成長（オリンピックと新幹線） 昭和元禄の「ツケ」（団塊パワーの噴出と三島事件）【予習】 プリントを読む 【復習】「授業中に考えたこと」をもう一度振り返る。
準備学習の内容	プリントを読んで不明部分や興味をもったところを明らかにする。それを授業中に解決できるようにする。できなければ質問する。
教育目標に対する科目の位置付け	興味深い事件や人物にアプローチしながら、総合的に考察して、自分なりの考えを持つようにする。歴史的思考力を伸ばし、日本の歴史の特色を他者に伝えられる程度まで身に付ける。日本史の様々なテーマについて関心を持ち、自らの考え方、価値観を形成することができる。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	五味 文彦・鳥海 靖編 『もういちど読む山川日本史』 山川出版社 竹内 誠・佐藤 和彦・君島 和彦・木村 茂光編 『教養の日本史第2版』 東京大学出版会 荒木 敏夫・保坂 智・加藤 哲郎著 『日本史のエッセンス』 有斐閣 福岡 政行監修 『21世紀 世界の民族紛争』 主婦と生活社 池上 彰著 『そうだったのか！現代史』 集英社
評価基準及び成績評価方法	授業への取り組み（「レポート」の提出状況・内容）60％ 試験40％ レポート点と試験を合算して100点満点に換算し、60点以上を合格とする。ただし、60点に満たない者でも試験やレポートの内容が十分であると認められる場合は合格とすることもある。この授業を通して到達すべきポイントを整理すれば、i) 過去の出来事を学ぶことによって現在と未来を見通すことができる、ii) 過去の出来事に対して自分なりの主体的な考えを持つことができる、iii) 思考力や判断力を醸成することができるの3つとなる。
達成度の伝達及び達成度評価	毎時間の授業で「授業を通して考えたこと」を作成する。それを次の授業の冒頭に数人発表してもらい、授業者のコメントを述べます。

	随時課すレポートを採点、添削後に返却し、達成度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	受講生への約束 ①授業のねらい（目標）を授業の冒頭で示し、シラバスに沿って授業を進行していきます。 ②受講生の立場になって声の大きさやスピードを調節します。また、歴史用語はできるだけわかりやすく説明します。 ③受け身一方の授業ではなく、授業中に何回か発問し考えてもらいます。そして適宜発表してもらいます。 （思考・発言等を重視した双方向型の授業を目指します。） ④受講生の質問は大歓迎です。誠実に対応します。 受講生への要望 ①授業には主体的、積極的に取り組む。（私語、居眠り、スマートフォンの操作をしない） ②受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って授業に参加することを期待します。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された場合は、厳格に指導します。（当然、減点します。）
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 経済学入門

英文科目名称： Introduction to Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
山本崇広				
人文・社会科学				

授業概要	「経済」とは、われわれの生活にとってきわめて身近な問題である。「働く」こと、市場でモノやサービスを購入すること、銀行に預金すること、これらはすべて経済活動にほかならない。「経済」はわれわれの生活と密接にかかわっている。しかし、「経済」とはこうした身近な経験に限定されるものではない。個人の生活レベルから一国全体、さらには国際経済に至るまで、経済活動はさまざまなレベルで相互に影響を与えつつ営まれている。物価や為替レート、アベノミクスやユーロ危機など、連日ニュースで報道される日本経済および世界経済の動向もわれわれの生活と深く関係している。本講義では、経済学を学ぶことを通じて複雑な現代経済の見取り図を得ることを目指す。受講することで、GDPの決定や経済政策、株価、為替レートについての知識を得るとともに、経済について自分なりに考える手がかりが得られるだろう。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 市場のはたらき 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第3回 GDPとはなにか 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第4回 三面等価と経済フロー循環 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第5回 政府の役割 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第6回 経済モデル：45度線分析（1）GDPの決定 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第7回 経済モデル：45度線分析（2）乗数効果 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第8回 経済モデル：45度線分析（3）財政政策 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第9回 企業の活動 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第10回 資産価値と利子率 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第11回 貨幣と中央銀行 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第12回 金融政策 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第13回 オープンエコノミー：国際収支 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第14回 オープンエコノミー：為替レート 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第15回 総括と期末テスト 授業の総括と期末テストを実施する。		
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	(1) 一般教養として、経済学の基礎的事項を習得・養成する。 （学習・教育目標1）【幅広い視野の修得と技術者倫理の修得】 (2) ミニットペーパー執筆や例題演習を通じて、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を身につける。 （学習・教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】 講義時間：(1)10回、(2)5回		
教科書	なし。適宜授業プリントを補助資料として配付する。		
参考書	古沢泰治・塩路悦郎『ベーシック経済学』有斐閣、2012年。 吉川洋『マクロ経済学 第3版』岩波書店、2009年。		
評価基準及び成績 評価方法	学習・教育目標（1）を期末試験で、学習・教育目標（2）をミニットペーパーと例題演習でそれぞれ評価する。評価の割合は（1）が60%、（2）を40%として、60点以上を合格とする。到達目標は、経済学の基本概念やモデルを使って、経済ニュースを自分なりに考えられることとする。		
達成度の伝達及び 達成度評価	○達成度の伝達 授業のはじめに前回提出分のミニットペーパーでの質問やコメントに回答する。また問題演習は、実施後すぐに模範解答を配布する。 ○達成度評価 （60）①幅広い視野の習得と技術者倫理の習得 （40）⑥積極性と自己学習の習慣		

資格情報	
オフィスアワー	(1) 講義では、日々の経済ニュースの前提にある、基本的な考え方を解説する。ノートを取るだけでなく、新聞やテレビで経済ニュースに意識して触れるようにすると、より理解が深まるだろう。 (2) 本講義では簡単な数式を使うことがある。多様な参加者が複雑に関係を結ぶ経済関係を理解するためには、ある程度の単純化は避けられないからだ。直感的に理解できる程度のものなので、そこに壁を感じないで欲しい。 (3) 単純化によって抜け落ちてしまう問題もある。経済学はあくまでもツールでしかない。単に経済学の考え方を学ぶだけでなく、ツールとしての功罪を意識して受講して欲しい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 経済と社会

英文科目名称： Economy and Society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
山本崇広				
人文・社会科学				

授業概要	私たちの社会は、お金を融通し合う金融のはたらきなしには成り立たない。しかし1991年のバブル崩壊がその後20年以上の日本経済の低迷の引き金となったり、2008年のアメリカでのリーマン・ショックがヨーロッパに波及し、ギリシャの財政危機をもたらしたりするように、金融はときに社会を混乱に陥れる。 そのため金融には「怖い」というイメージがつきまとう。しかし住宅ローンや奨学金など、誰もが金融と付き合わざるを得ないし、たとえ直接付き合わなくても、好況や不況といったかたちで金融的変動の影響から逃れることはできない。そうである以上、金融の功罪を理解し、どのように付き合っていくのかについて一度は考えてみる必要があるだろう。その手がかりとして、本講義では、金融の仕組みについて平易に紹介したい。			
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 金融とは何か 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第3回 資本と投資 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第4回 収益と収益率の計算 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第5回 収益率を使った高度な投資判断 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第6回 複数回の収入をもたらす投資の収益率 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第7回 銀行システムと市場システム（1） 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第8回 銀行システムと市場システム（2） 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第9回 収益率と証券価格の関係 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第10回 証券の理論価格の求め方 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第11回 証券の収益率の決まり方 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第12回 金融取引の難しさ 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第13回 繰り返されるバブルの歴史 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第14回 なぜバブルは起こるのか？ 予習として、前回のノートを読んでおくこと。 第15回 総括と期末テスト 授業の総括と期末テストを実施する。			
準備学習の内容				
教育目標に対する 科目の位置付け	(1) 一般教養として、金融の基礎的事項を習得・養成する。 （学習・教育目標1）【幅広い視野の修得と技術者倫理の修得】 (2) ミニットペーパー執筆や例題演習を通じて、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を身につける。 （学習・教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】 講義時間：(1)10回、(2)5回			
教科書	なし。適宜授業プリントを補助資料として配付する。			
参考書	酒井良晴・鹿野嘉昭『金融システム 第4版』有斐閣、2011年。 川西諭・山崎福寿『金融のエッセンス』有斐閣、2013年。			
評価基準及び成績 評価方法	学習・教育目標（1）を期末試験で、学習・教育目標（2）をミニットペーパーと例題演習でそれぞれ評価する。評価の割合は（1）が60%、（2）を40%として、60点以上を合格とする。到達目標は、（1）金融取引の存在意義を説明できる、（2）証券価格や収益率を決定する要因が説明できる、（3）金融取引の不安定性を説明できることとする。			
達成度の伝達及び 達成度評価	○達成度の伝達 授業のはじめに前回提出分のミニットペーパーでの質問やコメントに回答する。また問題演習は、実施後すぐに模範解答を配布する。 ○達成度評価 （60）①幅広い視野の習得と技術者倫理の習得 （40）⑥積極性と自己学習の習慣			

資格情報	
オフィスアワー	(1) 前期開講の「経済学入門」を履修済みであるのが望ましい。 (2) 講義では、金融の基本的な考え方を解説する。ノートを取るだけでなく、新聞やテレビで経済ニュースに意識して触れるようにすると、より理解が深まるだろう。 (3) 多様な参加者が複雑に関係を結ぶ経済関係を理解するためには、ある程度の単純化は避けられない。そのために本講義では簡単な数式をつかうことがある。直感的に理解できる程度のものなので、そこに壁を感じないで欲しい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 建学の理念と聖徳太子

英文科目名称： The school motto and Prince Shotoku

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
矢島道彦， 浅野守信				
建学の理念に関わる科目				

授業概要	聖徳太子の生涯と業績について学んでゆく。聖徳太子の一生は多くの伝説でいわれているが、この授業では、伝説を含めた聖徳太子の生涯をたどっていき、その意味を考えてゆく。また、聖徳太子の業績は実に多方面にわたっており、当時の歴史をたどりながら、明確にしてゆくことにする。また、何と言って聖徳太子は日本仏教の祖と言える存在で、宗派を超えて信仰されている。この授業では、太子の仏教理解を通して、現代における本学の建学の精神についても考えてみたい。（複数担任）		
授業計画	第 1 回	聖徳太子とは誰か 配布資料を読む	
	第 2 回	聖徳太子の生涯と伝説（１） 配布資料を読む	
	第 3 回	聖徳太子の生涯と伝説（２） 配布資料を読む	
	第 4 回	聖徳太子以前の日本 配布資料を読む	
	第 5 回	蘇我氏と物部氏 配布資料を読む	
	第 6 回	仏教伝来 配布資料を読む	
	第 7 回	聖徳太子の政治 配布資料を読む	
	第 8 回	聖徳太子の外交 配布資料を読む	
	第 9 回	四天王寺と聖徳太子 配布資料を読む	
	第 1 0 回	法隆寺と聖徳太子 配布資料を読む	
	第 1 1 回	「憲法十七条」 配布資料を読む	
	第 1 2 回	聖徳太子と建学の精神 配布資料を読む	
	第 1 3 回	聖徳太子の理想をめざして 配布資料を読む	
	第 1 4 回	まとめ 聖徳太子と現代 配布資料・ノートを確認	
	第 1 5 回	試験 配布資料・ノートを確認	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	「建学の理念」として掲げられている「和を以って貴しと為す」は聖徳太子が制定した「憲法十七条」の第一条にある言葉である。ここに説かれた「和」の心について学んでゆく。今、この「和」の精神の根底にある仏教思想がどれほど有効で、重要なことであるかを共に学び、建学の理念についての理解を深めたい。		
教科書	適宜プリントを配付する。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
評価基準及び成績 評価方法	期末試験の点数を80点、授業時に適宜行う小テストを20点に配点し、総合評点が60点以上を合格点とする。		
達成度の伝達及び 達成度評価	テスト後の授業で、解説する。		
資格情報			
オフィスアワー	質問など、授業への積極的参加を期待しています。		
備考			
履修登録条件			

講義科目名称： 地方の大学と社会

英文科目名称： A Local University and the Regions

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
荘司和男				
建学の理念に関わる科目				

授業概要	この科目は、学生達にとっての大学の理解、地域社会への視野の拡がりを期待して開設する。足利工業大学は足利市という地方都市に立地しているが、教職員は様々な形で地域社会との関わりを持ち、また貢献している。この講義は、本学が根拠地としている地方都市の歴史、現在抱える問題、本学と地域社会との関わり等を学習してもらい、エンジニアとしての視野を広げてもらうことが目標である。		
授業計画	第 1 回	足利工業大学について 予習は必要ない。講義後、学生便覧を基に本学の建学の理念等について復習しておくこと。	
	第 2 回	ワークショップ ―大学について考えよう― 大学で何をしたいか考えておくこと。4 人程度のグループに分かれてディスカッションをします。	
	第 3 回	足利を知ろう ―足利の歴史― 意外に思ったことを調べる。	
	第 4 回	足利を知ろう ―現代の足利― 各自の出身地の特徴、名物等を再認識しておく。	
	第 5 回	ワークショップ ―各自の出身地について― 4 人程度のグループに分かれて、各自の出身地について紹介し、ディスカッションをします。 各グループ代表による発表を行います。	
	第 6 回	足利を知ろう ―足利の抱える問題― 地域経済分析システムRESAS（リーサス）で、各自の出身地の状況を確認しておく。	
	第 7 回	ワークショップ ―足利活性化の提案― 4 人程度のグループに分かれてディスカッションをします。 各グループ代表による発表を行います。	
	第 8 回	栃木県を知ろう ―歴史― 配布資料を見直しておくこと。	
	第 9 回	栃木県を知ろう ―産業― 配布資料を見直しておくこと	
	第 1 0 回	群馬県を知ろう ―歴史― 配布資料を見直しておくこと。	
	第 1 1 回	群馬県を知ろう ―産業― 配布資料を見直しておくこと。	
	第 1 2 回	茨城県・埼玉県を知ろう 配布資料を見直しておくこと。	
	第 1 3 回	足利工業大学の各種センター - 地域と大学の架け橋 -（総合研究センター、情報科学センター、教育連携センター） 配布資料を見直しておくこと。	
	第 1 4 回	ワークショップ ―北関東地域立大学として本学ができることは何か― 4 人程度のグループに分かれてディスカッションをします。 各グループ代表による発表を行います。	
	第 1 5 回	まとめ この科目のまとめを行う。 地方都市に立地する大学と地域社会の関係性、将来のあり方についての自分の考えを整理しておくこと。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	地方都市を根拠地とする大学として、その地方都市の生い立ちや現状を認識し、本学が地域社会とどのように関わっているかを理解すると共に、自分の考えを含めてレポートにまとめる。 （教育目標1）【幅広い視野の修得と技術者倫理の修得】 （教育目標2）【コミュニケーション能力の涵養】 （教育目標5）【知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成】 （教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】		
教科書	講義はパワーポイントによるスライドショーを中心に行う。資料はプリントを用意する。		
参考書	地域経済分析システムRESAS（リーサス） https://resas.go.jp/ <使い方> http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg11653.html		
評価基準及び成績評価方法	3回のレポート提出を求め、その採点の合計を100点満点に換算して評価する。60点以上を合格とする。試験は行わない。 本授業を通じて到達すべきポイントは、1) 地域社会の生い立ちや現状を認識できる。2) 大学のありかたを理解できる。3) 本学と地域社会との関わりを理解できる、4) 自分の考えをまとめて報告できるの 4 つである。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 レポートを採点後に返却し、達成度を伝達する。		

	◎達成度評価 (40) ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (20) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 (20) ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	<メッセージ> まずは、出身地および本学の立地する足利の魅力に気づき、地域への愛着心を高めて下さい。 <オフィスアワー> 授業日の昼休み。本館3階。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 人間と宗教

英文科目名称： Man and Religion

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
浅野守信				
建学の理念に関わる科目				

授業概要	急速に変化して行く現代社会にあって、もはや宗教などとは何の関係もないと思われる方もいるかもしれませんが。しかし、宗教は社会や文化の根元において人々の日常生活と深く関わり、人間の精神的世界、思考様式、社会の仕組みを形成しています。人文社会科学としてのものの見方を養うとともに、人間形成のうえでも大切な領域といえます。授業では、人々の宗教的営みの基本的な役割を知るとともに、現代における多様な宗教的世界を取り上げます。特に、宗教や仏教が長い歴史の中で培ってきた人間観や思考様式など、人間と宗教、仏教の問題について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。		
授業計画	第 1 回	宗教学とは1 宗教と宗教学 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 2 回	宗教学とは2 宗教史 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 3 回	三大宗教について1 キリスト教 キリストの教えとその時代 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 4 回	三大宗教について2 キリスト教 キリスト教の展開 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 5 回	三大宗教について3 イスラーム ムハンマドの教えとその時代 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 6 回	三大宗教について4 イスラーム イスラームの展開 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 7 回	三大宗教について5 仏教 釈尊の教えとその時代 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 8 回	三大宗教について6 仏教 仏教の展開 インド 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 9 回	三大宗教について7 仏教 仏教の展開 中国 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 1 0 回	三大宗教について8 仏教 仏教の展開 日本 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 1 1 回	その他の宗教1 ユダヤ教 ゾロアスター教 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 1 2 回	その他の宗教2 ヒンドゥー教 道教 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 1 3 回	日本の宗教について 神道 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 1 4 回	日本の新宗教について 授業の内容をまとめ、次回の内容を調べておく	
	第 1 5 回	試験・解説 授業の内容をまとめる	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	本学の建学の精神である仏教および聖徳太子の和の精神にもとづきながら、その精神を現代に活かすべく豊かな心を養い、科学技術と調和のある人間形成を目指し、仏教や宗教に関する広い視野を養うことを目標とする。		
教科書			
参考書	授業で例示		
評価基準及び成績評価方法	試験70点、レポート20点、受講状況・態度10点で60点以上合格。		
達成度の伝達及び達成度評価	レポートは感想などをつけて返却。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：暮らしのなかの宗教

英文科目名称：Religion in Our Daily Life

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
矢島道彦				
建学の理念に関わる科目				

授業概要	この授業では、年中行事や人生儀礼、山岳信仰などを例に、私たちの生活のなかで経験する具体的な宗教を事例として取り上げます。そして、それらが全体としてどのような仕組みから成り立っているのか、日本人の精神世界について、人文社会科学的な視点からとらえてゆきます。また、現代社会が抱える宗教にかかわる問題についても、可能な限り取り扱ってゆきたいと思います。(複数担任)		
授業計画	第 1 回	はじめに ――暮らしの中の宗教とは何か―― 配布資料を読む	
	第 2 回	古代人の暮らしと宗教 ――宗教の起源―― 配布資料を読む	
	第 3 回	日本人の暮らしと宗教 ――アニミズムと山の神―― 配布資料を読む	
	第 4 回	日本人の暮らしと宗教 ――田の神と氏神―― 配布資料を読む	
	第 5 回	日本の年中行事 ――正月と春祭り―― 配布資料を読む	
	第 6 回	日本の年中行事 ――お盆と夏祭り―― 配布資料を読む	
	第 7 回	日本の年中行事 ――稲作儀礼と秋祭り―― 配布資料を読む	
	第 8 回	神と祭り ――ヨーロッパの暦とキリスト教文化―― 配布資料を読む	
	第 9 回	神と祭り ――ヒンドゥー教と仏教の神々―― 配布資料を読む	
	第 1 0 回	ライフサイクルと宗教 ――四住期―― 配布資料を読む	
	第 1 1 回	ライフサイクルと宗教 ――日本の人生儀礼―― 配布資料を読む	
	第 1 2 回	死後の世界と先祖崇拝 配布資料を読む	
	第 1 3 回	宗教と平和 配布資料を読む	
	第 1 4 回	まとめ ――宗教と民俗―― 配布資料・ノートを整理	
	第 1 5 回	試験と解説 配布資料・ノートを整理	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	本学の建学の精神である仏教および聖徳太子の和の精神にもとづきながら、その精神を現代に活かすべく豊かな心を養い、科学技術と調和のある人間形成を目指し、仏教や宗教に関する広い視野を養うことを目標とする。		
教科書	授業ごとにプリントを配布する。		
参考書	授業中に紹介する。		
評価基準及び成績評価方法	最終週に行う試験80％、授業時に適宜行う小テスト20％で採点し、60点以上で合格とする。		
達成度の伝達及び達成度評価	試験を行った次の週の授業で解説する。		
資格情報			
オフィスアワー	皆さんの住んでいる地区での慣習や行事などについて、気づいたことがあればどんどん発言してください。積極的な授業参加を期待します。		
備考			
履修登録条件			

講義科目名称： 仏教の源流といま

英文科目名称： The Origin Buddhism and its Present State

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
浅野守信				
建学の理念に関わる科目				

授業概要	この授業では、仏教の歴史と現状を考察することを目的とする。一口に仏教と言っても、2500年の歴史とほぼアジア全域にわたる広がりを持っている。インドにおいて紀元前5世紀ごろ釈尊によって説かれた仏教は、時代の流れと各地の独自の思想との交流の中で、様々な変化を余儀なくされた。特に仏教の原点である釈尊の思想を明確にし、それがどのように変化して、現在の日本の仏教になったかを考察してゆく。その際、東南アジア地域に広がる仏教との違いを明確にし、異文化理解の一助としたい。また紀元前後に起こった大乘仏教、さらには中国での儒教・道教との関係、そして日本では、日本固有の信仰との関わりについては重点的に見てゆきたい。			
授業計画	第1回	仏教とは何か	―その歴史と広がり―	
		配布資料を読む		
	第2回	釈尊の生涯	―誕生から出家まで―	
		配布資料を読む		
	第3回	釈尊の生涯	―成道から入滅まで―	
		配布資料を読む		
	第4回	初期仏教の思想	―四法印―	
		配布資料を読む		
	第5回	初期仏教の思想	―四諦・八正道―	
		配布資料を読む		
	第6回	仏教の分裂と多様化		
		配布資料を読む		
	第7回	部派仏教と東南アジアの仏教		
		配布資料を読む		
	第8回	大乘仏教の成立		
		配布資料を読む		
	第9回	大乘仏教の思想	―浄土教と六波羅蜜―	
		配布資料を読む		
	第10回	大乘仏教の思想	―『般若心経』・『法華経』―	
		配布資料を読む		
	第11回	密教の思想		
		配布資料を読む		
	第12回	仏教と中国思想		
		配布資料を読む		
	第13回	日本仏教の思想		
		配布資料を読む		
	第14回	仏教と現代		
		配布資料を読む		
	第15回	まとめと試験		
		配布資料・ノートの整理		
準備学習の内容				
教育目標に対する科目の位置付け	建学の理念である仏教精神とその具現としての地域貢献の精髓を学び、情操豊かな工学技術者としての人間力を養う。仏教の源流とその歴史上の発展の学習を通して、仏教的人間観と現代における宗教文化・仏教の役割についての認識を養う。			
教科書	授業時にプリントを配布する。			
参考書	授業時に紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	期末試験の点数を80%、授業時に適宜行う小試験の点数を20%で計算し、総合評価が60点以上で合格とする。			
達成度の伝達及び達成度評価	試験を行った次の週の授業で解説する。			
資格情報				
オフィスアワー				
備考				
履修登録条件				

講義科目名称： 法学 I

英文科目名称： Jurisprudence 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
高橋政美				
人文・社会科学				

授業概要	社会的存在としての法的思考力の養成を目的とし、複雑、多様化する現代社会における「法」に関しての理解を深めるための講義である。そこでは、特に社会を構成する人間の複雑な理解の難しい存在であることを前提に、現代の「価値の多様化現象」と法の関係を考慮しつつ、法の概念、法と国家、法と政治、法の支配、法源、法の目的、法の種類、法の解釈、法学の種類などについて、法学の基礎的用語や、原理、原則のより深い理解を目指すものである。	
授業計画	第 1 回	講義の内容および予定の説明 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 2 回	人間と社会規範 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 3 回	法の概念 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 4 回	法と国家 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 5 回	法と政治 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 6 回	法の支配 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 7 回	法源 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 8 回	法の目的 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 9 回	法の種類 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 1 0 回	法の解釈 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 1 1 回	現代法の体系（１）六法中心 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 1 2 回	現代法の体系（２）知的財産関係法規 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 1 3 回	現代法の体系（３）環境、福祉、労働関係法規 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 1 4 回	法学の種類 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。
	第 1 5 回	まとめ 復習：今回の内容を整理、前回までのノート、教科書などを整理し、試験に備えて勉強する。
準備学習の内容		
教育目標に対する科目の位置付け	社会的存在である技術者として、幅広い視野と法的思考力の養成 (教育目標1)	
教科書	「人間・社会・法」 高橋政美著（東京教学社）	
参考書	なし	
評価基準及び成績評価方法	成績評価は、原則として試験で最終成績を評価、６０点以上の者に単位を認める。ただし、試験の成績がわずかに６０点未満のものにはレポート提出を認め、レポート内容が単位認定相当と認められる場合には最終成績を６０点とする。	
達成度の伝達及び達成度評価	試験の答案を採点し、成績を開示する。またレポートの該当者にも評価内容を開示する。	
資格情報		

オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 法学Ⅱ

英文科目名称： Jurisprudence 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
高橋政美				
人文・社会科学		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	我が国における国家の構成、統治組織、統治活動に関する根本的法規に関する講義である。そこでは、国民が、民主主義国家の主権者であると同時に義務を負う立場にあることに留意しつつ、福祉国家、議会制民主主義、憲法制定権力と憲法、日本国憲法の基本原理、戦争の放棄、国民の権利及び義務、国会、内閣、裁判所、地方自治などについての理解を目指すものである。また現代社会の高齢化、少子化に関連して、福祉や家族関係の法規にも触れる。		
授業計画	第 1 回	講義内容および予定の説明 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 2 回	人間、国家、法 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 3 回	法と政治と経済、法の支配、法律の支配 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 4 回	憲法制定権力、憲法の意義、日本国憲法の成立 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 5 回	日本国憲法の基本原理 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 6 回	天皇・戦争の放棄 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 7 回	国民の権利及び義務、公共の福祉 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 8 回	福祉国家、社会権、国民の義務 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 9 回	国会、内閣、裁判所 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 1 0 回	財政、地方自治 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 1 1 回	憲法改正、最高法規 予習：次回の内容について、教科書を参考に調べておく。復習：今回の内容をノート、教科書を参考に復習し、整理しておく。	
	第 1 2 回	社会福祉法制 予習：次回の内容について調べ、整理しておく。復習：今回の内容をノートを参考に整理しておく。	
	第 1 3 回	家族法 1（婚姻、離婚） 予習：次回の内容について調べ、整理しておく。復習：今回の内容をノートを参考に整理しておく。	
	第 1 4 回	家族法 2（親子、相続） 予習：次回の内容について調べ、整理しておく。復習：今回の内容をノートを参考に整理しておく。	
	第 1 5 回	まとめ 復習：今回の内容と前回までのノート、教科書などを参考に整理し、試験に備えて勉強する。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	社会的存在である技術者として、国家の基本法についての知識の習得と法的思考力の養成 (教育目標1)		
教科書	「人間・社会・法」高橋政美著（東京教学社）		
参考書	なし		
評価基準及び成績評価方法	成績評価は、原則として試験で最終成績を評価、60点以上の者に単位を認める。ただし、試験の成績がわずかに60点未満のものにはレポート提出を認め、レポート内容が単位認定相当と認められる場合には最終成績を60点とする。		
達成度の伝達及び達成度評価	試験の答案を採点し、成績を開示する。またレポートの該当者にも評価内容を開示する。		
資格情報			
オフィスアワー			

備考	
履修登録条件	

講義科目名称：文化論 I

英文科目名称：History of Culture 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
永尾徹				
人文・社会科学				
授業概要	人間は何を創ってきたか。創ったものが生活や文化にどう影響して来たか、その創造と社会への適用の実例の紹介を通じて、現在の私たちの周りに存在する技術と「もの」の、歴史を学び、次の世代を担うエンジニアとしての活動を豊かで有効にするための糧とする。 具体的には、自動車や飛行機などの移動用技術、蒸気、電気、風力などのエネルギーの利用技術、戦争を通じて発達した各種技術、写真、計算機などの日常の文化活動に使う技術の発展の歴史を学ぶ。また日本のもの作りを江戸時代にさかのぼり紹介し、日本の技術発展のベースを学ぶ。			
授業計画	第1回 ガイダンス 講義の全体像紹介、自己紹介と入学しての感想、期待を文章にして提出する。 第2回 技術と経済の発達 技術は経済、社会との密接な関係があることを理解する。 第3回 エネルギーと地球環境 経済活動とエネルギー、それが地球環境に与える影響を理解する。 第4回 風を利用する（１）歴史 風力エネルギー利用の発祥と発達過程を理解する。 第5回 風を利用する（２）技術的背景 風力をエネルギーに変換する技術について理解する。 第6回 風を利用する（３）風を捕まえた人達 風力エネルギーの発展普及に尽くした人々の歩みを知る。 第7回 空を飛ぶ（１）人類の挑戦 人類が空を飛ぶことにあこがれ、挑戦して来た足跡を理解する。 第8回 空を飛ぶ（２）飛行機の発達 初期の飛行機から最新技術を用いた航空機の発達過程を理解する。 第9回 写す（１）写真の発明と挑戦 映像を固定し記録する方法の発見、発明、調整について理解する。 第10回 写す（２）写真機の発達 写真機の発達について実物を見ながら理解する。 第11回 日本のもの作り（火縄銃） 日本独自の火縄銃の開発と利用の歴史について知り、もの作りの本質に触れる。 第12回 日本のモノづくりの文化論的考察（その１：技術と文化の相関） 日本の技術と文化の関係を理解する。 第13回 日本のモノづくりの文化論的考察（その２：日本的技術発想） 日本独自の技術発想を理解する。 第14回 日本のモノづくりの文化論的考察（その３：技術文化立国） 技術で国を立てる形の在り方について考える。 第15回 前期まとめ、小論文			
準備学習の内容				
教育目標に対する 科目の位置付け	人類は何を創ってきたか、人々の生活に関して技術はどのような役目を負ったのか、幾つかの事例を学び、文化の発展の歴史と其中的技術活動を知ること、次の世代の文化と技術を担う学生の糧とする。			
教科書	配布するプリント資料を用いる。必要に応じて映像も使用する。			
参考書	「風力発電の歴史」オーム社、 牛山泉 「中島飛行機の技術と経営」日本経済評論社、 佐藤達男 見て楽しむ江戸のテクノロジー（数研出版株式会社）			
評価基準及び成績 評価方法	講義への出席、講義ノートと小論文による。 中間と期末のレポート提出と毎回の提出ノートのレベルで評価（トータル60点以上を基準） 配点はレポート35×2＝70点。ノート30点。：技術の進化とキーとなる技術の理解。もの作りのポイントと心意気を理解したかを評価する。 良いレポートとは独自の考え方が表れているものでありそこを評価する。 ノートは授業を何処まで理解しているかを見る。			
達成度の伝達及び 達成度評価	レポートに評価とコメントを付けて返却する。			
資格情報				
オフィスアワー				

備考	
履修登録条件	

講義科目名称：文化論Ⅱ

英文科目名称：History of Culture 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
永尾徹				
人文・社会科学				

授業概要	人間は何を創ってきたか。創ったものが生活や文化にどう影響して来たか、その創造と社会への適用の実例の紹介を通じて、現在の私たちの周りに存在する技術と「もの」の、歴史を学び、次の世代を担うエンジニアとしての活動を豊かで有効にするための糧とする。本講座では文化論Ⅰを更に深め、実際の技術製品の開発過程をなぞり、技術を社会に適合させるための考え方の学習をする。		
授業計画	第1回	ガイダンス 講義の全体像の紹介	
	第2回	蒸気機関と産業革命 産業革命に大きな役割を果たした蒸気機関について知る。	
	第3回	蒸気機関の発達 初期の動力であった蒸気機関の多様な利用方法について知る。	
	第4回	自動車の歴史（１） 自動車の発祥と初期の発達について知る。	
	第5回	自動車の歴史（２） 自動車の軍事利用から社会への影響と挑戦について知る。	
	第6回	ケーススタディー 風力発電の開発１（市場、環境、ターゲットの検討） 「もの」を作り、社会に広めるには何をするか、について風力発電開発を例に取り学ぶ。	
	第7回	ケーススタディー 風力発電の開発２（仕様、設計技術、価格、品質の設定） 「もの」を作り、社会に広めるには何をするか、について風力発電開発を例に取り学ぶ。	
	第8回	ケーススタディー 航空機の開発１（市場、環境、ターゲットの検討） 「もの」を作り、社会に広めるには何をするか、について航空機開発を例に取り学ぶ。	
	第9回	ケーススタディー 航空機の開発２（仕様、設計技術、価格、品質の設定） 「もの」を作り、社会に広めるには何をするか、について航空機開発を例に取り学ぶ。	
	第10回	もの作り計画実習（１） 「もの」を作るための「もの」の市場、仕様、性能、機能を考える。 開発する製品を想定して、構想立案から設計、製造、販売までをシミュレートする。グループで実施する。	
	第11回	もの作り計画実習（２） （１）で決めた「もの」の設計（概念図）を描き、製造方法を計画する。 開発する製品を想定して、構想立案から設計、製造、販売までをシミュレートする。グループで実施する。	
	第12回	もの作り計画実習の発表と講評 グループで発表を行い議論する。	
	第13回	日本のもの作りと人（田中久重） 江戸から明治のもの作りの偉人について学ぶ。	
	第14回	再生可能エネルギーと社会 涵養、エネルギー問題に解決を与えるとされる再生可能エネルギーの現状と社会的な影響について学び、将来の形について考える。	
	第15回	後期のまとめ、小論文	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	人類は何を創ってきたか、人々の生活に関して技術はどのような役目を負ったのか、幾つかの事例を学び、文化の発展の歴史とその中の技術活動を知ること、次の世代の文化と技術を担う学生の糧とする。		
教科書	配布するプリント資料を用いる。必要に応じて映像も使用する。		
参考書	「風力発電の歴史」オーム社、 牛山泉 「中島飛行機の技術と経営」日本経済評論社、 佐藤達男 見て楽しむ江戸のテクノロジー（数研出版株式会社）		
評価基準及び成績評価方法	講義への出席、講義ノートと小論文による。 中間と期末のレポート提出と毎回の提出ノートのレベルで評価（トータル60点以上を基準） 配点はレポート35×2＝70点。ノート30点。 ；技術の進化とキーとなる技術の理解。もの作りのポイントと心意気を理解したかを評価する。 良いレポートとは独自の考え方が表れているものでありそこを評価する。 ノートは授業を何処まで理解しているかを見る。		
達成度の伝達及び達成度評価	レポートに評価とコメントを付けて返却する。発表にたいしてはその場で口頭でもフィードバックする。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			

履修登録条件	
--------	--

講義科目名称： 数学Ⅱ（補）

英文科目名称： Mathematics 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
本年度休講				
自然科学				

授業概要	線形代数学の基本概念である、ベクトル、複素数、行列、連立一次方程式、行列式等について学びます。これらの基本概念、理解と計算能力、そしてそれらを問題解決に応用する能力を身につけることを目標とします。そのために演習も合わせて行い、基本的に講義60分＋演習30分の構成で授業を行います。（クラス別）		
授業計画	第 1 回	平面ベクトル 復習：平面ベクトルについての知識を確認する。	
	第 2 回	ベクトルの演算 予習：ベクトルの定数倍、和、差について教科書を読んでおく。 復習：ベクトルの演算が作図により行えるようになっているか確認する。	
	第 3 回	位置ベクトルとその応用 予習：位置ベクトルと座標の関係を教科書を読んで確かめておく。 復習：位置ベクトルを用いて図形の問題を解いてみる。	
	第 4 回	ベクトルの成分 予習：ベクトルの成分について教科書を読んでおく。 復習：成分を使ってベクトルの演算を行い、その意味を確かめる。	
	第 5 回	内積 予習：内積について教科書を読んでおく。 復習：内積の図形的意味、成分で表すとどうなるかが理解できているか確認する。	
	第 6 回	複素数の計算 予習：複素数について教科書を読んでおく。 復習：複素数の計算ができるようになっているか確かめる。	
	第 7 回	複素平面 予習：極座標について教科書を読んでおく。 復習：複素数が平面上に図示できるか、1 の n 乗根が計算できるかを確かめる。	
	第 8 回	空間ベクトル 予習：空間内のベクトルは平面ベクトルとどう違うのか想像してみる。 復習：空間ベクトルと平面ベクトルの取り扱いの類似性を確かめる。	
	第 9 回	外積 予習：外積の定義を教科書で調べておく。 復習：外積の図形的意味、成分による計算が理解できているか確認する。	
	第 1 0 回	直線と平面の方程式 予習：空間における直線、平面の方程式について教科書を読んでおく。 復習：空間ベクトルを用いると直線、平面の方程式がよく理解できることを確かめる。	
	第 1 1 回	行列の定義 予習：行列について教科書を読んでおく。 復習：行列の成分の番号の付け方、いろいろな名称を確認しておく。	
	第 1 2 回	行列の演算 予習：行列の演算、特に掛け算がどのようになっているのかを教科書で調べておく。 復習：行列の演算が円滑に行えるかを確認する。	
	第 1 3 回	正方行列 予習：正則行列、対称行列、三角行列の定義を教科書で調べておく。 復習：正方行列のべき、逆行列、対称行列等が理解できているか確認する。	
	第 1 4 回	中間試験と解説 予習：今までに解いた問題をもう一度見直しておく。 復習：試験問題を再度解き、知識を確実なものにする。	
	第 1 5 回	連立一次方程式（消去法と掃き出し計算法） 予習：簡単な連立一次方程式について復習しておく。 復習：行列を使って連立一次方程式が解けるようになっているか確認する。	
	第 1 6 回	掃き出し計算法 予習：いくつかの連立一次方程式を行列を用いて解いておく。 復習：授業で学んだ新しい方法を試してみる。	
	第 1 7 回	行列の階数（ランク） 予習：行列の階数について教科書を読んでおく。 復習：行列の階数が計算できるようになっているか確かめる。	
	第 1 8 回	連立一次方程式の解の種類と行列の階数 予習：連立一次方程式の解の種類がどうなるのかを考えてみる。 復習：解の種類が行列の階数により分類されることを理解しているか確認する。	
	第 1 9 回	連立同次一次方程式 予習：連立同次一次方程式について教科書を読み、解の種類はどうなるのかを考えてみる。 復習：連立同次一次方程式の解と係数行列の階数の関係を理解しているか確認する。	
	第 2 0 回	掃き出し計算法による逆行列の計算 予習：逆行列の定義を復習しておく。	

	第 2 1 回 復習：逆行列を掃き出し計算法で解けるようになっているか確認する。 2 次と 3 次の行列式 予習：外積や 2 次正方行列の逆行列を復習しておく。 復習：2 次と 3 次の行列式の図形的意味を理解しているか確認する。 第 2 2 回 置換とその符号 予習：2 次、3 次の行列式を復習しておく。 復習：置換の符号が求められるようになっているか確認する。 第 2 3 回 行列式の定義 予習：置換の符号とはなにかを復習しておく。 復習：一般の行列式の定義を理解しているか確認する。2 次、3 次の場合の拡張になっていることを確認する。 第 2 4 回 行列式の基本性質 予習：行列式の定義を復習しておく。 復習：行列式のいろいろな性質が基本的ないくつかの性質から導かれることを理解しているか確認する。 第 2 5 回 掃き出し計算法による行列式の計算 予習：基本変形により行列式がどのように変化するかを考えてみる。 復習：掃き出し計算法を用いていくつかの行列式を計算してみる。 第 2 6 回 余因数展開 予習：余因数展開について教科書を読んでおく。 復習：余因数展開を用いていくつかの行列式を計算してみる。 第 2 7 回 行列式の応用（逆行列の計算） 予習：掃き出し計算法による逆行列の計算を復習しておく。 復習：行列式を用いていくつかの正方行列の逆行列を求めてみる。 第 2 8 回 行列式の応用（クラームルの公式） 予習：連立一次方程式について復習しておく。 復習：クラームルの公式を用いていくつかの連立一次方程式を解いてみる。 第 2 9 回 期末試験と解説 予習：今までに解いた問題をもう一度見直しておく。 復習：試験問題を再度解き、知識を確実なものにする。 第 3 0 回 まとめと演習 予習：試験問題を復習しておく。
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した教科書の項目を記入したので、しっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の教科書の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみること。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	ベクトル、行列、行列式等に対する理解と計算能力、そしてそれらを問題解決に応用する能力を身につけることを目標とする。 (学習・教育目標3)【自然科学の理解】 講義時間:30回
教科書	教員が配布します。
参考書	
評価基準及び成績 評価方法	◎評価基準 ベクトル、行列、行列式等の概念を理解し、正確に計算ができる。 ◎成績評価方法 中間試験および期末試験の成績を 70 点に換算する。演習の結果を 30 点に換算する。それらの合計を評価点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 小テスト、中間試験、期末試験の答案用紙を返却して、達成度を伝えます。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (100) ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 () ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂 1 F に『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。
備考	2 0 1 7 年度は、前期に 1 クラス（担当は、井上）だけ設定します。 2 0 1 7 年度後期以降は、2 0 1 6 年度から実施している新カリキュラムの科目で読み替えます。 読み替えるは、『線形代数入門』と『線形代数Ⅰ』を合わせた通年科目として設定します。 2 0 1 5 年度入学以前の学生は気を付けて下さい。
履修登録条件	

講義科目名称： 数学Ⅲ（補）

英文科目名称： Mathematics 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
森下和彦				
自然科学				

授業概要	数学Ⅰでは1変数の微分と積分について学習しました。数学Ⅲではそれらに引き続いて、独立変数が複数である関数(多変数関数)について、主に2変数の場合にその微分(偏微分)や積分(重積分)を学習します。多変数関数は応用面でも重要であり、様々な場面で登場します。例えば、位置と時刻で定まる値がある場合に、それを位置と時刻を独立変数とする多変数関数と考えることが出来ます。この授業では、多変数関数の微積分を問題解決に応用する能力を身につけることを目標とします。そのために演習も合わせて行い、基本的に講義60分+演習30分の構成で授業を行います。毎回小テストを行い、その日の理解の程度を確認します。		
授業計画	第1回	2変数関数と極限值 予習：1変数関数の極限について復習しておく。 復習：2変数関数のグラフ、極限値の求め方を復習する。	
	第2回	偏微分 予習：1変数関数の微分係数の意味、導関数の計算法の復習をしておく。 復習：2変数関数の偏微分の計算法を復習する。	
	第3回	接平面と全微分 予習：数学Ⅱを履修した人は空間ベクトルに関する内容の復習をしておく。 復習：接平面が存在する曲面のもつ性質について復習する。	
	第4回	合成関数の微分法 予習：1変数の合成関数の微分法について復習しておく。 復習：1変数関数の場合との相違に留意し、合成関数の導関数について復習する。	
	第5回	高次偏導関数 予習：1変数関数の高次導関数について復習しておく。 復習：2変数関数の高次偏導関数の計算法を復習する。	
	第6回	マクローリンの定理 予習：1変数関数に対するマクローリンの定理を復習しておく。 復習：具体的な2変数関数に対してマクローリンの定理を適用して計算を行う。	
	第7回	関数の極値 予習：1変数関数の極値の求め方について復習しておく。 復習：2変数関数の極値の求め方、計算法について復習する。	
	第8回	偏微分法についての演習 予習：これまでに学んだ内容について復習しておく。 復習：演習問題を再度解き、知識を確実なものにする。	
	第9回	重積分の考え方 予習：1変数関数の定積分の定義を復習しておく。 復習：2変数関数の重積分の定義について復習する。	
	第10回	累次積分と積分順序の変更 予習：1変数関数の積分の計算法を復習しておく。 復習：2変数関数の積分の累次積分による計算法、積分順序の変更について復習する。	
	第11回	変数変換とヤコビアン 予習：1変数関数の置換積分法を復習しておく。 復習：2変数関数の変数変換の方法と計算法について復習する。	
	第12回	重積分の応用 予習：1変数関数の定積分法の応用について復習しておく。 復習：空間図形の曲面積、体積の求め方など重積分の応用について計算法も含めて復習する。	
	第13回	広義積分 予習：1変数関数の広義積分について復習しておく。 復習：2変数関数の広義積分の計算法と応用について復習する。	
	第14回	総合演習 予習：2変数関数の微分法、積分法について復習しておく。 復習：総合演習で出題された演習問題を再度解き、知識を確実なものにする。	
	第15回	期末試験と解説 予習：総合演習で出題された問題を復習しておく。 復習：試験問題を再度解き、知識を確実なものにする。	
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した教科書の項目を記入したので、しっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の教科書の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみること。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。		
教育目標に対する 科目の位置付け	偏微分ならびに重積分に対する理解と計算能力、そしてそれらを問題解決に応用する能力を身につけることを目標とする。 (学習・教育目標3)【自然科学の理解】 講義時間:15回		
教科書	本学の内部サーバーに教材のファイルを置きます。		
参考書			

評価基準及び成績 評価方法	◎評価基準 この授業を通じて到達すべきポイントは、偏微分、重積分の概念を理解し、正確に計算ができることである。 ◎成績評価方法 期末試験の成績を70点に換算する。演習の結果を30点に換算する。それらの合計を評価点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	小テスト、期末試験の答案用紙を返却して、達成度を伝えます。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (100) ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂１Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認にして下さい。
備考	２０１７年度は、前期に１クラス（担当は、森下）だけ設定します。 ２０１７年度後期以降は、２０１６年度から実施している新カリキュラムの科目で読み替えます。 読み替えは、『微分積分Ⅲ』として設定します。 ２０１５年度入学以前の学生は気を付けて下さい。
履修登録条件	

講義科目名称： 総合科学実験

英文科目名称： Fundamental Experiments of Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	2 単位	選択	実験
担当教員				
高橋大輔, 朝光敦, 新高誠司, 松村仁夫, 藤島博英, 加藤隆幸, 大背戸豊, 丁大玉				
自然科学				

授業概要	「観る、測る、作る」のキーワードにしたがい各コースに用意された実験テーマを受講し、①数量の取り扱い、②実験器具の取り扱い、③実験データの処理、④レポートの作成方法等を習得する。各コースとも複数の教員が担当する。 受講者を3グループ（第一グループ： 観るコース→測るコース→作るコース、第二グループ： 測るコース→作るコース→観るコース、第三グループ： 作るコース→観るコース→測るコース）に分け、4週間の実習後、教員および実験パートナーとの議論を通じたレポート作成を行う。 各コースでは以下の内容を主に実施する。 ☆観るコース：基礎化学実験を行う。[A]分子1個の大きさや質量などを求める。[B]アボガドロ定数を理解し物質量の表し方をつかむ。[C] 化学電池を作成し、その仕組みを理解する。 ☆測るコース：基礎物理実験を行う。[A]金属密度の測定をとおし、数量の取り扱いに関する理解を深める。[B]重力加速度測定をとおし、誤差の評価法について学ぶ。[C] 電気抵抗測定をとおし、交流・直流を理解する。 ☆作るコース：科学工作実習と実験を行う。[A]つる巻きばねを作成し、バネの弾性を学ぶ。[B] 電気回路を作成し、電磁波もしくは2進数についての理解を深める。 （複数担任）		
授業計画	第1回 【観るコース】各種アルコールのモル体積から、アルコール分子の大きさや形を探る （予習）物質量（モル）など実験テキストに使用されている用語を調べておく。 （復習）実験結果の整理、演習問題の解答。 第2回 【観るコース】シクロヘキサノール溶液の凝固点降下から、アルコールのモル質量（分子量）を求める （予習）凝固点、過冷却、分子量など実験テキストに使用されている用語を調べておく。 （復習）実験結果の整理、演習問題の解答。 第3回 【観るコース】高級脂肪酸の単分子膜をつくり、その面積から分子の大きさを求める （予習）高級脂肪酸、単分子膜など実験テキストに使用されている用語を調べておく。 （復習）実験結果の整理、演習問題の解答。 第4回 【観るコース】電池 （予習）電池の仕組み、酸化還元など実験テキストに使用されている用語を調べておく。 （復習）実験結果の整理、演習問題の解答。 第5回 【観るコース】レポート作成とまとめ、講評。 （予習）実験テキストの演習問題を解答し、これまでの実験で理解できていない部分を整理しておく。 提出した演習問題や報告書の質疑を受け、修正する箇所があれば直して再提出する。 第6回 【測るコース】固体の密度を、ノギス、マイクロメータ、電子天秤を利用して測る （予習）テキストの「固体の密度測定」をひととおり読む。 （復習）相対誤差や有効数字が理解できればよい。 第7回 【測るコース】ボルダの振り子を用いて重力加速度を測る （予習）テキストの「重力加速度」をひととおり読む。 （復習）重力加速度を求める原理および誤差評価が理解できればよい。 第8回 【測るコース】CDのトラック間隔を、光の回折を利用して測る （予習）テキストの「CDのトラック間隔の測定」をひととおり読む。 （復習）「光の回折」の原理が理解できればよい。 第9回 【測るコース】マルチメータを用いて抵抗値、電圧、電流を測る。直流と交流の違いを理解する （予習）テキストの「抵抗値、電圧、電流の測定」をひととおり読む。 （復習）オームの法則が直流に対して成り立つこと、交流に対しては成り立たないことが記憶にとどまればよい。 第10回 【測るコース】レポート作成とまとめ、講評 提出したレポートの質疑を受け、修正する箇所があれば直し、提出する。 第11回 【作るコース】つる巻きばねの作成とバネ定数の算出（全分野） （予習）配布資料を十分に読み、フックの法則について理解する。一次関数の切片、傾きの求め方を復習しておく。 （復習）実験結果についてまとめておく。 第12回 【作るコース】つる巻きばねを用いた振動周期測定（全分野） （予習）振動周期測定時の測定結果の処理方法について、配布資料を必ず読んでおく。 （復習）実験結果についてまとめ、第11回で求めた結果との比較、検討を十分に行う。両測定における測定結果差異の理由について理解できれば良い。 第13回 【作るコース】鉱石ラジオの作成（機械分野、建築・土木分野）2進数カウンターの作成（電気電子分野、システム情報分野） （予習）配布資料を十分に読み、実験の目的を理解する。 （復習）作成した電気・電子回路図を読み取れるようにする。 第14回 【作るコース】電磁波をとらえる（機械分野、建築・土木分野）2進数の表現について（電気電子分野、システム情報分野） （予習）電磁波とは何かを調べる。2進数以外の数の表し方を調べる。 （復習）装置の作成方法および実験結果についてまとめる。 第15回 【作るコース】レポートの作成とまとめ、講評 提出したレポートの質疑を受け、修正する箇所があれば直し、提出する。		
準備学習の内容	各テーマごとに、担当教員の指示のもと、配布資料を熟読し不明な点を予習すること。予習時に生じた疑問点はノートにまとめ、授業中に解決するようにすること。		

教育目標に対する 科目の位置付け	(1) 教員およびグループ内の学生と協力し実験、議論を行う。 (学習・教育目標1) 【幅広い視野の修得と技術者倫理の修得】 (学習・教育目標2) 【コミュニケーション能力の涵養】 (学習・教育目標6) 【積極性と自己学習の習慣】 (2) 自然科学、工学全分野に共通した測定技術・数量の取り扱いを身につける。 (3) 化学現象を観察し、分子構造やその振る舞いを身につける。 (4) 物理現象にもとづき、物理法則を理解する。 (5) 道具を使いこなし、実験に使用する装置を作り完成させる。 (学習・教育目標3) 【自然科学の理解】 (学習・教育目標4) 【専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得】 (6) 結果を解析・整理し、期限内にまとめる。 (学習・教育目標5) 【知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成】
教科書	各コースでテキスト（実験書）を配布する。
参考書	以下に挙げる書籍・辞書を参考図書とする。参考図書は原則、図書館内に蔵書されているので必要に応じて図書館を利用すること。 参考書：「化学大事典」共立出版、日本化学会編「化学便覧」丸善、「物理学辞典」培風館、「理科年表」国立天文台編
評価基準及び成績 評価方法	全コースにおいて評価基準は次のとおりとする。(1) 取り組みの積極性および実験実施状況にもとづく平常点評価：55%、 (2) レポート内容等：45%とし、合計が60点(%)以上を合格とする。レポートは実験終了の翌週までには必ず提出すること。原則、レポートの遅延は認めない。最終成績は、各コースでの取得点の平均で算出する。ただし、全てのコースで60点以上を取得していない学生は評価の対象としない。 この授業を通じて到達すべきポイントは [A] 与えられたテーマについて理解し、授業時間内で実験・作業を手際よく行う。 [B] 数量を単位を含め間違いなく取り扱うことができる。 [C] 実験結果を整理・分析し、まとめる。の3点である。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 実験中の議論およびレポート課題の確認によって達成度を伝達する。 ◎達成度評価 (10) ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (10) ② コミュニケーション能力の涵養 (30) ③ 自然科学の理解 (10) ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 (20) ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	(1) グループ分けは第一回実験日の前に掲示板で連絡する。 (2) 本講義では①実験ノート（A4版）、②関数電卓、③グラフ用紙（A4版、正方眼紙）を必ず使用する。受講希望者は第一回授業までに上記三点を必ず用意すること（大学生協に用意あり）。特別な理由なく用意をしない学生は受講を不可とする。 (3) 特に、実験時の計算においてスマートフォンの使用は不可とする。必ず関数電卓を用意すること。すでに関数電卓を所有している学生はあらためて用意する必要はない。 (4) 実験時に生じた疑問に関しては可能な限り実験時間内に議論を行い、解決することが望ましい。それ以外の質問については各教員のオフィスアワー（別途掲示）で解決すること。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 解析入門

英文科目名称： Introduction to Calculus

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
森下和彦, 橋本哲,				
自然科学				

授業概要	高等学校における数学教育と大学における数学教育との間の円滑な橋渡しの必要性は従来にまして増加しています。本授業では、関数の概念の導入から初等関数（整関数、三角関数、指数・対数関数など）について学びます。すでに知っている事項についてはその復習を充分に行い、新しく学ぶ事項についてはその習得をはかる努力をします。基本的な概念の理解と基礎的な計算力を身につけるための演習を行います。 授業の構成は、「解説を約60分、演習を約30分」とします。 (クラス別)			
授業計画	第 1 回	実数（第 1 章 2・2）／不等式の性質（第 2 章 2・1）／1 次不等式の解法（第 2 章 2・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 2 回	関数とグラフ（第 3 章 1・1）／2 点間の距離と内分点（第 6 章 1・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 3 回	直線の方程式（第 6 章 1・2）／円の方程式（第 6 章 2・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 4 回	平方根（第 1 章 2・3）／累乗根（第 4 章 1・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 5 回	関数の性質：対称性・平行移動・単調性（第 3 章 2・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 6 回	2 次関数〔1〕：グラフの頂点と平方完成（第 3 章 1・2 の前半） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 7 回	2 次関数〔2〕：2 次関数の決定（第 3 章 1・2 の後半） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 8 回	2 次関数〔3〕：値域と最大・最小（第 3 章 1・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 9 回	一般角（第 5 章 2・1）／一般角の三角関数（第 5 章 2・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 0 回	弧度法（第 5 章 2・3）／三角関数の性質（第 5 章 2・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 1 回	三角関数のグラフ（第 5 章 2・5）／加法定理（第 5 章 3・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 2 回	加法定理の応用（第 5 章 3・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 3 回	指数の拡張（第 4 章 1・2）／指数関数（第 4 章 1・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 4 回	対数（第 4 章 2・1）／対数関数（第 4 章 2・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 5 回	まとめと試験		

	予習：試験に備えて勉強しておく。 復習：後日返却される解答を見直し、やり直しをする。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した教科書の項目を記入したので、しっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の教科書の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみること。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	数学は自然科学分野の主要科目の1つであり、理工学を学ぶ上で必須となる重要な知識です。 特に、大学で学ぶ数学は、理工学における諸分野の内容を理解するための言語として欠かせないものです。 しかしながら、高等学校で学ぶ数学と大学で学ぶ数学との間には大きな溝が存在しています。 この溝を円滑に乗り越えるための橋渡しの必要性が、従来以上に増加しています。 『解析入門』はその橋渡しとなる科目であり、主に、解析学の基礎となる事項を習得し計算力を養うための科目です。 (1) 基本的な計算能力を養成する。(学習・教育目標：③) (2) 初等関数を習得し、自然科学や工学の基礎能力を養成する。(学習・教育目標：③)
教科書	『新基礎数学』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書
参考書	『新基礎数学 問題集』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 『これだけはおさえておきたい理工系の基礎数学』 北原直人 ほか4名 共著 実教出版 『カラー版 忘れてしまった高校の数学を復習する本』 柳谷晃 著 中経出版 『もういちど読む数研の高校数学 第1集』 岡部恒治・数研出版編集部 共著 数研出版 『もういちど読む数研の高校数学 第2集』 岡部恒治・数研出版編集部 共著 数研出版
評価基準及び成績 評価方法	期末試験及び提出課題・演習等の結果を総合して評価します。 期末試験を約70%、提出課題・演習等を約30%で評価し、合計の60%以上を合格とします。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 提出課題は、採点後に返却し、達成度を伝達します。 各回の演習については、その場で問題点を指摘し、訂正してもらい、達成度を伝達します。 期末試験は、採点後に返却し、達成度を伝達するようにします。 ◎達成度評価 (100)③自然科学の理解
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂1Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。
	○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認にして下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：微分積分Ⅰ

英文科目名称：Calculus Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
川島俊雄，橋本哲，				
自然科学				

授業概要	本授業では、1 変数関数の微分・積分の基礎について学習します。 特に、工学で用いられることが多い初等関数（整関数、指数・対数関数、三角関数など）の微分を学びます。 また、定積分を定義し、不定積分の概念を学びます。 この授業では、基本的な概念の理解と基礎的な計算力を身につけるための演習を行います。 授業の構成は、「解説を約60分、演習を約30分」とします。 （クラス別）			
授業計画	第 1 回	数列・等差数列・等比数列・いろいろな数列の和（参考書③ 第 7 章 2・1，2・2，2・3，2・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 2 回	数列と極限（参考書① 第 1 章 § 1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 3 回	関数と極限（参考書① 第 1 章 § 2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 4 回	連続関数・いろいろな関数の極限（参考書① 第 1 章 § 3；第 3 章 § 7 § 10） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 5 回	微分係数と導関数（参考書① 第 2 章 § 4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 6 回	微分の線形性・積の微分・商の微分・合成関数の微分（参考書① 第 2 章 § 5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 7 回	逆関数の微分・パラメータ表示された関数の微分（参考書① 第 2 章 § 6） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 8 回	指数関数・対数関数・三角関数の微分法（参考書① 第 3 章 § 8 § 10） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 9 回	逆三角関数とその微分法（参考書① 第 3 章 § 11） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 10 回	微分法の演習（参考書① 第 1 章 § 1～ 第 3 章 § 11） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 11 回	定積分の定義（参考書① 第 5 章 § 19） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 12 回	微分積分学の基本定理（参考書① 第 5 章 § 20） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 13 回	簡単な関数の不定積分（参考書① 第 6 章 § 21） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 14 回	積分法の演習（参考書① 第 5 章 § 19，§ 20；第 6 章 § 21） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 15 回	まとめと試験		

	予習：試験に備えて勉強しておく。 復習：後日返却される解答を見直し、やり直しをする。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した項目をしっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみること。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を充分に高めておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	理工学の諸分野において観測される現象の多くは、微分積分学を用いて記述されています。 近年、これまで関連性の薄いとされてきた社会科学の分野にまで、微分積分学は活用の版図を拡げています。 この先、理工学の諸分野において、微分積分学は今まで以上に活躍し、必要とされていきます。 したがって、工学を学ぶ者には、『微分積分Ⅰ』は必ず習得してもらいたい科目です。 (1) 微分を考え方を理解し、基本的な計算力を身につける。(学習・教育目標：③) (2) 積分を考え方を理解し、基本的な計算力を身につける。(学習・教育目標：③) (3) 自然科学の学習を通じて、技術革新の一翼を担いうる基礎的な学力と技術を習得する。(学習・教育目標：③)
教科書	各クラスの担当教員が指定する。
参考書	①『理工系入門 微分積分』 石原繁・浅野重初 共著 裳華房 ②『新微分積分Ⅰ』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ③『新基礎数学』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ④『微分積分』 高坂良史・高橋雅朋・加藤正和・黒木場正城 共著 学術図書 ⑤『微分積分学入門』 藤本敦夫 著 培風館
評価基準及び成績 評価方法	期末試験及び提出課題・演習等の結果を総合して評価します。 期末試験を約70%、提出課題・演習等を約30%で評価し、合計の60%以上を合格とします。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 提出課題は、採点後に返却し、達成度を伝達します。 各回の演習については、その場で問題点を指摘し、訂正してもらい、達成度を伝達します。 期末試験は、採点後に返却し、達成度を伝達するようにします。 ◎達成度評価 (100)③自然科学の理解
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂1Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認にして下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：微分積分Ⅱ

英文科目名称：Calculus 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
森下和彦, 川島俊雄,				
自然科学				

授業概要	本授業では、1 変数関数の微分・積分の応用について学習します。 『微分積分Ⅰ』で学んだ微分について、その応用（平均値の定理、テイラー展開、曲線の概形など）を学びます。 また、積分の計算方法（置換積分法と部分積分法）と応用（広義積分、面積・体積・長さなど）を学びます。 この授業では、いろいろな応用を理解し、活用するための演習を行います。 授業の構成は、「解説を約60分、演習を約30分」とします。 （クラス別）			
授業計画	第 1 回	順列と組合せ・二項定理（参考書③ 第 7 章 § 2・2, § 2・3, § 2・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 2 回	微分公式の復習（参考書① 第 2 章 § 4, § 5；第 3 章 § 8, § 10, § 11） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 3 回	n 次導関数・ライプニッツの定理（参考書① 第 3 章 § 12, 発展 B） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 4 回	平均値の定理（参考書① 第 4 章 § 13） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 5 回	不定形の極限（参考書① 第 4 章 § 14） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 6 回	テイラーの定理・テイラー展開（参考書① 第 4 章 § 15, § 16） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 7 回	関数の値の変化（参考書① 第 4 章 § 17） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 8 回	曲線の概形・極座標（参考書① 第 4 章 § 18） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 9 回	置換積分法・部分積分法（参考書① 第 6 章 § 22, § 23） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 10 回	有理関数の積分（参考書① 第 6 章 § 24） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 11 回	三角関数の有理式の積分・無理関数の積分（参考書① 第 6 章 § 25, § 26） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 12 回	定積分の計算（参考書① 第 7 章 § 27） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 13 回	広義積分（参考書① 第 7 章 § 28） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 14 回	面積・体積・曲線の長さ（参考書① 第 7 章 § 29） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 15 回	まとめと試験		

	予習：試験に備えて勉強しておく。 復習：後日返却される解答を見直し、やり直しをする。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した項目をしっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみること。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する科目の位置付け	理工学の諸分野において観測される現象の多くは、微分積分学を用いて記述されています。 近年、これまで関連性の薄いとされてきた社会科学の分野にまで、微分積分学は活用の版図を広げています。 この先、理工学の諸分野において、微分積分学は今まで以上に活躍し、必要とされていきます。 したがって、工学を学ぶ者には、『微分積分Ⅱ』は必ず習得してもらいたい科目です。 (1) 微分の応用を理解し、それらを問題解決に適用出来る能力を身につける。(学習・教育目標：③) (2) 積分の考え方を理解し、基本的な計算力を身につける。(学習・教育目標：③) (3) 積分の応用を理解し、それらを問題解決に適用出来る能力を身につける。(学習・教育目標：③) (4) 自然科学の学習を通じて、技術革新の一翼を担うる応用力と技術を習得する。(学習・教育目標：③)
教科書	各クラスの担当教員が指定する。
参考書	①『理工系入門 微分積分』 石原繁・浅野重初 共著 裳華房 ②『新微分積分Ⅰ』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ③『新基礎数学』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ④『微分積分』 高坂良史・高橋雅朋・加藤正和・黒木場正城 共著 学術図書 ⑤『微分積分学入門』 藤本敦夫 著 培風館
評価基準及び成績評価方法	期末試験及び提出課題・演習等の結果を総合して評価します。 期末試験を約70%、提出課題・演習等を約30%で評価し、合計の60%以上を合格とします。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 提出課題は、採点後に返却し、達成度を伝達します。 各回の演習については、その場で問題点を指摘し、訂正してもらい、達成度を伝達します。 期末試験は、採点後に返却し、達成度を伝達するようにします。 ◎達成度評価 (100)③自然科学の理解
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂１Ｆに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：微分積分Ⅲ

英文科目名称：Calculus 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	2 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
川島俊雄，森下和彦				
自然科学				

授業概要	微分積分Ⅰ、微分積分Ⅱでは1変数関数の微分・積分について学習しました。 微分積分Ⅲでは、複数の独立変数で表される関数（多変数関数）の微分・積分について学習します。 本講義では、主に2変数の場合の微分（偏微分・全微分）や積分（重積分）を学習します。 多変数関数は応用面でも重要であり、様々な場面で登場します。 例えば、位置と時刻で定まる値がある場合に、それを位置と時刻を独立変数とする多変数関数と考えることが出来ます。 本授業では、多変数関数の微分・積分の概念を理解し、問題の解決に応用出来る能力を養うことを目標とします。 そのために、あわせて演習も行い、基本的に講義60分＋演習30分の構成で授業を行います。		
授業計画	第1回	2変数関数と極限值 予習：1変数関数の極限について復習しておく。 復習：2変数関数のグラフ、極限値の求め方を復習する。	
	第2回	偏微分 予習：1変数関数の微分係数の意味、導関数の計算法の復習をしておく。 復習：2変数関数の偏微分の計算法を復習する。	
	第3回	接平面と全微分 予習：数学2を履修した人は空間ベクトルに関する内容の復習をしておく。 復習：接平面が存在する曲面のもつ性質について復習する。	
	第4回	合成関数の微分法 予習：1変数の合成関数の微分法について復習しておく。 復習：1変数関数の場合との相違に留意し、合成関数の導関数について復習する。	
	第5回	高次偏導関数 予習：1変数関数の高次導関数について復習しておく。 復習：2変数関数の高次偏導関数の計算法を復習する。	
	第6回	マクローリンの定理 予習：1変数関数に対するマクローリンの定理を復習しておく。 復習：具体的な2変数関数に対してマクローリンの定理を適用して計算を行う。	
	第7回	関数の極値 予習：1変数関数の極値の求め方について復習しておく。 復習：2変数関数の極値の求め方、計算法について復習する。	
	第8回	偏微分法についての演習 予習：これまでに学んだ内容について復習しておく。 復習：演習問題を再度解き、知識を確実なものにする。	
	第9回	重積分の考え方 予習：1変数関数の定積分の定義を復習しておく。 復習：2変数関数の重積分の定義について復習する。	
	第10回	累次積分と積分順序の変更 予習：1変数関数の積分の計算法を復習しておく。 復習：2変数関数の積分の累次積分による計算法、積分順序の変更について復習する。	
	第11回	変数変換とヤコビアン 予習：1変数関数の置換積分法を復習しておく。 復習：2変数関数の変数変換の方法と計算法について復習する。	
	第12回	重積分の応用 予習：1変数関数の定積分法の応用について復習しておく。 復習：空間図形の曲面積、体積の求め方など重積分の応用について計算法も含めて復習する。	
	第13回	広義積分 予習：1変数関数の広義積分について復習しておく。 復習：2変数関数の広義積分の計算法と応用について復習する。	
	第14回	総合演習 予習：2変数関数の微分法、積分法について復習しておく。 復習：総合演習で出題された演習問題を再度解き、知識を確実なものにする。	
	第15回	期末試験と解説 予習：総合演習で出題された問題を復習しておく。 復習：試験問題を再度解き、知識を確実なものにする。	
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した項目をしっかりと読んでくこと。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみること。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。		
教育目標に対する 科目の位置付け	理工学の諸分野において観測される現象の多くは、微分積分学を用いて記述されています。 近年、これまで関連性の薄いとされてきた社会科学の分野にまで、微分積分学は活用の版図を拡げています。 この先、理工学の諸分野において、微分積分学は今まで以上に活躍し、必要とされていきます。 したがって、工学を学ぶ者には、『微分積分Ⅲ』は出来るだけ習得してもらいたい科目です。		

	(1) 偏微分の考え方を理解し、基本的な計算力を身につける。(学習・教育目標：③) (2) 重積分の考え方を理解し、基本的な計算力を身につける。(学習・教育目標：③) (3) 自然科学の学習を通じて、技術革新の一翼を担いうる基礎的な学力と技術を習得する。(学習・教育目標：③)
教科書	担当教員が指定する。
参考書	①『理工系入門 微分積分』 石原繁・浅野重初 共著 裳華房 ②『新微分積分Ⅰ』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ③『新微分積分Ⅱ』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ④『新基礎数学』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ⑤『微分積分』 高坂良史・高橋雅朋・加藤正和・黒木場正城 共著 学術図書 ⑥『微分積分学入門』 藤本敦夫 著 培風館
評価基準及び成績 評価方法	◎評価基準 この授業を通じて到達すべきポイントは、偏微分、重積分の概念を理解し、正確に計算ができることである。 ◎成績評価方法 期末試験の成績を70点に換算する。演習の結果を30点に換算する。それらの合計を評価点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	小テスト、期末試験の答案用紙を返却して、達成度を伝えます。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (100) ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂１Ｆに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：線形代数入門

英文科目名称：Introduction to linear Algebra

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
川島俊雄，森下和彦，橋本哲				
自然科学				

授業概要	本授業では、数の計算規則の復習から始め、ベクトル、行列について学びます。 一つの数を扱うのではなく、複数の数を同時に取り扱う方法があることについて学びます。 数の演算規則と行列の演算規則には似ている点もあるが、異なる点もあることについて学びます。 この授業では、基本的な概念の理解と基礎的な計算力を身につけるための演習を行います。 授業の構成は、「解説を約60分、演習を約30分」とします。 (クラス別)			
授業計画	第 1 回	実数と数直線・絶対値・集合（参考書② 第 1 章 § 2 2・2；第 2 章 § 2 2・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 2 回	平面ベクトルの定義と演算（第 1 章 1・1, 1・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 3 回	ベクトルの演算と位置ベクトル（第 1 章 1・2 1・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 4 回	位置ベクトルとベクトルの成分（第 1 章 1・3 1・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 5 回	ベクトルの内積（第 1 章 1・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 6 回	複素数とその演算（プリントを配付） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 7 回	複素数平面と極形式（プリントを配付） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 8 回	空間ベクトルの基本事項（第 2 章 2・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 9 回	直線と平面の方程式（第 2 章 2・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 0 回	外積（第 2 章 2・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 1 回	行列の定義と演算（第 3 章 3・1 3・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 2 回	行列の演算に関する性質（第 3 章 3・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 3 回	ブロック分割による計算（第 3 章 3・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 4 回	正方行列（第 3 章 3・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 5 回	まとめと試験		

	予習：試験に備えて勉強しておく。 復習：後日返却される解答を見直し、やり直しをする。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した教科書の項目を記入したので、しっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の教科書の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみること。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する科目の位置付け	線形代数学は、数学全般に应用される重要な基礎理論の1つです。 また、自然科学、社会科学、情報科学、工学の諸分野においても、理論とモデルを構築するために広く用いられます。 したがって、工学を学ぶ者にとって、『線形代数入門』は必須の科目です。 (1) ベクトルの概念を理解し、基本的な計算能力を身につける。(学習・教育目標：③) (2) 行列の概念を理解し、基本的な計算能力を身につける。(学習・教育目標：③) (3) 自然科学の学習を通じて、技術革新の一翼を担いうる基礎的な学力と技術を習得する。(学習・教育目標：③)
教科書	『線形代数』 川島俊雄 著 森北出版
参考書	①『新線形代数』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ②『新基礎数学』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ③『線形代数学講義（改訂版）』 対馬龍司 著 共立出版 ④『基礎線形代数』 菅原昭博 著 横浜図書
評価基準及び成績評価方法	期末試験及び提出課題・演習等の結果を総合して評価します。 期末試験を約70%、提出課題・演習等を約30%で評価し、合計の60%以上を合格とします。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 提出課題は、採点後に返却し、達成度を伝達します。 各回の演習については、その場で問題点を指摘し、訂正してもらい、達成度を伝達します。 期末試験は、採点後に返却し、達成度を伝達するようにします。 ◎達成度評価 (100)③自然科学の理解
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂1Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：線形代数Ⅰ

英文科目名称：Linear Algebra Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
川島俊雄，森下和彦，				
自然科学				

授業概要	本授業では、連立 1 次方程式の掃出し法を用いた解法、行列の性質、行列式の定義とその性質について学びます。特に、連立 1 次方程式の解と係数行列との関係、行列式を用いた逆行列の公式及びクラメル公式について学びます。この授業では、基本的な概念の理解と基礎的な計算力を身につけるための演習を行います。 授業の構成は、「解説を約60分、演習を約30分」とします。 (クラス別)			
授業計画	第 1 回	掃き出し計算法（第 5 章 5・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 2 回	行列の階数（第 5 章 5・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 3 回	行列の階数と連立 1 次方程式の解（第 5 章 5・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 4 回	表による計算（第 5 章 5・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』や『数学学習相談室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 5 回	逆行列の計算（第 5 章 5・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 6 回	同次形の連立 1 次方程式（第 5 章 5・6） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 7 回	第 5 章のまとめと演習（第 5 章） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 8 回	順列の符号（第 6 章 6・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 9 回	行列式の定義（第 6 章 6・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 0 回	行列式の性質（第 6 章 6・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 1 回	行列式の計算（第 6 章 6・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 2 回	行列の積の行列式（第 6 章 6・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 3 回	行列式の応用（第 6 章 6・6） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 4 回	第 6 章のまとめと演習（第 6 章） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 5 回	まとめと試験 予習：試験に備えて勉強しておく。		

	復習：後日返却される解答を見直し、やり直しをする。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した教科書の項目を記入したので、しっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の教科書の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみることに。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する科目の位置付け	線形代数学は、数学全般に応用される重要な基礎理論の1つです。 また、自然科学、社会科学、情報科学、工学の諸分野においても、理論とモデルを構築するために広く用いられます。 したがって、工学を学ぶ者にとって、『線形代数Ⅰ』は必須の科目です。 (1) 連立1次方程式の掃出し法を用いた解法を理解し、掃出し法を習得する。(学習・教育目標：③) (2) 行列の階数と正則性を理解し、行基本変形を用いて行列の階数を求めることが出来る。(学習・教育目標：③) (3) 行列式の性質を理解し、逆行列を用いて逆行列や連立方程式の解を求めることが出来る。(学習・教育目標：③)
教科書	『線形代数』 川島俊雄 著 森北出版
参考書	①『新線形代数』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ②『線形代数学講義（改訂版）』 対馬龍司 著 共立出版 ③『基礎線形代数』 菅原昭博 著 横浜図書
評価基準及び成績評価方法	期末試験及び提出課題・演習等の結果を総合して評価します。 期末試験を約70%、提出課題・演習等を約30%で評価し、合計の60%以上を合格とします。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 提出課題は、採点後に返却し、達成度を伝達します。 各回の演習については、その場で問題点を指摘し、訂正してもらい、達成度を伝達します。 期末試験は、採点後に返却し、達成度を伝達するようにします。 ◎達成度評価 (100)③自然科学の理解
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂1Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は年度初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは年度初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：線形代数Ⅱ

英文科目名称：Linear Algebra 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	2 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
川島俊雄				
自然科学				

授業概要	線形代数入門、線形代数Ⅰでは線形代数学の前半部分に当たる、ベクトル、行列、行列式等について学習しました。線形代数Ⅱでは、線形代数学の後半部分に当たる、ベクトル空間、線形写像、固有値・固有ベクトル等を学習します。本講義では、線形代数学の抽象的概念を理解し、それらを問題の解決に応用する能力を養うことを目標とします。そのために、あわせて演習も行い、基本的に講義60分＋演習30分の構成で授業を行います。			
授業計画	第 1 回	行列の計算と行列式の復習（第 2 章と第 3 章） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 2 回	線形変換の定義（第 4 章 1・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 3 回	線形変換の基本性質（第 4 章 1・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 4 回	合成変換と逆変換（第 4 章 1・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 5 回	回転を表す線形変換（第 4 章 1・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 6 回	直行行列と直行変換（第 4 章 1・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 7 回	線形変換に関するまとめと演習（第 4 章 第 1 節） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 8 回	固有値と固有ベクトル（第 4 章 2・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 9 回	固有値と固有ベクトルの計算（第 4 章 2・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 0 回	行列の対角化（第 4 章 2・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 1 回	対角化可能条件（第 4 章 2・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 2 回	対称行列の直交行列による対角化（第 4 章 2・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 3 回	対角化の応用（第 4 章 2・6） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 4 回	固有値とその応用のまとめと演習（第 4 章第 2 節） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 1 5 回	期末試験と解説 予習：試験に備えて勉強しておく。 復習：後日返却される解答を見直し、やり直しをする。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		

準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した教科書の項目を記入したので、しっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の教科書の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみることに。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する科目の位置付け	線形代数学は、数学全般に応用される重要な基礎理論の1つです。 また、自然科学、社会科学、情報科学、工学の諸分野においても、理論とモデルを構築するために広く用いられます。 したがって、工学を学ぶ者にとって、『線形代数Ⅱ』は学習すべき科目です。 (1) 行列と線形変換との関係を理解する。(学習・教育目標：③) (2) 固有値・固有ベクトルを理解し、それらを求められるように計算能力を養う。(学習・教育目標：③) (3) 抽象的な概念を理解し、それらを問題の解決に応用する能力を養う。(学習・教育目標：③)
教科書	『新線形代数』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書
参考書	①『線形代数学講義（改訂版）』 対馬龍司 著 共立出版 ②『基礎線形代数』 菅原昭博 著 横浜図書
評価基準及び成績評価方法	◎評価基準 この授業を通じて到達すべきポイントは、行列と一次変換との関係、固有値・固有ベクトルの概念を理解し、正確に計算ができることである。 ◎成績評価方法 期末試験の成績を70点に換算する。演習の結果を30点に換算する。それらの合計を評価点とする。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 小テスト、期末試験の答案用紙を返却して、達成度を伝えます。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (100) ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂1Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：物理入門

英文科目名称：Introduction to Physics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
高橋大輔, 朝光敦, 新高誠司				
自然科学				

授業概要	本講義は工学全分野の基礎となる「力学」を系統立てて学ぶための基礎学力構築を目標として開講される。本講義では①数量の取り扱いと単位、②運動を考察する際基本となる「変位・速度・加速度」の概念、③スカラー量とベクトル量およびベクトルの表現方法を学ぶ。演習問題を自らの力で解くことで、確実に知識を身につけることを主眼にした授業を実施する。主要な例題を授業中に解説し、付随した演習問題はレポート課題として提出する。演習問題の解答については、主にプリントの配布で行う。（クラス別）			
授業計画	第1回 物理量について：スカラー量とベクトル量 （予習）物理量とは何かについて調べておく。 （復習）代表的な物理量をスカラー量、ベクトル量に理由とともに分けられるようにする。 第2回 運動学（1）：変位と長さおよび速度と速さ （予習）一次関数における傾き、切片の考え方を復習しておく。 （復習）変位を時間で描いたグラフの傾きの意味を単位とともに確認し理解を深める。 第3回 運動学（2）：速度図より加速度を求める （予習）一次関数における傾き、切片の考え方を再度復習する。 （復習）速度、加速度の単位とその意味を説明できるようにする。 第4回 運動学（3）：速度図より変位を求める （予習）三角形および台形の面積の公式を復習しておく。 （復習）変位と速度、および加速度の単位の意味を再確認し、理解を深めておく。 第5回 運動学（4）：微分法の概念と計算法 （予習）第3回の講義内容（特に「傾き」の求め方と意味）を十分復習する。 （復習）二次関数までの微分は確実にできるようにする。 第6回 運動学（5）：積分法（区分求積法）の概念と計算法 （予習）第5回の講義内容（特に「面積」の求め方と意味）を十分復習する （復習）二次関数までの積分は確実にできるようにする。 第7回 運動学（6）：微・積分を用いた運動学の整理 1 （予習）第2から6回までの内容の整理を十分に行う （復習）変位・速度・加速度の関係を「微分」を用いて整理できるようにする。 第8回 運動学（7）：微・積分を用いた運動学の整理 2 （予習）第2から6回までの内容の整理を十分に行う （復習）変位・速度・加速度の関係を「積分」を用いて整理できるようにする。 第9回 力とベクトル（1）：ベクトルの概念とベクトルの合成・分解 （予習）平行四辺形の定義について調べる。 （復習）作図によりベクトルを合成・分解できるようにする。 第10回 力とベクトル（2）：デカルト座標系での成分表示 （予習）デカルト直交座標について調べる。三平方の定理を復習する。 （復習）ベクトルを直交座標系で成分に分解できるようにし、その大きさを求められるようにする。 第11回 力とベクトル（3）：三角比を用いたベクトルの成分表示 （予習）高校で学習した三角比を十分復習しておく。 （復習）ベクトルの大きさと三角比を用いた成分表記法ができるようにする。 第12回 力とベクトル（4）：力のつり合い I （予習）第11回の講義内容および一次方程式を復習する。 （復習）特に2力のつり合いを中心に理解を十分する。 第13回 力とベクトル（5）：力のつり合い II （予習）第11回の講義内容および一次方程式を復習する。 （復習）特に2力のつり合いを中心に理解を十分する。 第14回 まとめと試験 （予習）これまでの講義内容およびレポート課題を十分復習する （復習）試験において不正解の問題は必ずノートおよび演習問題を参考に復習を十分行う。 第15回 発展項目：運動の法則 （予習）これまでの講義内容を整理する。 （復習）運動の3法則（慣性・運動・作用反作用の法則）を整理し、理解する。			
準備学習の内容	配布資料を基に、都度指示を行う。			
教育目標に対する 科目の位置付け	(1) 工学全分野に共通した基礎的物理量を理解し、その取り扱いを身につける (学習・教育目標3)【自然科学の理解】 (2) レポート課題をとおり、自主学習の習慣の定着をはかり、自ら考える姿勢を身につける。 (学習・教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】			
教科書	物理研究室で編纂する教科書および配布資料。			
参考書	「よくわかる初等力学」 前野昌弘 東京図書 「物理学入門I.力学」 市村宗武、狩野寛 東京化学同人			
評価基準及び成績 評価方法	原則として、評価基準（1）レポート課題の提出による平常点評価：35点、（2）期末試験結果：65点とし、レポートを全て提出した上で合計が60点以上を合格とする。レポートは提出指定期日からの遅延は認めない。また、独自の考えが表現されていないレポートに関しては提出と認めない。 この授業を通じて到達すべきポイントは以下の3点である。[A] 問題とする物理量に応じた単位の換算ができる。[B] 運動学の基			

	本物理量（変位・速度・加速度）を時間軸に対して表現でき、加えて、線形関数の微積分を計算できる。[C] ベクトルを直交座標系で成分表示し、3力のつり合いを連立方程式を立てて解くことができる。 期末試験問題はレポート課題を基に、概ね [A] を20%, [B] を45%, [C] を55%の割合で構成する。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 レポート課題および期末試験を採点後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (70) ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (30) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	物理研究室では物理関連科目（物理入門、力学IおよびII、応用物理学IおよびII、総合科学実験、自然科学D）の学習相談室を開設しています。各教員の相談時間は2305室：物理学習相談室前に掲示しますので、確認してください。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 力学 I

英文科目名称： Mechanics 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	3 単位	選択	講義＋演習
担当教員				
新高誠司, 高橋大輔, 朝光敦				
自然科学				

授業概要	物理学は様々な工学と深く結びついています。力学はその物理学の基礎です。力学Iでは質点の力学（力と運動）を学習します。初めに、ニュートンの運動法則、運動方程式、基本的な運動の解法・考察を学び、次に、仕事とエネルギー、力積と運動量、保存則という考え方とその有用性を学びます。学習した内容は、演習問題に取り組むことによって理解が深まり確実な知識となります。（クラス別）			
授業計画	第1回	ガイダンス 数学の準備 （予習）これまでに学習した物理における力学を復習しておくこと。 （復習）講義で扱った問題が解答できるようにしておくこと。		
	第2回	質点に作用する様々な力と力のつり合い （予習）教科書の力とベクトルの章を読んでおくこと。ベクトルの計算について復習しておくこと。 （復習）力のつり合いをベクトルの計算を用いて議論できるようにしておくこと。		
	第3回	運動学 1（2・3次元運動における位置、変位、速度、加速度） （予習）教科書の運動学の章を読んでおくこと。多項式の微分について復習しておくこと。 （復習）位置の時間依存性から変位、速度、加速度が求められるようにしておくこと。		
	第4回	運動学 2（位置、速度、加速度の関係） （予習）多項式の積分について復習しておくこと。 （復習）位置、速度、加速度の時間依存性の相互関係について理解しておくこと。		
	第5回	運動の 3 法則と万有引力の法則 （予習）教科書の運動の法則の章を読んでおくこと。 （復習）教科書の運動の法則の章の例題を解いて法則に関する理解を深めること。		
	第6回	運動方程式の解法 （予習）教科書の力と運動の章を読み、第 4 回の講義内容を十分に復習しておくこと。 （復習）運動方程式の解法の手順を理解しておくこと。		
	第7回	運動方程式の解法による運動の考察 1（自由落下運動、鉛直投げ上げ運動） （予習）教科書の落下運動の部分を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。		
	第8回	運動方程式の解法による運動の考察 2（放物運動、水平投射運動） （予習）教科書の一定の力を受ける平面の運動の節を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。		
	第9回	運動方程式の解法による運動の考察 3（なめらかな斜面上の運動） （予習）教科書の斜面上での運動の部分を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。		
	第10回	運動方程式の解法による運動の考察 4（粗い水平面上における物体の運動） （予習）教科書の摩擦力による運動の部分を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。		
	第11回	運動方程式の解法による運動の考察 5（粗い斜面上における物体の運動） （予習）第 9 回、第 1 0 回の講義内容を復習しておくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。		
	第12回	運動方程式の解法による運動の考察 6（ばねにとりつけられた物体の周期的運動） （予習）教科書のフックの法則に従うバネから力を受ける物体の運動の節を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。		
	第13回	運動方程式の解法による運動の考察 7（流体中を抵抗を受けながら運動する物体の運動） （予習）教科書の速度に依存する抵抗力と自由落下の節を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。		
	第14回	運動方程式の解法による運動の考察 8（ひもなどで連結した二物体の運動） （予習）教科書の運動の法則の章の章末問題に目を通しておくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。		
	第15回	まとめと中間試験 （予習）これまでの講義内容を復習すること。 （復習）試験問題を再度解答し十分に復習すること。		
	第16回	中間試験の解説・解答と発展 （予習）試験でできなかった箇所をテキストおよび講義ノートで復習すること。 （復習）不正解であった問題が解けるように十分に復習すること。		
	第17回	力のする仕事 （予習）教科書の仕事の節を読んでおくこと。 （復習）仕事の計算方法を理解しておくこと。		
	第18回	物体の運動エネルギー、保存力と物体の位置エネルギー （予習）教科書の運動エネルギー、位置エネルギーの節を読んでおくこと。 （復習）運動・位置エネルギーの定義を理解しておくこと。		
	第19回	仕事とエネルギーの関係 （予習）教科書の運動エネルギーの節を読んでおくこと。 （復習）仕事を受けた物体の速度の変化について考察ができるようにしておくこと。		
	第20回	力学的エネルギーの保存則 1（重力による位置エネルギーが関与する場合）		

	(予習)教科書の力学的エネルギー保存則の章を読んでおくこと。 (復習)講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。 第21回 力学的エネルギーの保存則 2 (ばねの弾性エネルギーが関与する場合) (予習)教科書の力学的エネルギー保存則の応用の節を読んでおくこと。 (復習)講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。 第22回 力積と運動量 (予習)教科書の運動量と力積の節を読んでおくこと。 (復習)力積と運動量の定義を理解しておくこと。 第23回 運動量保存の法則 (予習)教科書の運動量の変化と力積、物体の衝突と運動量保存の法則の節を読んでおくこと。 (復習)運動量保存の法則が成立する条件を理解しておくこと。 第24回 はねかえり係数 (予習)教科書のはねかえり係数の節を読んでおくこと。 (復習)はねかえり係数と運動量保存の法則を用いて衝突運動が考察できるようにしておくこと。 第25回 2次元での球の衝突 (予習)教科書の運動量と衝突問題の章の章末問題に目を通しておくこと。 (復習)講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。 第26回 極座標における運動の表示と運動方程式 (予習)教科書の力と運動 その2の付録を読んでおくこと。 (復習)極座標における運動方程式の表現を導出できるようにしておくこと。 第27回 振り子の運動 (予習)教科書の振り子の運動の節を読んでおくこと。 (復習)講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。 第28回 等速円運動と角運動量と力のモーメント (予習)教科書の等速円運動の節を読んでおくこと。 (復習)角運動量と力のモーメントの定義を理解しておくこと。 第29回 まとめと期末試験 (予習)これまでの講義内容を復習すること。 (復習)試験問題を再度解答し十分に復習すること。 第30回 期末試験の解説・解答と発展 (予習)試験でできなかった箇所をテキストおよび講義ノートで復習すること。 (復習)不正解であった問題が解けるように十分に復習すること。
準備学習の内容	
教育目標に対する科目の位置付け	◎学習・教育目標に対する科目の位置付け (1) 専門工学科目の履修において基礎となる質点の力学を習得・養成する。 (学習・教育目標3)【自然科学の理解】 (2) 例題演習を通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を身につける。 (学習・教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】 講義時間：(1) 20回、(2) 10回
教科書	物理研究室で編纂する教科書
参考書	「力学」 原島 鮮 裳華房 「よくわかる初等力学」 前野昌弘 東京図書 「考える力学」 兵頭俊夫 学術図書出版社 「物理学入門I.力学」 市村宗武、狩野覚 東京化学同人 「力学」 副島雄児、杉山忠男 講談社
評価基準及び成績評価方法	◎評価基準および成績評価方法 評価については、学習・教育目標(1)を中間・期末試験で、学習・教育目標(2)を演習とレポートでそれぞれ評価する。評価の割合は、(1)を70%、(2)を30%とし、60点以上を合格とする。授業はいくつかのクラスに分けて行われるが、試験は全クラス共通の問題で実施する。レポートは本人の考えが反映されている場合のみ受領され、原則として課せられたすべてのレポートの受領が中間・期末試験の受験資格となる。この授業を通じて到達すべきポイントは、i)物体に加わる力を図や数式を用いて表現し運動方程式をたて、物体の加速度、速度、位置を求めることができる、ii)保存則を理解しそれを利用できる、の2つとなる。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 レポートおよび中間・期末試験を採点后に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (70) ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (30) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	物理研究室では物理関連科目(物理入門、力学IおよびII、応用物理学IおよびII、総合科学実験、自然科学D)の学習相談室を開設しています。各教員の相談時間は2305室：物理学習相談室前に掲示しますので、確認してください。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 力学Ⅱ

英文科目名称： Mechanics 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
新高誠司				
自然科学				

授業概要	力学Ⅱでは剛体の力学を学びます。初めに「剛体のつり合い」について学習しますが、重心や力のモーメントなど剛体の力学独自の概念も学びます。次に「剛体の運動」（剛体の運動方程式、固定軸のまわりの回転、剛体の平面運動）、最後に力学的エネルギー保存則や力積の考えを応用して、剛体の運動についてさらに理解を深めます。学習した内容を確実な知識とするために、演習時間が割り振られています。力学を学んで専門科目を学ぶための基礎知識や概念を身につけます。		
授業計画	第 1 回	ガイダンス 剛体、力のモーメント、ベクトルの外積 （予習）力学Ⅰの講義内容を十分に復習しておくこと。 （復習）力のモーメントの定義と具体的な計算の方法について理解しておくこと。	
	第 2 回	剛体に働く力の合成と偶力 （予習）教科書の剛体に働く力の合成の節を読んでおくこと。 （復習）作用線の定理を使用して力の合成ができるようにしておくこと。	
	第 3 回	重心（質点系と連続体の重心） （予習）教科書の重心の節を読んでおくこと。 （復習）連続体の重心を積分を用いて計算できるようにしておくこと。	
	第 4 回	剛体のつりあい 1（剛体のつりあいにおいて成立する関係式（つり合いの式）） （予習）教科書の剛体のつり合いの部分を読んでおくこと。 （復習）つり合いの式を用いることで未知の力の大きさや作用点を求めることができることを理解しておくこと。	
	第 5 回	剛体のつりあい 2（剛体のつり合いに関する身近な例） （予習）教科書の剛体のつり合いの章の章末問題に目を通しておくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。	
	第 6 回	質点系の運動（質点系の重心の運動、質点系の力のモーメントと角運動量） （予習）教科書の質点系の運動の章を読んでおくこと。 （復習）質点系の重心の位置が従う運動方程式と角運動量の時間微分が従う式を理解しておくこと。	
	第 7 回	剛体の運動エネルギー、角運動量と慣性モーメント （予習）教科書の剛体の運動（回転）エネルギーと角運動量の節を読んでおくこと。 （復習）剛体の運動エネルギー、角運動量と慣性モーメントの定義を理解しておくこと。	
	第 8 回	慣性モーメントの計算 1（平行軸の定理と薄板の定理） （予習）教科書の慣性モーメントの公式に関する部分を読んでおくこと。 （復習）慣性モーメントの計算が定理を用いることで簡便になることを理解しておくこと。	
	第 9 回	慣性モーメントの計算 2（均一な棒、板、円柱、球の慣性モーメント） （予習）教科書の慣性モーメントの計算の節を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。	
	第 1 0 回	剛体の運動方程式 （予習）教科書の回転の運動方程式の節を読んでおくこと。 （復習）剛体の回転運動の運動方程式の導出を辿れるようにしておくこと。	
	第 1 1 回	固定軸周りの剛体の運動（剛体振り子など） （予習）教科書の剛体振り子の節を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。	
	第 1 2 回	剛体の平面運動 1（粗い斜面を転がる剛体の運動など） （予習）教科書の剛体の平面運動の章を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。	
	第 1 3 回	剛体の平面運動 2（撃力による剛体の平面運動など） （予習）教科書の打撃の中心・回転中心の節を読んでおくこと。 （復習）講義内でとりあげた問題を自力で解くことができるようにしておくこと。	
	第 1 4 回	まとめと試験 （予習）これまでの講義内容を復習すること。 （復習）試験問題を再度解答し十分に復習すること。	
	第 1 5 回	試験の解説・解答と発展 （予習）試験でできなかった箇所をテキストおよび講義ノートで復習すること。 （復習）不正解であった問題が解けるように十分に復習すること。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	◎学習・教育目標に対する科目の位置付け (1) 力学Ⅰに引き続き、剛体の力学を習得・養成する。 (学習・教育目標3)【自然科学の理解】 (2) 例題演習を通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を身につける。 (学習・教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】 講義時間：(1) 10回、(2) 5回		
教科書	物理研究室で編纂する教科書		
参考書	「力学」 原島 鮮 裳華房 「よくわかる初等力学」 前野昌弘 東京図書 「考える力学」 兵頭俊夫 学術図書出版社 「物理学入門Ⅰ. 力学」 市村宗武、狩野寛 東京化学同人 「力学」 副島雄児、杉山忠男 講談社		

評価基準及び成績 評価方法	◎評価基準 剛体のつり合いの条件を理解し、それを利用できること。剛体に加わる力を図や数式を用いて表現し剛体の運動方程式をたて、剛体の運動を求めることができること。 ◎成績評価方法 成績は試験の結果を約70%、授業中の演習およびレポートの結果を約30%で評価する。評価点が60点以上を合格とする。レポートは本人の考えが反映されている場合のみ受領され、原則として課せられたすべてのレポートの受領が試験の受験資格となる。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 レポートおよび試験を採点後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (70) ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (30) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	物理研究室では物理関連科目（物理入門、力学IおよびII、応用物理学IおよびII、総合科学実験、自然科学D）の学習相談室を開設しています。各教員の相談時間は2305室：物理学習相談室前に掲示しますので、確認してください。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 化学入門

英文科目名称： Introduction to Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
加藤隆幸, 大背戸豊				
自然科学				

授業概要	化学の基礎を学ぶ「化学入門」では、化学が科学として成立するまでの1000年以上にわたる暗黒の錬金術時代を経るなどして、化学者が多大な努力をつぎ込み学問として獲得して来た周期律表や化学量論(原子量、分子量、物質量・モル)を再確認する。これにより目に見えない小さな原子や分子の質量を求めたり、また数えたりする事が可能となる重要なモル概念を理解した上で、化学量論的計算に習熟し、ミクロな世界からマクロな意味でも多大な情報を表す分子式や化学反応式を利用できる様になることを目的とする。		
授業計画	第1回	化学の歴史 -錬金術時代から得られたもの- アリストテレスの物質連続論を根拠として多くの人が非金属から「金」をつくり出せると信じ、多大の努力と時間をつぎ込んだにも係わらず、ついに金をつくり出すことは出来なかった。その結果、金をつくり出す事が化学的に不可能であることを悟るまでに約1000年を必要とした。これが錬金術であり、偉大なるあのニュートンも例外では無かった。	
	第2回	物質の分類 物質の分類 元素の分類 単体と化合物	
	第3回	元素の周期表 -物質の性質- 元素の性質と周期表の成り立ち	
	第4回	物質の構成 電子の発見 陽子の発見 原子核の確認 電子・中性子・陽子の重さ・質量欠損	
	第5回	原子量と分子量1 原子と分子の重さ	
	第6回	原子量と分子量2 原子量と分子量の定義 -モル概念(物質量)- アボガドロ定数	
	第7回	モル概念と化学式1 物質量の表し方・化学式 化学量論的表し方	
	第8回	モル概念と化学式2 化学反応式 化学量論的計算入門	
	第9回	化学結合1 イオン化エネルギーと電子親和力 イオン結合性化合物 金属結合	
	第10回	化学結合2 電気陰性度と共有結合性化合物 無極性分子と極性分子	
	第11回	酸と塩基 酸と塩基の歴史的および現代的な定義 中和反応	
	第12回	モル概念と化学反応式 -無機化合物・有機化合物- 化学反応式に基づいた化学量論計算	
	第13回	身の回りの化学と化学物質 -電池など- ボルタの電池からリチウムイオン電池まで iPhoneやハイブリッド自動車	
	第14回	定期試験および総括 物質量などの再確認 定期試験の実施	
	第15回	定期試験の解説と現代化学の社会的役割 定期試験の解説 原子力エネルギーや地球温暖化などについて、今日的なテーマを絞って化(科)学的に解説	
準備学習の内容	物質観を涵養した後、モル概念(物質量)を基礎として物質を化学式で正しく表現出来るようにし、なおかつ化学反応式を用いて化学量論的な計算が自由自在に出来るように段階を踏んで授業を進める。		
教育目標に対する科目の位置付け	化学は物質の成り立ちとその構造・性質および変化について考える学問である。この学問で得た知識が現代の快適な日常生活や産業を支えていることは周知のことである。その学問としての化学を学ぶ場合に、最初に理解しなければならないことは、物質及びその変化はすべて、物質を構成する原子の組成や分子が自然界の規則に従って変化しているということである。化学者はその規則を見出し整理するすことによって学問とし、原子・分子のレベルで目的化学反応を設計コントロールして有用な物質を生み出している。以上の事を踏まえると、化学を学ぶためにはまず、第一に原子の細部構造とそれに起因する分子構造と特性を理解する必要があるが、これらは後期に開設される化学Iで詳しく学ぶことにする。前期設置の本「化学入門」では化学Iの準備段階として、暗黒の錬金術時代を経て人類が獲得して来た周期律(表)や価数の概念、また目に見えない小さな原子や分子の数を数え、さらにその質量を求める方法である化学量論を再確認し、ミクロな世界からマクロな世界までを表現する化学反応(式)と化学計算を理解し習熟することを目的とする。		
教科書	物質科学の基礎としての「化学入門」、学術出版社		

参考書	
評価基準及び成績 評価方法	1) 授業の進行に合わせた小テスト・レポートなどを30%、2) 定期試験の結果を70%とし、1) と2) の合計が60点(%)以上を合格とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	授業の進行に合わせた小テスト・レポートなどを解説するとともに、定期試験の結果の伝達とその解説等により行う。
資格情報	
オフィスアワー	月曜日4コマ目
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 化学 I

英文科目名称： Chemistry 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
加藤隆幸, 大背戸豊				
自然科学				

授業概要	物質を理解するために必須な基礎知識として、原子の構造や分子とその性質について詳細に学ぶ。これにおいては、原子の電子構造から原子(元素)の性質までが原子の電子配置で決まることを少し詳しく学び、これを基に元素(原子)の化学的性質、元素の周期律、分子の化学結合の種類と分子の性質、立体的構造およびその構造に立脚した物性などについて学習する。特に学習内容としては、電子の発見から前期量子論を出発点とし数学的な取り扱いや物理的な計算をある程度必要とするので、その都度、式の意味や数値計算また単位換算などについても解説してゆく。このように原子の電子構造とこれによる化学結合の多様性と分子の性質とを良く理解し、ひいては身近な化学物質の性質などについても理解できるように進める。		
授業計画	第 1 回	物質観の変遷と化学の歴史 アリストテレスの物質連続説を根拠とした錬金術の失敗から得た教訓が、化学をして自然科学として成立して来た歴史を紐解き、成立した現代化学の意義と重要性を理解する。	
	第 2 回	電子と陽子の発見 原子の質量と原子量、分子量 元素の表し方（元素記号と原子番号他）	
	第 3 回	物質量（モル概念） アボガドロ定数と化学量論的計算	
	第 4 回	原子の構造 1： 原子の電子構造 古典力学によるボーアの水素原子模型(等速円運動の力のつり合いとエネルギー) 水素の原子スペクトルとリドベルグ定数（スペクトルの波長と振動数の関係）	
	第 5 回	原子の構造 2： 電子の粒子性と波動性 シュレーディンガー-の波動方程式(前期量子論) 4つの量子数(主量子数、方位量子数、磁気量子数、スピン量子数)	
	第 6 回	原子の電子配置： 4 つの量子数と電子配置 電子軌道と電子配置、パウリの排他原理、フントの規則、原子軌道のエネルギー準位	
	第 7 回	元素周期律の発見と電子配置 元素の性質、メンデレーフの周期律表と現代の周期律表 電子配置とその演習問題	
	第 8 回	イオン結合 原子半径、イオン半径 イオン化エネルギー、電子親和力 イオン結合と化合物 無機化合物	
	第 9 回	共有結合1 原子価結合法、単結合、2重結合、3重結合、極限構造式	
	第 1 0 回	共有結合2 分子軌道法、結合性分子軌道、反結合性分子軌道	
	第 1 1 回	酸素分子の分子軌道、窒素分子の分子軌道、結合の極性 σ 結合、 π 結合	
	第 1 2 回	分子の構造 共有結合の方向性、電気陰性度 sp, sp ² , sp ³ 混成軌道 極性分子、無極性分子、無機化合物、有機化合物	
	第 1 3 回	配位結合と配位化合物 アンモニア、アンモニウムイオン、金属錯体（内軌道錯体、外軌道錯体）	
	第 1 4 回	まとめと定期試験 定期試験の実施と総括	
	第 1 5 回	定期試験の解説と現代化学の社会的な役割 原子力エネルギー 実用電池 地球温暖化について、など	
準備学習の内容	講義はシラバス順に進行するが、非日常的なトピックスやニュースなども取り入れて解説して行くので多少順序が異なることもある。学生諸君も日常的に化学(科学的)に疑問を感じたりした事柄を準備してもらえたら、それらをテーマとして議論や討論を実施したいので、大いに講義時間中に質問やテーマを投げかけて頂きたい。		
教育目標に対する科目の位置付け	化学とは ” 物質 ” の構造・性質・変化を知る学問で、自然科学の一分野である。現在までに約7000万種にのぼる化合物や物質が知られており、高度に発達した現代文明はこれらの物質の物性を理解して活用することで成り立っている。化学の面白さは、多種多様な分子から出来上がる複雑な物質が、分子においてはわずか数十種の元素の組合せからできていることを、電子構造に立脚した原子や分子などの微視的レベルから理解するところにある。現代文明をになう技術者として、身近な全ての機能性物質は適切な材料の選択とそれらを適切に組み合わせることから成立している事を知り、その原材料である ” 物質 ” の性質がミクロな原子・分子のレベルから設計構築されることを体系的に学ぶ。		
教科書	乾利成・中原昭次・山内脩・吉川要三郎共著:「改訂 化学」-物質の構造、性質および反応-, 化学同人		
参考書	「理科年表」, 丸善出版、「化学大辞典」, 共立出版、その他別途講義の中で指示する		

評価基準及び成績 評価方法	成績評価：1) 定期試験、2) 小テスト、3) 演習・レポートなどにより総合的に評価する。 評価基準：定期試験の結果を70%、小テストと演習・レポートなどを30%で計算し、合計60点以上を合格とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	講義中の演習、各単元の理解度テストと解説、レポート・小テストおよび定期試験の解説で行う。
資格情報	
オフィスアワー	火曜日5コマ目
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英会話（補）

英文科目名称：Communication in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	4 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
Tengan				
外国語				

授業概要	適切な文法、語彙を使った簡単な日常会話やスピーチを通してさまざまな場面に対応した表現を学び、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。原則として授業は英語で行われる。 The main goals of this course are to appropriately use current spoken patterns of the English language, and to improve basic English communication skills including confidence through in-class practice and presentation.		
授業計画	Class 1 Class Introduction We will learn class procedures as well as commonly used phrases and questions during lessons. Class 2 Unit 1 Favorite Names Learn different ways to ask someone's name and the grammar associated with it. Class 3 Unit 2 A Barbecue with Friends Learn how to introduce yourself and WH questions Class 4 Unit 3 Family Photos Talking about your family and possessive adjectives Class 5 Unit 4 That's My Lucky Number Learn how to ask and give information about yourself Class 6 Unit 5 It's a Small World Learn how to ask where things are from Class 7 Unit 6 Do You Like This Shirt Learn how to talk about clothes and shopping. Class 8 Unit 7 We're Late Learn about telling time and how to ask and answer. Class 9 Unit 8 Happy Birthday!! Talk about dates and making suggestions. Class 10 Unit 9 The Weekend Talk about plans,weather and activities. Class 11 Unit 10 Come on!! Hurry up!! Learn how to give simple commands. Class 12 Unit 11 Let's Order a Pizza Learn how to order food from a menu. Class 13 Unit 12 Welcome to San Francisco! Learn about places of interest. Class 14 Review We will review all units for a final exam. Class 15 Final Exam Good Luck!!		
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け			
教科書	Advantage Second Edition Get Ready (MacMillan Languagehouse)		
参考書			
評価基準及び成績評価方法	Students will be graded on active participation in daily conversations as well as quizzes and homework and a final examination.		
達成度の伝達及び達成度評価			
資格情報			
オフィスアワー	I don't have office hours but feel free to approach me after class or anytime you see me on campus!!		
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：英会話（補）

英文科目名称：Communication in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	4 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
Boland				
外国語				

授業概要	当演習の最終目標は、英語による自己表現力を向上させることである。特にリスニング・スピーキングに焦点を当て、様々な場面で活用できるコミュニケーション技術を身に付ける訓練を行う。The primary purpose of this course is to encourage and challenge students to use and improve their existing English ability. The course introduces students to practical strategies useful for everyday communication in English. Though reading and writing English is an important aspect of this course, the emphasis is oral comprehension (listening) and communication (speaking).	
授業計画	1. 講義概要・自己紹介 Course introduction and procedures. 一般的な表現を使用して挨拶、自己紹介を行う。 Commonly used phrases and questions for use in class. Self: greetings and introductions, name order. 授業の予習・復習を行うこと。 2. 家族について Family: identifying family members and describing family relationships. 一般的な表現を使用して家族について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 3. 人物紹介 Appearances: identifying & describing people through physical appearances. 一般的な表現を使用してまわりの人について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 4. 意見を述べる Personality: identifying personal qualities and expressing opinions. 一般的な表現を使用して意見を述べてみる。 授業の予習・復習を行うこと。 5. 住宅事情について Homes: understanding descriptions of homes. Describing homes and furnishings. 一般的な表現を使用して住宅事情について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 6. 町について Cities: understanding description of places and describing cities & landmarks. Understanding and giving directions. 一般的な表現を使用町について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 7. 旅行について Travel & sightseeing: identifying & describing locations in a country, region, or city. Planning a trip. 一般的な表現を使用して旅行について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 8. 天気について Weather: understanding weather reports. Identifying & understanding weather, climate, and related natural phenomena. 一般的な表現を使用天気について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 9. 音楽について Music: identifying likes & dislikes. Understanding & describing different genres of music. 一般的な表現を使用して音楽について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 10. 習慣について Routines: understanding & identifying times, events, and schedules. 一般的な表現を使用して日常生活の習慣について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 11. 飲食について Food & dining: understanding & describing food, ordering food. 一般的な表現を使用して飲食に関して説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 12. スポーツについて Sports: understanding & describing different kinds of sports. 一般的な表現を使用スポーツについて説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 13. 娯楽について Entertainment: recognizing & giving invitations. Understanding & describing different forms of entertainment. 一般的な表現を使用して娯楽について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 14. 買い物について Shopping: recognizing types stores and shopping. Understanding locations within a store. Expressing likes & desires and asking for assistance. 一般的な表現を使用して買い物について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 15. 復習と期末試験Review for final exam. 復習をしてから、期末試験を実施する。	
準備学習の内容	90分授業に対して、週3時間程度は予習・復習に費やすことが望ましい。 Students are advised to study approximately 3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson.	
教育目標に対する科目の位置付け	最終的には、基本的な英語表現能力を身に付けていることが望ましい。具体的には、自分自身や身の回りのこと、過去の経験や未来のことなど、意見を述べることができる能力を身に付ける訓練を行う。 By the end of the course students will be able to communicate basic information about themselves and their	

	surroundings. Students will learn to express practical needs and give instructions. Students will be able to communicate past experiences and future desires. Students will also learn to evaluate information critically and express opinions.
教科書	使用教材は、毎回教員により配布される。また、授業内でパソコン、スマートフォン、タブレットなどで、インターネットにアクセスして、アップデートな情報を入手しながら、コミュニケーション能力の向上に役立つ訓練を行う。 There is no textbook for this course. The instructor provides learning materials. The course will make extensive use of the Internet both in class and for individual study outside of class. Instructor assumes students own or have access to an Internet enabled device. Use of smartphone, tablet, or notebook computers in class is encouraged.
参考書	授業内で紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	成績は、出席（２０％）、授業への貢献（１０％）、個人またはグループによる課題（３０％）、小テスト（２０％）、期末試験（２０％）により評価する。 Grades are based on attendance (20%), class participation (10%), individual and group projects & assignments (30%), quizzes (20%), and final exam (20%).
達成度の伝達及び 達成度評価	受講者は、授業内で実施するディスカッションやプロジェクトに積極的に参加することが望まれる。出席率に関しては大学規定に合わせる。成果については、その都度フィードバックを行う。 Students are expected to participate in class discussions and projects. Attendance policy is consistent with university rules. Students are expected to conduct themselves with academic integrity and honesty.
資格情報	特になし。
オフィスアワー	木曜日１２：００～１４：００ （要予約） Thursdays 12:00 ? 14:00 or by appointment
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語Ⅰ（再）

英文科目名称：English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
清水尚				
外国語				

授業概要	この科目は2015年度以前の入学者を対象とした「英語Ⅰ」の再履修科目である。受講者は「英語Ⅰ（再）」で履修登録するが、実際に受講する授業は、2016年度以降の入学生用科目である「英語構文基礎（清水(尚)）」（2単位）となる。この科目は1年次生用時間割（前期）に配置されている。以下の記述はこの科目のシラバスを転載したものである。 ―― 現代社会における国際化の加速化とともに、コミュニケーションの道具としての英語の必要性がますます高まっている。グローバルな視点から活躍することのできるエンジニアになるための第一歩が「英語構文基礎」である。この講座は本学の1年生が必ず履修しなければならないクラス指定の2単位科目であり、前期に週2回同一教員のもとで履修しなければならない。また、前期でこの科目の単位を修得できなかった場合は、後期に他の英語関連科目とともに履修することになる。本講座は「コミュニケーションのための英語」に重点を置きながら英語の基礎力を高め、大学で開講される英語関連科目を履修できるレベルにまで引き上げることを目標とし、英語の基礎力（基本的な文構造、語彙、発音）を確認しながら、「英語を知っているだけでなく使えるようにする」という方向性のもとに演習形式で授業を行う。			
授業計画	第1回	イントロダクション 英語と日本語の類似点と相違点。教科書、辞書、参考書の紹介。今後の授業の概要の説明。教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第2回	Unit 1 be動詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. be動詞の種類 2. 一般動詞の語形選択 3. 疑問文と否定文 4. Reading Practice		
	第3回	Unit 2 一般動詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 1前回の復習 一般動詞の種類 2. 一般動詞の語形変化 3. 疑問文と否定文 4. Reading Practice		
	第4回	Unit 3 疑問詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 主な疑問詞 2. 疑問詞を用いた疑問文 3. 疑問詞の応用 4. Reading Practice		
	第5回	Unit 4 進行形 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 進行形の基本 2. 疑問文と否定文 3. 状態動詞と動作動詞 4. Reading Practice		
	第6回	Unit 5 未来形 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 1. 未来の表現 2. 疑問文と否定文 3. 現在進行形による未来表現 4. Reading Practice		
	第7回	Unit 6 完了形 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習1. 完了形が表す時間 2. 完了形の種類 3. 完了形の基本 4. 完了形の4つの用法		
	第8回	Unit 6 完了形 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 疑問文と否定文 2. 現在完了形の注意すべき構文 3. 完了形の慣用表現 4. Reading Practice		
	第9回	復習 Unit 1～6 今回の内容を教科書とノートで復習し、疑問点を抽出しておく。		
	第10回	復習テスト1		
	第11回	復習テスト1の解説およびUnit 7 代名詞・前置詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 1. 語順 2. 代名詞の格変化 3. 前置詞 4. 「場所」と「時」に関する基本的な前置詞 5. Reading Practice		
	第12回	Unit 8比較 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 3首里の比較表現と「級」 2. 比較級と最上級の変化のパターン 3. 比較構文の注意事項 4. 比較級を用いた慣用表現 5. Reading Practice		
	第13回	Unit 9 法助動詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		

	前回の復習 1. 法助動詞の基本的用法 2. 基本的な法助動詞 3. 法助動詞の過去形 4. Reading Practice Unit 10 受動態 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 能動態と受動態 2. 受動態の時制、疑問文と否定文 3. 動作主に関するルール Unit 11 分詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 現在分詞の用法 2. 過去分詞の用法 3. Reading Practice Unit 12 不定詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 不定詞の基本形 2. 不定詞の3用法 3. 形式主語 4. 不定詞の意味上の主語 5. 不定詞の否定 6. 疑問詞+不定詞 7. 独立不定詞 8. 不定詞の慣用表現 Unit 13 動名詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 動名詞の基本形と用法 2. 動名詞とその他の準動詞 3. 動名詞の否定 4. 動名詞の意味上の主語 5. Reading Practice 分詞・不定詞・動名詞についての復習 教科書とノートで復習し、疑問点を抽出しておく。 Unit 8 ～13までの復習 教科書とノートで復習し、疑問点を抽出しておく。 復習テスト2 Unit 8～13 復習テスト2の解説およびUnit 14接続詞 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 1. 接続詞の種類 2. 従位接続詞のthat 3. 時制の一致 4. 時と条件の接続詞 5. Reading Practice Unit 15 関係代名詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 先行詞と格変化 2. 関係代名詞を用いた文の作り方 3. 関係代名詞を含む慣用表現 5. Reading Practice Unit 16 関係副詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 関係代名詞の先行詞と関係副詞の先行詞との違い 2. 先行詞の省略 3. Reading Practice 関係代名詞と関係副詞についての復習 今回の内容を教科書とノートで復習し、疑問点を抽出しておく。 Unit 17 間接疑問文 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 間接疑問文の基本 2. 間接疑問文の応用 3. Reading Practice Unit 18 仮定法 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 仮定法の基本 Unit 18 仮定法 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. ifを用いた仮定法とifを用いない仮定法 2. Reading Practice Unit 14～18 復習 教科書とノートで復習し疑問点を抽出しておく。 復習テスト3 復習テスト3の解説と到達度の伝達 返却された試験をもとに自己の達成度を確認し、これからの英語学習の計画を立てる。
準備学習の内容	
教育目標に対する科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標2)
教科書	Understanding Essentials of English Grammar (Asahi Press)
参考書	リーダーズ英和辞典。その他の参考書については授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。

達成度の伝達及び 達成度評価	レポートなどの提出物は、採点後に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。オフィスアワーは原則として各教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は、授業後直接、あるいは内線番号に電話して、面談の日時を決めておくこと。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語Ⅰ（再）

英文科目名称：English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
飛田ルミ				
外国語				

授業概要	海外における学生生活や日常生活に焦点を当てた映像教材などを使用し、大学生に必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキルを獲得するための演習を行う。 [到達目標] 1. グローバル化する社会で必要とされる異文化理解を深め、国際感覚を身につける。 2. 基礎的な日常実用英語表現を習得する。 3. これからの国際社会において必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキルを向上させる。		
授業計画	第 1 回	ガイダンス Chapter 11 教科書、授業の概要の説明。プリント教材使用。次回の内容を指示。 Chapter 1~10の紹介	
	第 2 回	Chapter 11 You are one of the family now 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 3 回	Chapter 11 You are one of the family now 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 4 回	Chapter 12 I wanto to help! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 5 回	Chapter 12 I wanto to help! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 6 回	Chapter 13 So, What's your major? 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 7 回	Chapter 13 So, What's your major? 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 8 回	Chapter 14 I'll try do my best これまでの内容について、感想、自分の意見を平易な英語で表現する。各自、準備をしっかりとて参加すること。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 9 回	Chapter 14 I'll try do my best 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 0 回	Chapter 18 Would you like to join us ? 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 1 回	Chapter 18 Would you like to join us ? 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 2 回	Chapter 19 I have a sore throat 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 3 回	Chapter 19 I have a sore throat 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 4 回	期末試験（実技試験を含む） これまで学んだ表現をよく復習してくること。（Speaking Test）	
	第 1 5 回	まとめと到達度の伝達 復習、自己の到達度の確認。そして、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容	初回授業までにテキストを用意し予習をしておくこと。		
教育目標に対する科目の位置付け	外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。（学習・教育目標 2）		
教科書	Viva!San Francisco ビバサンフランシスコ Hiroto Ohyagi/ Timothy Kiggell 著 マクミラン出版社(Macmillan Languagehouse)		
参考書	授業にて随時紹介する。		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組みを 4 0 点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を 6 0 点とし、双方の合計（1 0 0 点）が 6 0 点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	実技試験、期末試験は採点后、到達度を伝達する。		
資格情報			

オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。 積極的にインターネットなどを活用し、必要な情報を入手しておくこと。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語構文基礎

英文科目名称：Basic English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
清水尚，篠原勇次，河内健志，Tengan，安齊薫，安藤博光				
外国語		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	現代社会における国際化の加速化とともに、コミュニケーションの道具としての英語の必要性がますます高まっている。グローバルな視点から活躍することのできるエンジニアになるための第一歩が「英語構文基礎」である。この講座は本学の1年生が必ず履修しなければならないクラス指定の2単位科目であり、前期に週2回同一教員のもとで履修しなければならない。また、前期でこの科目の単位を修得できなかった場合は、後期に他の英語関連科目とともに履修することになる。 本講座は「コミュニケーションのための英語」に重点を置きながら英語の基礎力を高め、大学で開講される英語関連科目を履修できるレベルにまで引き上げることを目標とし、英語の基礎力（基本的な文構造、語彙、発音）を確認しながら、「英語を知っているだけでなく使えるようにする」という方向性のもとに演習形式で授業を行う。			
授業計画	第1回	イントロダクション 英語と日本語の類似点と相違点。教科書、辞書、参考書の紹介。今後の授業の概要の説明。教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第2回	Unit 1 be動詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. be動詞の種類 2. 一般動詞の語形選択 3. 疑問文と否定文 4. Reading Practice		
	第3回	Unit 2 一般動詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 1前回の復習 一般動詞の種類 2. 一般動詞の語形変化 3. 疑問文と否定文 4. Reading Practice		
	第4回	Unit 3 疑問詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 主な疑問詞 2. 疑問詞を用いた疑問文 3. 疑問詞の応用 4. Reading Practice		
	第5回	Unit 4 進行形 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 進行形の基本 2. 疑問文と否定文 3. 状態動詞と動作動詞 4. Reading Practice		
	第6回	Unit 5 未来形 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 1. 未来の表現 2. 疑問文と否定文 3. 現在進行形による未来表現 4. Reading Practice		
	第7回	Unit 6 完了形 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習1. 完了形が表す時間 2. 完了形の種類 3. 完了形の基本 4. 完了形の4つの用法		
	第8回	Unit 6 完了形 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 疑問文と否定文 2. 現在完了形の注意すべき構文 3. 完了形の慣用表現 4. Reading Practice		
	第9回	復習 Unit 1～6 今回の内容を教科書とノートで復習し、疑問点を抽出しておく。		
	第10回	復習テスト1		
	第11回	復習テスト1の解説およびUnit 7 代名詞・前置詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 1. 語順 2. 代名詞の格変化 3. 前置詞 4. 「場所」と「時」に関する基本的前置詞 5. Reading Practice		
	第12回	Unit 8比較 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 3首里の比較表現と「級」 2. 比較級と最上級の変化のパターン 3. 比較構文の注意事項 4. 比較級を用いた慣用表現 5. Reading Practice		
	第13回	Unit 9 法助動詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 法助動詞の基本的用法 2. 基本的な法助動詞 3. 法助動詞の過去形 4. Reading Practice		
	第14回	Unit 10 受動態 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		

	第15回 前回の復習 1. 能動態と受動態 2. 受動態の時制、疑問文と否定文 3. 動作主に関するルール Unit 11 分詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 現在分詞の用法 2. 過去分詞の用法 3. Reading Practice 第16回 Unit 12不定詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 不定詞の基本形 2. 不定詞の3用法 3. 形式主語 4. 不定詞の意味上の主語 5. 不定詞の否定 6. 疑問詞+不定詞 7. 独立不定詞 8. 不定詞の慣用表現 第17回 Unit 13 動名詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 動名詞の基本形と用法 2. 動名詞とその他の準動詞 3. 動名詞の否定 4. 動名詞の意味上の主語 5. Reading Practice 第18回 分詞・不定詞・動名詞についての復習 教科書とノートで復習し、疑問点を抽出しておく。 第19回 Unit 8 ～13までの復習 教科書とノートで復習し、疑問点を抽出しておく。 第20回 復習テスト2 Unit 8～13 第21回 復習テスト2の解説およびUnit 14接続詞 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 1. 接続詞の種類 2. 従位接続詞のthat 3. 時制の一致 4. 時と条件の接続詞 5. Reading Practice 第22回 Unit 15 関係代名詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 先行詞と格変化 2. 関係代名詞を用いた文の作り方 3. 関係代名詞を含む慣用表現 5. Reading Practice 第23回 Unit 16 関係副詞 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 関係代名詞の先行詞と関係副詞の先行詞との違い 2. 先行詞の省略 3. Reading Practice 第24回 関係代名詞と関係副詞についての復習 今回の内容を教科書とノートで復習し、疑問点を抽出しておく。 第25回 Unit 17 間接疑問文 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 間接疑問文の基本 2. 間接疑問文の応用 3. Reading Practice 第26回 Unit 18 仮定法 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. 仮定法の基本 第27回 Unit 18 仮定法 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 前回の復習 1. ifを用いた仮定法とifを用いない仮定法 2. Reading Practice 第28回 Unit 14～18 復習 教科書とノートで復習し疑問点を抽出しておく。 第29回 復習テスト3 第30回 復習テスト3の解説と到達度の伝達 返却された試験をもとに自己の達成度を確認し、これからの英語学習の計画を立てる。
準備学習の内容	
教育目標に対する科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標2)
教科書	Understanding Essentials of English Grammar (Asahi Press)
参考書	リーダーズ英和辞典。その他の参考書については授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を30点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を70点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達及び達成度評価	レポートなどの提出物は、採点后に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	

オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。オフィスアワーは原則として各教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は、授業後直接、あるいは内線番号に電話して、面談の日時を決めておくこと。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語Ⅱ（再）

英文科目名称：English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
清水尚				
外国語				

授業概要	この科目は2015年度以前の入学者を対象とした「英語II」の再履修科目である。受講者は「英語II（再）」で履修登録するが、実際に受講する授業は、2016年度以降の入学生用科目である「英語表現A（清水（尚）」（1単位）および「英語講読A（清水（尚）」（1単位）となる。両科目とも1年次生用時間割（後期）に配置されている。以下の記述は双方の科目のシラバスを併記したものである。 注）下記授業計画欄の記述は各教科書ごとのまとまりを尊重した形となっているが、実際の授業では両教科書を同時進行的に用いて実施する。よって期末試験は同時期に2種類を受験することになる。この点注意されたし。 コミュニケーションの道具としての英語に重点を置くという観点から、口語英語を中心として、政治、経済、文化、環境、日常の生活習慣などのさまざまな状況における英語表現をテキストに沿って学ぶ。到達目標は、正しい文法、語彙、語法に習熟し、日常生活の様々な場面で要求される各自の見解を平易な英語で表現できるようになることである。あわせて、日本語で発想してそれを英文に転換させるのではなく、英語での発想法を学び、言語の違いによる発想法の違いについても学ぶ。（英語表現A） 社会、科学、文化、環境等多方面の英文テキストを読み、英文の読解力を深める。本授業は音声教材を利用した演習形式で行い、テキストを読解するための語彙に習熟しながら、テキストの精読及び速読ができるようにし、また、テキストの内容を音声面から理解できるようにすることを到達目標とする。（英語講読A）			
授業計画	第1回	導入（英語表現A） 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第2回	Unit 1 Hello! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第3回	Unit 2 Nice to Meet You 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第4回	Unit 3 Let Me Introduce Myself 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第5回	Units 1-3の復習、課題作文（1） 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第6回	Unit 4 My Free Time 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第7回	Unit 5 My Hobbies 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第8回	Unit 6 My Favorite Pastime 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第9回	Units 4-6の復習、課題作文（2） 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第10回	Unit 7 My High School 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第11回	Unit 8 High School Life 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第12回	Unit 9 Memories of High School 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第13回	Units 7-9の復習、課題作文（3） 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第14回	Unit 10 My Weekends 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。期末試験に備えて既習事項の総復習をしておく。		
	第15回	期末試験と解説、まとめ 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第16回	導入（英語講読A） 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第17回	Unit 1 Numbers: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説		

	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第18回 Unit 2 Mathematics: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第19回 Unit 3 Mathematical Symbols: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第20回 Unit 4 Science: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第21回 Unit 5 Engineering: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第22回 Unit 6 Wind Power: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第23回 Unit 7 Solar Power: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第24回 Unit 8 Earthquakes 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第25回 Unit 9 Hurricanes: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第26回 Unit 10 Volcanoes: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第27回 Unit 11 Wi-Fi: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第28回 Unit 12 Robots: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第29回 Unit 13 Additive Manufacturing: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第30回 期末試験と解説、まとめ 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。
準備学習の内容	授業後は、授業の要点をノートに整理し、理解の度合いをその都度振り返る。疑問点を抽出し、次回の授業やオフィスアワーで質問し解決する。シラバスで次回授業の学習範囲を確認し予習する。まずは、辞書を使いながら大意を把握したり、練習問題を解いたりしてみる。その際、不明な箇所には下線を施すなどして、次の授業で集中的に取り組むべき箇所を事前に把握してから実際の授業に臨む。
教育目標に対する科目の位置付け	(1) 自己紹介、余暇の過ごし方、高校時代の思い出、週末や長期休業中の活動などの身近な話題を易しい英語で書いたり口頭発表することを通じて、英語を用いた自己表現力を身につける(教育目標2)【コミュニケーション能力の涵養】。 (2) 例題演習および課題英作文作成を通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を修得する(教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：(1) 1080分＝90分×12回、(2) 270分＝90分×3回 講義時間：15回 (以上、英語表現A) (1) 科学・工学分野の話題を論じた短め(100～150語程度)の英文の読解演習を通じて、論理的、客観的に書かれた英文の読解技術を身につける。同時に、これら分野の基礎語彙を増やし、関連する文法事項の理解を深め、初歩的な作文技術の習得も目指す(教育目標2)【コミュニケーション能力の涵養】。 (2) 例題演習および小テスト結果伝達後の再復習などを通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を修得する(教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：(1) 1080分＝90分×12回、(2) 270分＝90分×3回 講義時間：15回 (以上、英語講読A)
教科書	宮田 学 著 Write about Yourself『英語で自己表現しよう!』(三修社) [英語表現A] 鈴木 栄・Jethro Kenney 著 Basic Literacy for the Sciences (『理工系英語の基本リテラシー』(金星堂)) [英語講読A] 注) 2冊とも購入してください。
参考書	Voice of America, Special English Home: http://learningenglish.voanews.com/ Science News for Students: http://student.societyforscience.org/sciencenews-students
評価基準及び成績評価方法	評価については、学習・教育目標を小テスト、期末試験、授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組み(小テストを含む)を40点、期末試験を60点とし、双方の合計(100点満点)が60点以上の者に単位を認定する。この授業を通じて到達すべきポイントは、i) 日常会話に必要な基礎語彙を理解し、身につけることができる、ii) 典型例に倣って、自己表現に必要な短い文を英語で言ったり書いたりできる、iii) 平易な英語表現を用いて100～150語程度の文章を書いたり、口頭発表したりできるの3つとなる。小テストでは主にi)を、期末試験ではi)を20%、ii)を60%、iii)を20%程度の割合で出題する。(英語表現A) 評価については、学習・教育目標を小テスト、期末試験、授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組み(小テストを含む)を40点、期末試験を60点とし、双方の合計(100点満点)が60点以上の者に単位を認定する。この

	授業を通じて到達すべきポイントは、i) 科学・工学分野の基礎語彙を理解し、身につけることができる、ii) 科学・工学分野に関する100～150語程度の英語の文章を読んで理解することができる、iii) 読んだ内容について平易な英語表現を用いてまとめたり発表したりできるの3つとなる。小テストでは主にi)を、期末試験ではi)を20%、ii)を60%、iii)を20%程度の割合で出題する。（英語講読A）
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 小テスト・期末試験を採点後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 （ ）① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (80) ② コミュニケーション能力の涵養 （ ）③ 自然科学の理解 （ ）④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 （ ）⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	火曜日・金曜日 昼休み
備考	教科書のレベルでは物足りない受講生は、「参考書」欄に記した VOA 等のウェブサイトアクセスして、最新のニュースやフィーチャーを講読してみましょう。とりわけ VOA 各記事にはダウンロード用の各種音声ファイルやストーリーミング、さらには英語学習用ドリルも豊富に提供されているので、これらも大いに活用してください。
履修登録条件	

講義科目名称：英語表現A

英文科目名称：Basic Expression in English A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
清水尚				
外国語		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	コミュニケーションの道具としての英語に重点を置くという観点から、口語英語を中心として、政治、経済、文化、環境、日常生活習慣などのさまざまな状況における英語表現をテキストに沿って学ぶ。到達目標は、正しい文法、語彙、語法に習熟し、日常生活の様々な場面で要求される各自の見解を平易な英語で表現できるようになることである。あわせて、日本語で発想してそれを英文に転換させるのではなく、英語での発想法を学び、言語の違いによる発想法の違いについても学ぶ。		
授業計画	第 1 回	導入 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 2 回	Unit 1 Hello! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 3 回	Unit 2 Nice to Meet You 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 4 回	Unit 3 Let Me Introduce Myself 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 5 回	Units 1-3の復習、課題作文（1） 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 6 回	Unit 4 My Free Time 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 7 回	Unit 5 My Hobbies 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 8 回	Unit 6 My Favorite Pastime 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 9 回	Units 4-6の復習、課題作文（2） 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 1 0 回	Unit 7 My High School 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 1 1 回	Unit 8 High School Life 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 1 2 回	Unit 9 Memories of High School 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 1 3 回	Units 7-9の復習、課題作文（3） 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 1 4 回	Unit 10 My Weekends 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。期末試験に備えて既習事項の総復習をしておく。	
	第 1 5 回	期末試験と解説、まとめ 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
準備学習の内容	授業後は、授業の要点をノートに整理し、理解の度合いをその都度振り返る。疑問点を抽出し、次回の授業やオフィスアワーで質問し解決する。シラバスで次回授業の学習範囲を確認し予習する。まずは、辞書を使いながら大意を把握たり、練習問題を解いたりしてみる。その際、不明な箇所に下線を施すなどして、次の授業で集中的に取り組むべき箇所を事前に把握してから実際の授業に臨む。		
教育目標に対する科目の位置付け	（1）自己紹介、余暇の過ごし方、高校時代の思い出、週末や長期休業中の活動などの身近な話題を易しい英語で書いたり口頭発表することを通じて、英語を用いた自己表現力を身につける。 （学習・教育目標 2）【コミュニケーション能力の涵養】 （2）例題演習および課題英作文作成を通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を習得する（教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：（1）1080分＝90分×12回、（2）270分＝90分×3回 講義時間：15回		
教科書	宮田 学 著 Write about Yourself『英語で自己表現しよう！』（三修社）		
参考書	Voice of America, Special English Home: http://learningenglish.voanews.com/ Science News for Students: http://student.societyforscience.org/sciencenews-students		

評価基準及び成績 評価方法	評価については、学習・教育目標を小テスト、期末試験、授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、期末試験を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。この授業を通じて到達すべきポイントは、i) 日常会話に必要な基礎語彙を理解し、身につけることができる、ii) 典型例に倣って、自己表現に必要な短い文を英語で言ったり書いたりできる、iii) 平易な英語表現を用いて100～150語程度の文章を書いたり、口頭発表したりできるの3つとなる。小テストでは主にi)を、期末試験ではi)を20%、ii)を60%、iii)を20%程度の割合で出題する。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 小テスト・期末試験を採点後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (80) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	オフィスアワー：金曜日 昼休み
備考	教科書のレベルでは物足りない受講生は、「参考書」欄に記した VOA 等のウェブサイトアクセスして、最新のニュースやフィチャーを講読してみましょう。とりわけ VOA 各記事にはダウンロード用の各種音声ファイルやストーリーミング、さらには英語学習用ドリルも豊富に提供されているので、これらも大いに活用してください。
履修登録条件	

講義科目名称：英語表現 A

英文科目名称：English Reader A：Scientific Topics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
河内健志				
外国語		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状(技術)

授業概要	英文を読むときにはおおよその意味をつかむことができるのに、自分が言いたいことを伝えるときになるとなかなか言葉が出てこないと感じる人もいるでしょう。この演習では、大学生の日常生活（キャンパスライフ、アルバイト、就職や面接など）に焦点を当てた教材を使用し、シンプルな文を自分で組み立てて発信できるように学ぶ。 [到達目標] 1. 語順を意識して、自分の伝えたいことを発信するために最小限必要な文法事項を身につける。 2. 英語で自己表現するために、日常生活に結び付いた身近な語彙を習得する。		
授業計画	第1回	導入 教科書と授業の進め方の説明 基本文法事項の確認	
	第2回	Lesson 7 Are You enjoying the Autum Festival? (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第3回	Lesson 7 Are You enjoying the Autum Festival? (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第4回	Lesson 8 How was the job interview? (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第5回	Lesson 8 How was the job interview? (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第6回	Lesson 9 What does he look like? (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第7回	Lesson 9 What does he look like? (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第8回	Lesson 10 Can you come to our Christmas Concert? (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第9回	Lesson 10 Can you come to our Christmas Concert? (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第10回	Lesson 11 Santa Claus is Coming. (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第11回	Lesson 11 Santa Claus is Coming. (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第12回	Lesson 12 Let's take a trip. (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第13回	Lesson 12 Let's take a trip. (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第14回	期末試験 これまでの学習内容の確認	
	第15回	期末試験の解説、到達度の伝達 自己の到達度の確認し、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容	授業で扱った内容を整理し、不明な点があれば積極的に質問すること。		
教育目標に対する 科目の位置付け	1. 自身の身近な話題や出来事をシンプルな型の英語で話したり、書いたりすることで英語の運用能力、自己表現力を養う。 （教育目標2）【コミュニケーション能力の涵養】 2. テキストの例題および課題英語表現作成を通して、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習の習慣を身につける。 （教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】		
教科書	森田和子 ほか Communication in SIMPLE ENGLISH 『発信型 シンプル・イングリッシュ』（三修社）		
参考書	【Web辞典】 「英辞郎 on the WEB」 (https://www.alc.co.jp) 「Weblio 英和・和英辞典」 (https://ejje.weblio.jp) そのほかの参考書については、授業において適宜紹介する。		

評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（小テスト、課題を含む）を50点、期末試験を50点とし、双方の合計（100点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達及び 達成度評価	小テスト・期末試験を採点后に返却し、達成度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 英語表現B

英文科目名称： Basic Expression in English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
飛田ルミ				
外国語				

授業概要	海外における学生生活や日常生活に焦点を当てた映像教材などを使用し、大学生に必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキルを獲得するための演習を行う。 [到達目標] 1. グローバル化する社会で必要とされる異文化理解を深め、国際感覚を身につける。 2. 基礎的な日常実用英語表現を習得する。 3. これからの国際社会において必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキルを向上させる。		
授業計画	第 1 回	ガイダンス Chapter 11 教科書、授業の概要の説明。プリント教材使用。次回の内容を指示。 Chapter 1~10の紹介	
	第 2 回	Chapter 11 You are one of the family now 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 3 回	Chapter 11 You are one of the family now 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 4 回	Chapter 12 I wanto to help! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 5 回	Chapter 12 I wanto to help! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 6 回	Chapter 13 So, What's your major? 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 7 回	Chapter 13 So, What's your major? 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 8 回	Chapter 14 I'll try do my best これまでの内容について、感想、自分の意見を平易な英語で表現する。各自、準備をしっかりとて参加すること。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 9 回	Chapter 14 I'll try do my best 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 0 回	Chapter 18 Would you like to join us ? 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 1 回	Chapter 18 Would you like to join us ? 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 2 回	Chapter 19 I have a sore throat 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 3 回	Chapter 19 I have a sore throat 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。 Overview, Dialog, Drillの解釈及び発音練習をする	
	第 1 4 回	期末試験（実技試験を含む） これまで学んだ表現をよく復習してくること。（Speaking Test）	
	第 1 5 回	まとめと到達度の伝達 復習、自己の到達度の確認。そして、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容	初回授業までにテキストを用意し予習をしておくこと。		
教育目標に対する科目の位置付け	外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。（学習・教育目標 2）		
教科書	Viva!San Francisco ビバサンフランシスコ Hiroto Ohyagi/ Timothy Kiggell 著 マクミラン出版社(Macmillan Languagehouse)		
参考書	授業にて随時紹介する。		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組みを 4 0 点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を 6 0 点とし、双方の合計（ 1 0 0 点）が 6 0 点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	実技試験、期末試験は採点后、到達度を伝達する。		
資格情報			

オフィスアワー	火曜・金曜 昼休み、4コマ
備考	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。 積極的にインターネットなどを活用し、必要な情報を入手しておくこと。
履修登録条件	

講義科目名称：英語表現B

英文科目名称：Basic Expression in English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
河内健志				
外国語				

授業概要	英文を読むときにはおおよその意味をつかむことができるのに、自分が言いたいことを伝えるときになるとなかなか言葉が出てこないと感じる人もいるでしょう。この演習では、大学生の日常生活（キャンパスライフ、アルバイト、就職や面接など）に焦点を当てた教材を使用し、シンプルな文を自分で組み立てて発信できるように学ぶ。 [到達目標] 1. 語順を意識して、自分の伝えたいことを発信するために最小限必要な文法事項を身につける。 2. 英語で自己表現するために、日常生活に結び付いた身近な語彙を習得する。			
授業計画	第1回 導入 教科書と授業の進め方の説明 基本文法事項の確認 第2回 Lesson 1 This is my everyday life. (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第3回 Lesson 1 This is my everyday life. (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第4回 Lesson 2 Do you keep a diary? (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第5回 Lesson 2 Do you keep a diary? (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第6回 Lesson 3 These are my family photos. (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第7回 Lesson 3 These are my family photos. (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第8回 Lesson 4 Where are you from? (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第9回 Lesson 4 Where are you from? (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第10回 Lesson 5 We love our town, Sakura-Yokocho. (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第11回 Lesson 5 We love our town, Sakura-Yokocho. (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第12回 Lesson 6 I'm so busy this month! (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第13回 Lesson 6 I'm so busy this month! (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第14回 期末試験 これまでの学習内容の確認 第15回 期末試験の解説、到達度の伝達 自己の到達度の確認し、これからの英語学習の計画を立てる。			
準備学習の内容	授業で扱った内容を整理し、不明な点があれば積極的に質問すること。			
教育目標に対する 科目の位置付け	1. 自身の身近な話題や出来事をシンプルな型の英語で話したり、書いたりすることで英語の運用能力、自己表現力を養う。 (教育目標2) 【コミュニケーション能力の涵養】 2. テキストの例題および課題英語表現作成を通して、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習の習慣を身につける。 (教育目標6) 【積極性と自己学習の習慣】			
教科書	森田和子 ほか Communication in SIMPLE ENGLISH 『発信型 シンプル・イングリッシュ』（三修社）			
参考書	【Web辞典】 「英辞郎 on the WEB」 (https://www.alc.co.jp) 「Weblio 英和・和英辞典」 (https://ejje.weblio.jp) そのほかの参考書については、授業において適宜紹介する。			

評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（小テスト、課題を含む）を50点、期末試験を50点とし、双方の合計（100点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達及び 達成度評価	小テスト・期末試験を採点後に返却し、達成度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 英語表現 C

英文科目名称： Basic Expression in English C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
安齊薫				
外国語				

授業概要	コミュニケーションの道具としての英語に重点を置くという観点から、口語英語を中心に、政治、経済、文化、環境、日常生活習慣などのさまざまな状況における英語表現をテキストに沿って学ぶ。到達目標は、正しい文法、語彙、語法に習熟し、日常生活の様々な場面で要求される各自の見解を平易な英語で表現できるようになることである。あわせて、日本語で発想してそれを英文に転換させるのではなく、英語での発想法を学び、言語の違いによる発想法の違いについても学ぶ。		
授業計画	第1回	イントロダクション 教科書、授業の概要の説明。プリント教材使用。次回の内容を指示。	
	第2回	Shingo Kunieda1(Unit11) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第3回	Shingo Kunieda2(Unit11) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第4回	Shingo Kunieda3(Unit11) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第5回	Nadeshiko Japan1(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第6回	Nadeshiko Japan2(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第7回	Nadeshiko Japan3(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第8回	まとめと実技試験 これまでの内容について、感想、自分の意見を平易な英語で表現する。各自、準備をしっかりとて参加すること。	
	第9回	Yoshihide Kiryu1(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第 1 0 回	Yoshihide Kiryu2(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第11回	Yoshihide Kiryu3(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第12回	Kasumi Ishikawa1(Unit14) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第13回	Kasumi Ishikawa2(Unit14) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。	
	第 1 4 回	まとめと期末試験(実技試験を含む) これまでの内容について、感想、自分の意見を平易な英語で表現する。各自、準備をしっかりとて参加すること。	
	第 1 5 回	到達度の伝達と復習 復習、自己の到達度の確認。そして、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容	次回の箇所を予習して授業に参加してください。		
教育目標に対する科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標 2)		
教科書	English Learning with Athletes開文社		
参考書	電子辞書持参のこと。携帯電話の使用は一切禁止。		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組みを 4 0 点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を 6 0 点とし、双方の合計（ 1 0 0 点）が 6 0 点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎到達度の伝達 ◎達成度評価	実技試験、期末試験は採点后、到達度を伝達する。 教育目標②コミュニケーション能力の滋養（ 1 0 0 ）	
資格情報			
オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は 1 日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。		
備考			
履修登録条件			

講義科目名称： 英語表現C

英文科目名称： Basic Expression in English C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
清水尚				
外国語				

授業概要	海外短期語学研修を想定したドリル形式のテキストを用い、現地での生活で必要となるであろう様々な英語表現をテキストに沿って学ぶ。到達目標は、正しい文法、語彙、語法に習熟し、日常生活の様々な場面で投げかけられる質問を理解し、それに対して要求される各自の見解を平易な英語で表現できるようになることである。あわせて、日本語で発想してそれを英文に転換させるのではなく、英語での発想法を学び、言語の違いによる発想法の違いについても学ぶ。		
授業計画	第 1 回	導入 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 2 回	Unit 1 On Cloud Nine 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 3 回	Unit 2 San Francisco, Here I am! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 4 回	Unit 3 A Warm Welcome 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 5 回	Unit 4 Up and Down the Hills 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 6 回	Unit 5 A Little Cold for Summer 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 7 回	Unit 6 Now I'm an International Student 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 8 回	Unit 7 I'd Like to Know a Bit More about You 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 9 回	Units 8 Getting around La-La Land 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 10 回	Unit 9 You Sure Like Sports! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 11 回	Unit 10 At a Restaurant 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 12 回	Unit 11 I'm Not Feeling Well 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 13 回	Unit 12 Day Trip to San Diego and Tijuana 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 14 回	Unit 13 Let's Hit the Beach! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。期末試験に備えて既習事項の総復習をしておく。	
	第 15 回	期末試験と解説、まとめ 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
準備学習の内容	授業後は、授業の要点をノートに整理し、理解の度合いをその都度振り返る。疑問点を抽出し、次回の授業やオフィスアワーで質問し解決する。シラバスで次回授業の学習範囲を確認し予習する。まずは、辞書を使いながら大意を把握たり、練習問題を解いたりしてみる。その際、不明な箇所に下線を施すなどして、次の授業で集中的に取り組むべき箇所を事前に把握してから実際の授業に臨む。		
教育目標に対する科目の位置付け	(1) 日常生活で必要となる様々な表現を英語で書いたり口頭発表することを通じて、英語を用いた自己表現力を身につける。 (学習・教育目標 2)【コミュニケーション能力の涵養】 (2) 聴き取り演習や作文演習を通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を習得する(教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：(1) 1080分＝90分×12回、(2) 270分＝90分×3回 講義時間：15回		
教科書	行時 潔 他著 First Time Studying Abroad『はじめての英会話コミュニケーション：留学編』(松柏社)		
参考書	Voice of America, Special English Home: http://learningenglish.voanews.com/ Science News for Students: http://student.societyforscience.org/sciencenews-students		

評価基準及び成績 評価方法	評価については、学習・教育目標を小テスト、期末試験、授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、期末試験を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。この授業を通じて到達すべきポイントは、i) 日常会話に必要な基礎語彙を理解し、身につけることができる、ii) 典型例に倣って、自己表現に必要な短い文を英語で言ったり書いたりできる、iii) 平易な英語表現を用いて100～150語程度の文章を書いたり、口頭発表したりできるの3つとなる。小テストでは主にi)を、期末試験ではi)を20%、ii)を60%、iii)を20%程度の割合で出題する。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 小テスト・期末試験を採点后に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (80) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	オフィスアワー：火曜日 昼休み
備考	教科書のレベルでは物足りない受講生は、「参考書」欄に記した VOA 等のウェブサイトアクセスして、最新のニュースやフィチャーを講読してみましょう。とりわけ VOA 各記事にはダウンロード用の各種音声ファイルやストーリーミング、さらには英語学習用ドリルも豊富に提供されているので、これらも大いに活用してください。
履修登録条件	

講義科目名称： 英語講読 C

英文科目名称： English Reader C： Scientific Topics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
清水尚				
外国語				

授業概要	主として科学・技術分野の適度に新しい話題を採り上げた400語程度のテキストを用いて、読解力の向上を中心的な目標としつつも総合的な英語学習を行なう。単に科学・技術分野の語彙を習得するだけでなく、文の構造や文章構成を精緻かつ分析的に読み解く力と、文章中の主要なアイデアを短時間に咀嚼する速読・大意把握型の読解力とを、用途に応じて使い分けられるように訓練する。さらに、読み取った内容の要旨や、自らの感想・意見を口頭や文章で発表する訓練も適宜行なう。これらの技能を応用して、大学生活後半におけるより専門的な学習・研究の場面で、多少なりとも実際に英語を用いることができるようになるよう受講者を意識付ける。		
授業計画	第1回	導入 ― 「英語購読C」で扱うトピックの概観 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第2回	Unit 1 Solar Impulse (1) Pre-Exercises & Reading Part I 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第3回	Unit 1 Solar Impulse (2) Reading Part II 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第4回	Unit 1 Solar Impulse (3) Exercises 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第5回	Unit 7 Geothermal Energy (1) Pre-Exercises & Reading Part I 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第6回	Unit 7 Geothermal Energy (2) Reading Part II 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第7回	Unit 7 Geothermal Energy (3) Exercises 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第8回	Unit 10 Maglev Train (1) Pre-Exercises & Reading Part I 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第9回	Unit 10 Maglev Train (2) Reading Part II 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第10回	Unit 10 Maglev Train (3) Exercises 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第11回	Unit 11 Robots (1) Pre-Exercises & Reading Part I 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第12回	Unit 11 Robots (2) Reading Part II 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第13回	Unit 11 Robots (3) Exercises 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。期末試験に備えて疑問点を抽出しておく。	
	第14回	ここまでのまとめと期末試験	
	第15回	期末試験の解答・解説と到達度の伝達	
準備学習の内容	授業後は、授業の要点をノートに整理し、理解の度合いをその都度振り返る。疑問点を抽出し、次回の授業やオフィスアワーで質問し解決する。シラバスで次回授業の学習範囲を確認し予習する。まずは、辞書を使いながら大意を把握したり、練習問題を解いたりしてみる。その際、不明な箇所に下線を施すなどして、次の授業で集中的に取り組むべき箇所を事前に把握してから実際の授業に臨む。		
教育目標に対する科目の位置付け	（１）科学・技術分野の話題を論じた400語程度の英文の読解演習を通じて、論理的、客観的に書かれた英文の読解技術を身につける。同時に、これら分野の基礎語彙を増やし、関連する文法事項や語法の理解を深め、口頭発表や作文技術の習得も目指す（教育目標 2）【コミュニケーション能力の涵養】。 （２）例題演習および小テスト結果伝達後の再復習などを通じて、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を習得する（教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：（１）1080分＝90分×12回、（２）270分＝90分×3回		
教科書	野崎嘉信 他著 Science Matters!（『暮らしを変える最新科学』） 金星堂		
参考書	Voice of America, Special English Home: http://learningenglish.voanews.com/		

	Science News for Students: http://student.societyforscience.org/sciencenews-students
評価基準及び成績 評価方法	評価については、教育目標を小テスト、期末試験、授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、期末試験を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。この授業を通じて到達すべきポイントは、i) 科学・技術分野の基礎語彙を理解し、身につけることができる、ii) 科学・技術分野に関する400語程度の英語の文章を読んで理解することができる、iii) 読んだ内容について平易な英語表現を用いてまとめたり発表したりできるの3つとなる。小テストでは主にi)を、期末試験ではi)を20%、ii)を60%、iii)を20%程度の割合で出題する。 ◎達成度の伝達 レポート類はチェック後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ①幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (80) ②コミュニケーション能力の涵養 () ③自然科学の理解 () ④専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥積極性と自己学習の習慣
達成度の伝達及び 達成度評価	レポートなどの提出物は、採点後に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	金曜日の昼休み
備考	教科書出版社から教科書の学習に必要な音声ファイルが無償提供されています。教科書奥付の指示を参照して大いに活用して下さい。 教科書のレベルでは物足りない受講生は、「参考書」欄に記した VOA 等のウェブサイトアクセスして、最新のニュースや特集記事を講読してみましょう。とりわけ VOA 各記事にはダウンロード用の各種音声ファイルやストーリーミング、さらには英語学習用ドリルも豊富に提供されているので、これらも大いに活用してください。
履修登録条件	

講義科目名称： 英語講読 C

英文科目名称： English Reader C： Scientific Topics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
安齊薫				
外国語				

授業概要	社会、科学、文化、環境等多方面の英文テキストを読み、英文の読解力を深める。本授業では音声教材を利用した演習形式で行い、テキストを読解するための語彙を習熟しながら、テキストの精読及び速読ができるようにし、また、テキストの内容を音声面から理解できるようにすることを到達目標とする。		
授業計画	第1回	イントロダクション 教科書、辞書、参考書の紹介。今後の授業の内容の説明。プリント教材使用。	
	第2回	Things Young People Are Less Interested in1(Unit1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第2回	Things Young People Are Less Interested in2(Unit1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第4回	Employers Checking Facebook1(Unit5) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第5回	Employers Checking Facebook2(Unit5) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第6回	LCCs－Low Cost Carriers1(Init6) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第7回	LCCs－Low Cost Carriers2(Init6) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第8回	中間確認 これまで講読したテキストやプリントが身についたか確認をする。不明な点は試験までに各自よく復習しておくこと。	
	第9回	Asian Dust and PM2.5 1(Unit11) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 1 0 回	Asian Dust and PM2.5 2(Unit11) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第11回	Asian Dust and PM2.5 3(Unit11) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第 1 2 回	Tsunami Countermeasures1 (Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第13回	Tsunami Countermeasures2(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第14回	まとめと期末テスト 授業後半で扱った講読、プリントが理解できているか確認する。各自復習をしっかりしておくこと。	
	第 1 5 回	到達度の達成と復習 自己の達成度を確認し、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容	次回予定の箇所を予習してから授業に参加してください。		
教育目標に対する科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。（学習・教育目標 2）		
教科書	Trend Watching成美堂		
参考書	電子辞書使用可。携帯電話の使用は一切禁止。		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を 4 0 点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を 6 0 点とし、双方の合計（ 1 0 0 点満点）が 6 0 点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎到達度の伝達 レポート・試験など提出物は、採点后に返却し、到達度を伝達する。 ◎到達度評価 教育目標②コミュニケーション能力の滋養（ 1 0 0 ）		
資格情報			
オフィスアワー			
備考	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。		

	したがって、学生諸君は1日も欠かさず授業に出席し、積極的に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。
履修登録条件	

講義科目名称：英語会話 A

英文科目名称：English Conversation A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
Tengan				
外国語		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）
授業概要	適切な文法、語彙を使った簡単な日常会話やスピーチを通してさまざまな場面に対応した表現を学び、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。原則として授業は英語で行われる。 The main goals of this course are to appropriately use current spoken patterns of the English language, and to improve basic English communication skills including confidence through in-class practice and presentation.			
授業計画	Class 1 Class Introduction We will learn class procedures as well as commonly used phrases and questions during lessons. Class 2 Unit 1 Favorite Names Learn different ways to ask someone's name and the grammar associated with it. Class 3 Unit 2 A Barbecue with Friends Learn how to introduce yourself and WH questions Class 4 Unit 3 Family Photos Talking about your family and possessive adjectives Class 5 Unit 4 That's My Lucky Number Learn how to ask and give information about yourself Class 6 Unit 5 It's a Small World Learn how to ask where things are from Class 7 Unit 6 Do You Like This Shirt Learn how to talk about clothes and shopping. Class 8 Unit 7 We're Late Learn about telling time and how to ask and answer. Class 9 Unit 8 Happy Birthday!! Talk about dates and making suggestions. Class 10 Unit 9 The Weekend Talk about plans, weather and activities. Class 11 Unit 10 Come on!! Hurry up!! Learn how to give simple commands. Class 12 Unit 11 Let's Order a Pizza Learn how to order food from a menu. Class 13 Unit 12 Welcome to San Francisco! Learn about places of interest. Class 14 Review We will review all units for a final exam. Class 15 Final Exam Good Luck!!			
準備学習の内容				
教育目標に対する科目の位置付け				
教科書	Advantage Second Edition Get Ready (MacMillan Languagehouse)			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	Students will be graded on active participation in daily conversations as well as quizzes and homework and a final examination.			
達成度の伝達及び達成度評価				
資格情報				
オフィスアワー	I don't have office hours but feel free to approach me after class or anytime you see me on campus!!			
備考				
履修登録条件				

講義科目名称：英語会話 A

英文科目名称：English Conversation A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
Boland				
外国語				

授業概要	当演習の最終目標は、英語による自己表現力を向上させることである。特にリスニング・スピーキングに焦点を当て、様々な場面で活用できるコミュニケーション技術を身に付ける訓練を行う。The primary purpose of this course is to encourage and challenge students to use and improve their existing English ability. The course introduces students to practical strategies useful for everyday communication in English. Though reading and writing English is an important aspect of this course, the emphasis is oral comprehension (listening) and communication (speaking).		
授業計画	1.	講義概要・自己紹介 Course introduction and procedures. 一般的な表現を使用して挨拶、自己紹介を行う。 Commonly used phrases and questions for use in class. Self: greetings and introductions, name order.	
	2.	授業の予習・復習を行うこと。 家族について Family: identifying family members and describing family relationships. 一般的な表現を使用して家族について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	3.	人物紹介 Appearances: identifying & describing people through physical appearances. 一般的な表現を使用してまわりの人について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	4.	意見を述べる Personality: identifying personal qualities and expressing opinions. 一般的な表現を使用して意見を述べてみる。 授業の予習・復習を行うこと。	
	5.	住宅事情について Homes: understanding descriptions of homes. Describing homes and furnishings. 一般的な表現を使用して住宅事情について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	6.	町について Cities: understanding description of places and describing cities & landmarks. Understanding and giving directions. 一般的な表現を使用町について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	7.	旅行について Travel & sightseeing: identifying & describing locations in a country, region, or city. Planning a trip. 一般的な表現を使用して旅行について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	8.	天気について Weather: understanding weather reports. Identifying & understanding weather, climate, and related natural phenomena. 一般的な表現を使用天気について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	9.	音楽について Music: identifying likes & dislikes. Understanding & describing different genres of music. 一般的な表現を使用して音楽について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	10.	習慣について Routines: understanding & identifying times, events, and schedules. 一般的な表現を使用して日常生活の習慣について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	11.	飲食について Food & dining: understanding & describing food, ordering food. 一般的な表現を使用して飲食に関して説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	12.	スポーツについて Sports: understanding & describing different kinds of sports. 一般的な表現を使用スポーツについて説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	13.	娯楽について Entertainment: recognizing & giving invitations. Understanding & describing different forms of entertainment. 一般的な表現を使用して娯楽について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	14.	買い物について Shopping: recognizing types stores and shopping. Understanding locations within a store. Expressing likes & desires and asking for assistance. 一般的な表現を使用して買い物について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。	
	15.	復習と期末試験Review for final exam. 復習をしてから、期末試験を実施する。	
準備学習の内容	90分授業に対して、週3時間程度は予習・復習に費やすことが望ましい。 Students are advised to study approximately 3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson.		
教育目標に対する科目の位置付け	最終的には、基本的な英語表現能力を身に付けていることが望ましい。具体的には、自分自身や身の回りのこと、過去の経験や未来のことなど、意見を述べることができる能力を身に付ける訓練を行う。 By the end of the course students will be able to communicate basic information about themselves and their		

	surroundings. Students will learn to express practical needs and give instructions. Students will be able to communicate past experiences and future desires. Students will also learn to evaluate information critically and express opinions.
教科書	使用教材は、毎回教員により配布される。また、授業内でパソコン、スマートフォン、タブレットなどで、インターネットにアクセスして、アップデートな情報を入手しながら、コミュニケーション能力の向上に役立つ訓練を行う。 There is no textbook for this course. The instructor provides learning materials. The course will make extensive use of the Internet both in class and for individual study outside of class. Instructor assumes students own or have access to an Internet enabled device. Use of smartphone, tablet, or notebook computers in class is encouraged.
参考書	授業内で紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	成績は、出席（２０％）、授業への貢献（１０％）、個人またはグループによる課題（３０％）、小テスト（２０％）、期末試験（２０％）により評価する。 Grades are based on attendance (20%), class participation (10%), individual and group projects & assignments (30%), quizzes (20%), and final exam (20%).
達成度の伝達及び 達成度評価	受講者は、授業内で実施するディスカッションやプロジェクトに積極的に参加することが望まれる。出席率に関しては大学規定に合わせる。成果については、その都度フィードバックを行う。 Students are expected to participate in class discussions and projects. Attendance policy is consistent with university rules. Students are expected to conduct themselves with academic integrity and honesty.
資格情報	特になし。
オフィスアワー	木曜日１２：００～１４：００ （要予約） Thursdays 12:00 ? 14:00 or by appointment
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語Ⅲ（再）

英文科目名称：English 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
飛田ルミ				
外国語				

授業概要	社会、科学、文化、環境等多方面の英文テキストを読み、英文の読解力を深める。本授業は音声教材を利用した演習形式で行い、テキストを読んで理解するための語彙を習得して、テキストの精読及び速読ができるようにする。また、リスニング・ライティング等も含めた総合的な英語運用能力を高めるを到達目標とする。			
授業計画	第 1 回	イントロダクション 講義概要（テキスト、進度、成績判定法など）の説明及び次回の授業内容の紹介		
	第 2 回	教科書・ノート・辞書などを揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 8 Google Innovation グーグルイノベーション Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 3 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 8 Google Innovation グーグルイノベーション Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 4 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 8 Google Innovation グーグルイノベーション Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 5 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 2 Native American Culture アメリカ先住民文化 Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 6 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 2 Native American Culture アメリカ先住民文化 Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 7 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 2 Native American Culture アメリカ先住民文化 Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 8 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 5 Christmas Spirit アメリカ人にとってのクリスマス Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 9 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 5 Christmas Spirit アメリカ人にとってのクリスマス Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 10 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 5 Christmas Spirit アメリカ人にとってのクリスマス Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 11 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 12 Volunteers ボランティア Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる		

	Transcript Completion, Summaryを見直す 第 1 2 回 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 12 Volunteers ボランティア Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す 第 1 3 回 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 12 Volunteers ボランティア Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す 第 1 4 回 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 まとめと期末テスト これまでの学習内容を確認しておく。不明な点は試験までに担当教員に質問するなどして解決しておくこと。 第 1 5 回 期末テストの解説と到達度の伝達 返却された試験をもとに自己の達成度を確認し、これからの英語学習の計画を立てる。
準備学習の内容	テキストを用意し、予習をしておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。（学習・教育目標 2） [到達目標] 1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。
教科書	American Vision アメリカンヴィジョン John S. Lander 著 朝日出版社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（出席、授業への積極的な参加態度、課題、小テスト、提出物などを含む）を50点、期末テストを50点とし、合計（100点満点）が60点以上を合格点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	小テストや期末テスト、その他提出物は採点後に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。積極的にインターネットなどを活用し、必要な情報を入手しておくこと。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語Ⅲ（再）

英文科目名称：English 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
安斉薫				
外国語				

授業概要	この科目は「英語Ⅲ」の再履修科目である。受講者は、実際に受講する授業は、2016年以降の入学生用科目である「英語表現B(安斉)」(1単位)および「英語講読B(安斉)」(1単位)となる。両科目とも後期に配置されている。以下の記述は双方の科目のシラバスを併記したものである。 注) 下記授業計画欄の記述は各教科書ごとのまとまりを尊重した形となっているが、実際の授業では両教科書を同時進行的に用いて実施する。よって中間・期末試験は同時期に2種類を受験することになる。この点は注意してください。 コミュニケーションの道具としての英語に重点を置くという観点から、口語英語を中心として、政治、経済、文化、環境、日常生活習慣などのさまざまな状況における英語表現をテキストに沿って学ぶ。到達目標は、正しい文法、語彙、語法に習熟し、日常生活の様々な場面で要求される各自の見解を平易な英語で表現できるようになることである。あわせて、日本語で発想してそれを英文に転換させるのではなく、英語での発想法を学び、言語の違いによる発想法の違いについてもまなぶ。(英語表現) 社会、科学、文化、環境等多方面の英文テキストを読み、英文の読解力を深める。本授業は音声教材を利用した演習形式で行い、テキストを読解するための語彙に習熟しながら、テキストの精読及び速読ができるようにし、また、テキストの内容を音声面から理解できるようにすることを到達目標とする。(英語講読)			
授業計画	第1回	イントロダクション（英語表現B） 教科書、授業の概要の説明。プリント教材使用。次回の内容を指示。		
	第2回	Shinji Kagawa1 (Unit7) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第3回	Shinji Kagawa2 (Unit7) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第4回	Shinji Kagawa3 (Unit7) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第5回	Kouhei Uchimura1 (Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第6回	Kouhei Uchimura2 (Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第7回	Kouhei Uchimura3 (Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第8回	まとめと実技試験 これまでの内容について、感想、自分の意見を平易な英語で表現する。各自、準備をしっかりと参加すること。		
	第9回	Daichi Ohsera1 (Unit9) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第10回	Daichi Ohsera2 (Unit9) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第11回	Daichi Ohsera3 (Unit9) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第12回	The Kamaishi seawaves RFC1 (Unit10) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第13回	The Kamaishi seawaves RFC2 (Unit10) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べておく。		
	第14回	まとめと期末試験（実技試験を含む） これまでの内容について、感想、自分の意見を平易な英語で表現する。各自、準備をしっかりと参加すること。		
	第15回	到達度の伝達と復習 復習、自己の到達度の確認。そして、これからの英語学習の計画を立てる。		
	第16回	イントロダクション（英語講読B） 教科書、辞書、参考書の紹介。今後の授業の内容の説明。プリント教材使用。		
	第17回	The stranger1 (Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第18回	The stranger2 (Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第19回	The stranger3 (Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		

	第20回 All I want for Christmas is you1(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第21回 All I want for Christmas is you2(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第22回 All I want for Christmas is you3(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第23回 中間確認 これまで講読したテキストやプリントが身についたか確認をする。不明な点は試験までに各自よく復習しておくこと。 第24回 Let's Read:The Changing face of America1(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第25回 Let's Read:The Changing face of America2(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第26回 Let's Read:The Changing face of America3(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第 2 7 回 Let's Read:Birth Order1(Unit14) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第28回 Let's Read:Birth Order2(Unit14) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第29回 まとめと期末試験 授業後半で扱った講読、プリントが理解できているか確認する。各自復習をしっかりとしておくこと。 第30回 到達度の伝達と復習 自己の到達度を確認し、これからの英語学習の計画を立てる。
準備学習の内容	次回予定の箇所を予習して、授業に参加してください。
教育目標に対する科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標2)
教科書	English Learning with Athletes開文社 (英語表現B) English with Hit Songs成美堂 (英語講読B)
参考書	電子辞書使用のこと。携帯電話の使用は一切禁止。
評価基準及び成績評価方法	両科目とも授業における平素の取り組みを40点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を60点とし、双方の合計(100点)が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達及び達成度評価	◎到達度の伝達 中間(実技試験)・期末試験を採点后、返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 教育目標②コミュニケーション能力の滋養(100)
資格情報	
オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は1日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語講読 A

英文科目名称：English Reader A：Scientific Topics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
清水尚				
外国語				

授業概要	社会、科学、文化、環境等多方面の英文テキストを読み、英文の読解力を深める。本授業は音声教材を利用した演習形式で行い、テキストを読解するための語彙に習熟しながら、テキストの精読及び速読ができるようにし、また、テキストの内容を音声面から理解できるようにすることを到達目標とする。		
授業計画	第1回	導入 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第2回	Unit 1 Numbers: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第3回	Unit 2 Mathematics: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第4回	Unit 3 Mathematical Symbols: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第5回	Unit 4 Science: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第6回	Unit 5 Engineering: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第7回	Unit 6 Wind Power: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第8回	Unit 7 Solar Power: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第9回	Unit 8 Earthquakes本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第10回	Unit 9 Hurricanes: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第11回	Unit 10 Volcanoes: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第12回	Unit 11 Wi-Fi: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第13回	Unit 12 Robots: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第14回	Unit 13 Additive Manufacturing: 本文の聴き取り・読解演習と解説、練習問題の答え合わせと解説 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。期末試験に備えて既習事項の総復習をしておく。	
	第15回	期末試験と解説、まとめ 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
準備学習の内容	授業後は、授業の要点をノートに整理し、理解の度合いをその都度振り返る。疑問点を抽出し、次回の授業やオフィスアワーで質問し解決する。シラバスで次回授業の学習範囲を確認し予習する。まずは、辞書を使いながら大意を把握たり、練習問題を解いたりしてみる。その際、不明な箇所の下線を施すなどして、次の授業で集中的に取り組むべき箇所を事前に把握してから実際の授業に臨む。		
教育目標に対する科目の位置付け	(1) 科学・工学分野の話題を論じた短め(100~150語程度)の英文の読解演習を通じて、論理的、客観的に書かれた英文の読解技術を身につける。同時に、これら分野の基礎語彙を増やし、関連する文法事項の理解を深め、初歩的な作文技術の習得も目指す(学習・教育目標 2)【コミュニケーション能力の涵養】。 (2) 例題演習および小テスト結果伝達後の再復習などを通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を習得する(教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：(1) 1080分=90分×12回、(2) 270分=90分×3回 講義時間：15回		
教科書	鈴木 栄、Jethro Kenney 共著 Basic Literacy for the Sciences (『理工系英語の基本リテラシー』(金星堂))		
参考書	Voice of America, Special English Home: http://learningenglish.voanews.com/ Science News for Students: http://student.societyforscience.org/sciencenews-students		

評価基準及び成績 評価方法	評価については、学習・教育目標を小テスト、期末試験、授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、期末試験を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。この授業を通じて到達すべきポイントは、i) 科学・工学分野の基礎語彙を理解し、身につけることができる、ii) 科学・工学分野に関する100～150語程度の英語の文章を読んで理解することができる、iii) 読んだ内容について平易な英語表現を用いてまとめたり発表したりできるの3つとなる。小テストでは主にi)を、期末試験ではi)を20%、ii)を60%、iii)を20%程度の割合で出題する。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 小テスト・期末試験を採点後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (80) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	オフィスアワー：火曜日 昼休み
備考	教科書のレベルでは物足りない受講生は、「参考書」欄に記した VOA 等のウェブサイトアクセスして、最新のニュースやフィチャーを講読してみましょう。とりわけ VOA 各記事にはダウンロード用の各種音声ファイルやストーリーミング、さらには英語学習用ドリルも豊富に提供されているので、これらも大いに活用してください。
履修登録条件	

講義科目名称：英語講読 A

英文科目名称：English Reader A：Scientific Topics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
安齊薫				
外国語				

授業概要	社会、科学、文化、環境等多方面の英文テキストを読み、英文の読解力を深める。本授業は音声教材を利用した演習形式で行い、テキストを読解するための語彙を習熟しながら、テキストの精読及び速読ができるようにし、また、テキストの内容を音声面から理解できるようにすることを到達目標とする。		
授業計画	第1回	イントロダクション 教科書、辞書、参考書の紹介。今後の授業の内容の説明。プリント教材使用。	
	第2回	Open arms1 (Unit2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第3回	Open arms 2 (Unit2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第4回	Open arms3 (Unit2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第5回	Life1 (Unit3) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第6回	Life2 (Unit3) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第7回	Life3 (Unit3) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第8回	中間確認 これまで講読したテキストやプリントが身についたか確認をする。不明な点は試験までに各自よく復習しておくこと。	
	第9回	A Whole new world1 (Unit5) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第10回	A Whole new world 2 (Unit5) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第11回	A Whole new world3 (Unit5) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第12回	I don' t want to miss a thing1 (Unit6) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第13回	I don' t want to miss a thing2 (Unit6) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第14回	まとめと期末テスト 授業後半で扱った講読、プリントが理解できているか確認する。各自復習をしっかりしておくこと。	
	第15回	到達度の伝達と復習 自己の達成度を確認し、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。（学習・教育目標2）		
教科書	English with Hit Songs成美堂		
参考書	電子辞書使用可。携帯電話の使用は一切禁止。		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎到達度の伝達 小テスト・期末試験など提出物は、採点後に返却し、到達度を伝達する。 ◎達成度評価 教育目標②コミュニケーション能力の滋養（100）		
資格情報			
オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。		

備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語講読B

英文科目名称：English Reader B：Scientific Topics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
飛田ルミ				
外国語				

授業概要	社会、科学、文化、環境等多方面の英文テキストを読み、英文の読解力を深める。本授業は音声教材を利用した演習形式で行い、テキストを読んで理解するための語彙を習得して、テキストの精読及び速読ができるようにする。また、リスニング・ライティング等も含めた総合的な英語運用能力を高めるを到達目標とする。			
授業計画	第 1 回	イントロダクション 講義概要（テキスト、進度、成績判定法など）の説明及び次回の授業内容の紹介		
	第 2 回	教科書・ノート・辞書などを揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 8 Google Innovation グーグルイノベーション Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 3 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 8 Google Innovation グーグルイノベーション Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 4 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 8 Google Innovation グーグルイノベーション Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 5 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 2 Native American Culture アメリカ先住民文化 Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 6 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 2 Native American Culture アメリカ先住民文化 Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 7 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 2 Native American Culture アメリカ先住民文化 Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 8 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 5 Christmas Spirit アメリカ人にとってのクリスマス Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 9 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 5 Christmas Spirit アメリカ人にとってのクリスマス Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 1 0 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 5 Christmas Spirit アメリカ人にとってのクリスマス Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す		
	第 1 1 回	今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 12 Volunteers ボランティア Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる		

	Transcript Completion, Summaryを見直す 第 1 2 回 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 12 Volunteers ボランティア Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す 第 1 3 回 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 Unit 12 Volunteers ボランティア Introduction, Vocabulary, Exerciseを調べる Transcript Completion, Summaryを見直す 第 1 4 回 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 まとめと期末テスト これまでの学習内容を確認しておく。不明な点は試験までに担当教員に質問するなどして解決しておくこと。 第 1 5 回 期末テストの解説と到達度の伝達 返却された試験をもとに自己の達成度を確認し、これからの英語学習の計画を立てる。
準備学習の内容	テキストを用意し、予習をしておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。（学習・教育目標 2） [到達目標] 1. 大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。 2. 一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。 3. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。
教科書	American Vision アメリカンヴィジョン John S. Lander 著 朝日出版社
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（出席、授業への積極的な参加態度、課題、小テスト、提出物などを含む）を50点、期末テストを50点とし、合計（100点満点）が60点以上を合格点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	小テストや期末テスト、その他提出物は採点后に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	火曜・金曜 昼休み、4コマ
備考	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。積極的にインターネットなどを活用し、必要な情報を入手しておくこと。
履修登録条件	

講義科目名称： 英語講読B

英文科目名称： English Reader B：Scientific Topics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
安齊薫				
外国語				

授業概要	社会、科学、文化、環境等多方面の英文テキストを読み、英文の読解力を深める。本授業は音声教材を演習形式で行い、テキストを読解するための語彙を習熟しながら、テキストの精読及び速読ができるようにし、また、テキストの内容を音声面から理解できるようにすることを到達目標とする。		
授業計画	第1回	イントロダクション 教科書、辞書、参考書の紹介。今後の授業の内容の説明。プリント教材使用。	
	第2回	The stranger1(Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第3回	The stranger2(Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第 4 回	The stranger3(Unit8) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第5回	All I want for Christmas is you1(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第6回	All I want for Christmas is you2(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第7回	All I want for Christmas is you3(Unit12) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第8回	中間確認 これまで講読したテキストやプリントが身についたか確認をする。不明な点は試験までに各自よく復習しておくこと。	
	第9回	Le's Read!The changing face of America1(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第 1 0 回	Let's Read!The changing face of America2(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第11回	Let's Read!The changing face of America3(Unit13) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第 1 2 回	Let's Read!Birth order1(Unit14) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第 1 3 回	Let's Read!Birth order2(Unit14) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなど解決しておく。次回の内容をしらべ、疑問を抽出しておく。	
	第14回	まとめと期末テスト 授業後半で扱った講読、プリントが理解できているか確認する。各自復習をしっかりしておくこと。	
	第 1 5 回	到達度の伝達と復習 自己の達成度を確認し、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容	次回の箇所を予習して授業に参加してください。		
教育目標に対する科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。（学習・教育目標2）		
教科書	English with Hit Songs成美堂		
参考書	電子辞書使用可。携帯電話の使用は一切禁止。		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 小テスト・試験などの提出物は、採点后に返却し、到達度を伝達する。 ◎達成度評価 教育目標②コミュニケーション能力の滋養（100）		
資格情報			
オフィスアワー	この授業では演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は1日も欠かさず授業に出席し、積極的に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。		

備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語Ⅳ（再）

英文科目名称：English 4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
清水尚				

授業概要	この科目は2015年度以前の入学者を対象とした「英語Ⅳ」の再履修科目である。受講者は「英語Ⅳ（再）」（2単位）で履修登録するが、実際に受講する授業は、2016年度以降の入学生用科目である「英語表現C（清水(尚)）」（1単位）および「英語講読C（清水(尚)）」（1単位）となる。両科目とも2年次生用時間割（後期）に配置されている。以下の記述は双方の科目のシラバスを併記したものである。 注）下記授業計画欄の記述は各教科書ごとのまとまりを尊重した形となっているが、実際の授業では両教科書を同時進行的に用いて実施する。よって期末試験は同時期に2種類を受験することになる。この点注意されたし。 海外短期語学研修を想定したドリル形式のテキストを用い、現地での生活で必要となるであろう様々な英語表現をテキストに沿って学ぶ。到達目標は、正しい文法、語彙、語法に習熟し、日常生活の様々な場面で投げかけられる質問を理解し、それに対して要求される各自の見解を平易な英語で表現できるようになることである。あわせて、日本語で発想してそれを英文に転換させるのではなく、英語での発想法を学び、言語の違いによる発想法の違いについても学ぶ。（英語表現C） 主として科学・技術分野の適度に新しい話題を採り上げた400語程度のテキストを用いて、読解力の向上を中心的な目標としつつも総合的な英語学習を行なう。単に科学・技術分野の語彙を習得するだけでなく、文の構造や文章構成を精緻かつ分析的に読み解く力と、文章中の主要なアイデアを短時間に咀嚼する速読・大意把握型の読解力とを、用途に応じて使い分けられるように訓練する。さらに、読み取った内容の要旨や、自らの感想・意見を口頭や文章で発表する訓練も適宜行なう。これらの技能を応用して、大学生活後半におけるより専門的な学習・研究の場面で、多少なりとも実際に英語を用いることができるようになるよう受講者を意識付ける。（英語講読C）			
授業計画	第1回	導入（英語表現C） 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第2回	Unit 1 On Cloud Nine 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第3回	Unit 2 San Francisco, Here I am! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第4回	Unit 3 A Warm Welcome 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第5回	Unit 4 Up and Down the Hills 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第6回	Unit 5 A Little Cold for Summer 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第7回	Unit 6 Now I'm an International Student 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第8回	Unit 7 I'd Like to Know a Bit More about You 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第9回	Units 8 Getting around La-La Land 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第10回	Unit 9 You Sure Like Sports! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第11回	Unit 10 At a Restaurant 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第12回	Unit 11 I'm Not Feeling Well 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第13回	Unit 12 Day Trip to San Diego and Tijuana 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。期末試験に備えて既習事項の総復習しておく。		
	第14回	Unit 13 Let's Hit the Beach! 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第15回	期末試験と解説、まとめ 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。		
	第16回	導入（英語講読C） 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		

	第17回 Unit 1 Solar Impulse (1) Pre-Exercises & Reading Part I 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第18回 Unit 1 Solar Impulse (2) Reading Part II 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第19回 Unit 1 Solar Impulse (3) Exercises 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第20回 Unit 7 Geothermal Energy (1) Pre-Exercises & Reading Part I 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第21回 Unit 7 Geothermal Energy (2) Reading Part II 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第22回 Unit 7 Geothermal Energy (3) Exercises 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第23回 Unit 10 Maglev Train (1) Pre-Exercises & Reading Part I 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第24回 Unit 10 Maglev Train (2) Reading Part II 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第25回 Unit 10 Maglev Train (3) Exercises 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第26回 Unit 11 Robots (1) Pre-Exercises & Reading Part I 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第27回 Unit 11 Robots (2) Reading Part II 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。 第28回 Unit 11 Robots (3) Exercises 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。期末試験に備えて既習事項の総復習をしておく。 第29回 ここまでのまとめと期末試験 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第30回 期末試験の解答・解説と到達度の伝達 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。
準備学習の内容	授業後は、授業の要点をノートに整理し、理解の度合いをその都度振り返る。疑問点を抽出し、次回の授業やオフィスアワーで質問し解決する。シラバスで次回授業の学習範囲を確認し予習する。まずは、辞書を使いながら大意を把握したり、練習問題を解いたりしてみる。その際、不明な箇所の下線を施すなどして、次の授業で集中的に取り組むべき箇所を事前に把握してから実際の授業に臨む。
教育目標に対する科目の位置付け	(1) 日常生活で必要となる様々な表現を英語で書いたり口頭発表することを通じて、英語を用いた自己表現力を身につける。 【学習・教育目標 2) 【コミュニケーション能力の涵養】】 (2) 聴き取り演習や作文演習を通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を習得する (教育目標6) 【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：(1) 1080分＝90分×12回、(2) 270分＝90分×3回 講義時間：15回 (以上、英語表現C) (1) 科学・技術分野の話題を論じた400語程度の英文の読解演習を通じて、論理的、客観的に書かれた英文の読解技術を身につける。同時に、これら分野の基礎語彙を増やし、関連する文法事項や語法の理解を深め、口頭発表や作文技術の習得も目指す (教育目標 2) 【コミュニケーション能力の涵養】。 (2) 例題演習および小テスト結果伝達後の再復習などを通じて、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を習得する (教育目標6) 【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：(1) 1080分＝90分×12回、(2) 270分＝90分×3回 (以上、英語講読C)
教科書	行時 潔 他著 First Time Studying Abroad『はじめての英会話コミュニケーション：留学編』 松柏社 [英語表現C] 野崎嘉信 他著 Science Matters! (『暮らしを変える最新科学』) 金星堂 [英語講読C] 注) 2冊とも購入してください。
参考書	Voice of America, Special English Home: http://learningenglish.voanews.com/ Science News for Students: http://student.societyforscience.org/sciencenews-students
評価基準及び成績評価方法	評価については、学習・教育目標を小テスト、期末試験、授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組み(小テストを含む)を40点、期末試験を60点とし、双方の合計(100点満点)が60点以上の者に単位を認定する。この授業を通じて到達すべきポイントは、i) 日常会話に必要な基礎語彙を理解し、身につけることができる、ii) 典型例に倣って、自己表現に必要な短い文を英語で言ったり書いたりできる、iii) 平易な英語表現を用いて100～150語程度の文章を書いたり、口頭発表したりできるの3つとなる。小テストでは主にi)を、期末試験ではi)を20%、ii)を60%、iii)を20%程度の割合で出題する。(英語表現C) 評価については、教育目標を小テスト、期末試験、授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組み(小テストを含む)を40点、期末試験を60点とし、双方の合計(100点満点)が60点以上の者に単位を認定する。この授業を

	通じて到達すべきポイントは、i) 科学・技術分野の基礎語彙を理解し、身につけることができる、ii) 科学・技術分野に関する400語程度の英語の文章を読んで理解することができる、iii) 読んだ内容について平易な英語表現を用いてまとめたり発表したりできるの3つとなる。小テストでは主にi)を、期末試験ではi)を20%、ii)を60%、iii)を20%程度の割合で出題する。（英語講読C）
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 小テスト・期末試験を採点後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (80) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	火曜日・金曜日 昼休み
備考	教科書のレベルでは物足りない受講生は、「参考書」欄に記した VOA 等のウェブサイトアクセスして、最新のニュースやフィーチャーを講読してみましょう。とりわけ VOA 各記事にはダウンロード用の各種音声ファイルやストーリーミング、さらには英語学習用ドリルも豊富に提供されているので、これらも大いに活用してください。
履修登録条件	

講義科目名称：工業英語 A

英文科目名称：Technical English A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
篠原勇次				
外国語				

授業概要	技術英語読解に必要な英文法の復習しながら、物質・力・エネルギーなどをテーマとするテキストを読む。これにより、技術分野で用いられる語彙を習得するとともに、文の構造や文章構成を学習し、自分が専門とする分野の英語文献を読む力を養成することを目標とする。			
授業計画	第1回	イントロダクションー工業英語Aで扱うトピックの外観。 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく		
	第2回	Unit 1 Numbers 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第3回	基本語彙と段落ごとの意味の理解 Unit 1 Numbers 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第4回	全体的な意味の理解と練習問題 Unit 2 Mathematics 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第5回	基本語彙と段落ごとの意味の理解 Unit 2 Mathematics 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第6回	全体的な意味の理解と練習問題 Unit 3 Mathematical Symbols 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第7回	基本語彙と段落ごとの意味の理解 Unit 3 Mathematical Symbols 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第8回	全体的な意味の理解と練習問題 Unit 4 Science 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第9回	基本語彙と段落ごとの意味の理解 Unit 4 Science 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第10回	全体的な意味の理解と練習問題 Unit 5 Engineering 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第11回	基本語彙と段落ごとの理解 Unit 5 Engineering 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第12回	全体的な意味の理解と練習問題 Unit 6 Wind Power 1 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第13回	基本語彙と段落ごとの理解 Unit 6 Wind Power 2 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。また、テストのための質問を用意しておく。		
		全体的な意味の理解と練習問題		

	第14回 期末テスト
	第15回 テストの解説と到達度の伝達 テストの解説を基に学習内容を復習し、今後の英語学習に役立てる。
準備学習の内容	
教育目標に対する 科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標2)
教科書	Basic Lieteracy for the Sciences (Kinseido)
参考書	リーダーズ英和辞典。その他の参考書については授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を30点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を70点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達及び 達成度評価	レポートなどの提出物は、採点後に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。オフィスアワーは原則として担当教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は、授業後直接、あるいは内線に電話して担当教員と面談の日時を決めておくこと。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：工業英語B

英文科目名称：Technical English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
篠原勇次				
外国語				

授業概要	技術英語読解に必要な英文法の復習しながら、科学技術分野の様々な情報を英語で読み、これにより、技術分野で用いられる語彙を習得するとともに、文の構造や文章構成を理解し、自分が専門とする分野の英語文献を読む力を養成することを目標とする。			
授業計画	第1回	イントロダクションー工業英語Bで扱うトピックの外観。 教科書、ノート、辞書を揃える。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく		
	第2回	Chapter 1 Pendulum device to reduce swaying of skyscrapers during quakes (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第3回	基本語彙の理解と英文の段落ごとの理解 1 Chapter 1 Pendulum device to reduce swaying of skyscrapers during quakes (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第4回	基本語彙の理解と英文の段落ごとの理解2 Chapter 1 Pendulum device to reduce swaying of skyscrapers during quakes (3) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第5回	英文の全体的理解と練習問題 Chapter 2 Experiment lets man use his mind to control another person's movements (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第6回	基本語彙の理解と英文の段落ごとの理解 1 Chapter 2 Experiment lets man use his mind to control another person's movements (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第7回	基本語彙の理解と英文の段落ごとの理解2 Chapter 2 Experiment lets man use his mind to control another person's movements (3) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第8回	全体的な意味の理解と練習問題 Chapter 3 Researches create 'bionic ear' (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第9回	基本語彙と段落ごとの意味の理解 1 Chapter 3 Researches create 'bionic ear' (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第10回	基本語彙と段落ごとの意味の理解 2 Chapter 3 Researches create 'bionic ear' (3) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第11回	英文の全体的な理解と練習問題 Chapter 4 Ultraminicars take to public roads (1) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第12回	基本語彙と段落ごとの意味の理解 1 Chapter 4 Ultraminicars take to public roads (2) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。		
	第13回	基本語彙と段落ごとの意味の理解 2 Chapter 4 Ultraminicars take to public roads (3) 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。また、テストのための質問を用意しておく。		
		全体的な意味の理解と練習問題		

	第14回 期末テスト
	第15回 テストの解説と到達度の伝達 テストの解説を基に学習内容を復習し、今後の英語学習に役立てる。
準備学習の内容	
教育目標に対する 科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標2)
教科書	Getting to Know Engineering Genres (Sanshusha)
参考書	リーダーズ英和辞典。その他の参考書については授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を30点、授業の一環として不定期に実施する複数回のテストの合計点を70点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達及び 達成度評価	レポートなどの提出物は、採点後に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価される。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたい。オフィスアワーは原則として担当教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は、授業後直接、あるいは内線に電話して担当教員と面談の日時を決めておくこと。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：工業英語B

英文科目名称：Technical English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
河内健志				
外国語				

授業概要	英語で書かれた先端科学技術の様々な専門分野について書かれている記事を題材にして、書かれている情報を正確に理解する力の向上を主眼に置く。その中で、文の構造や文章構成を理解し、科学技術分野の専門用語の習得も目指す。また、学習した文の構造や文章構成方法を用いて、自身の専門分野についての話題を表現する力の向上を目指す。		
授業計画	第1回	導入 教科書と授業の進め方の説明	疑問点や不明点を明確にしてくる。 不明な点は質問するなどして解決しておく。
	第2回	Chapter 1 あまり「動揺」したくない！ (1) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第3回	Chapter 1 あまり「動揺」したくない！ (2) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第4回	Chapter 1 あまり「動揺」したくない！ (3) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第5回	Chapter 2 マインドコントロールにご用心！ (1) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第6回	Chapter 2 マインドコントロールにご用心！ (2) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第7回	Chapter 2 マインドコントロールにご用心！ (3) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第8回	Chapter 3 3Dプリンターで臓器を作製 (1) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第9回	Chapter 3 3Dプリンターで臓器を作製 (2) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第10回	Chapter 3 3Dプリンターで臓器を作製 (3) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第11回	Chapter 4 超小型EV車がデビュー (1) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第12回	Chapter 4 超小型EV車がデビュー (2) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第13回	Chapter 4 超小型EV車がデビュー (3) 予習：本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、	
	第14回	期末試験 これまでの学習内容の確認	
	第15回	期末試験の解説、到達度の伝達 自己の到達度の確認し、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容	授業で扱った内容を整理し、不明な点があれば積極的に質問すること。		
教育目標に対する 科目の位置付け	1. 自身の専門分野に関する話題を英語で表現することで英語の運用能力、自己表現力を養う。 （教育目標2）【コミュニケーション能力の涵養】 2. テキストの例題および課題英語表現作成を通して、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習の習慣を身につける。 （教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】		
教科書	Junko Murata et al. Getting to Know Engineering Genres ―エンジニアのための総合英語―（Sanshusha）		
参考書	【Web辞典】 「英辞郎 on the WEB」（ https://www.alc.co.jp ） 「Weblio 英和・和英辞典」（ https://ejje.weblio.jp ） そのほかの参考書については、授業において適宜紹介する。		
評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（小テスト、課題を含む）を40点、期末試験を60点とし、双方の合計（100点）が60点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び 達成度評価	課題・期末試験を採点后に返却し、達成度を伝達する。		

資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：時事英語 A

英文科目名称：Current English A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
安藤博光				
外国語				

授業概要	新聞やインターネット上の記事など、様々な種類の英文を教材とし、現代社会のさまざまな知識、考え方を学びながら、時事英語に関する特殊な表現や構文に習熟し、リスニングの練習なども取り入れることによって多面的に時事英語の運用能力を高める。		
授業計画	第1回	授業オリエンテーション 授業の進め方・内容の解説	
	第2回	Unit 1 Why Do English Keyboards Have QWERTY?—英語のキーボードはなぜこの配列— 予習： Unit 1で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第3回	Unit 1 Why Do English Keyboards Have QWERTY?—英語のキーボードはなぜこの配列— 予習： Unit 1で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第4回	Unit 1 Why Do English Keyboards Have QWERTY?—英語のキーボードはなぜこの配列—、Unit 2 How to Avoid Fake News—架空のニュースに惑わされないために— 予習： Unit 1, Unit 2で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第5回	Unit 2 How to Avoid Fake News—架空のニュースに惑わされないために— 予習： Unit 2で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第6回	Unit 2 How to Avoid Fake News—架空のニュースに惑わされないために— 予習： Unit 2で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第7回	Unit 1 & Unit 2の小テスト、Unit 3 Cooking for the Community—料理を通してボランティア— 予習： Unit 3で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第8回	Unit 3 Cooking for the Community—料理を通してボランティア— 予習： Unit 3で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第9回	Unit 3 Cooking for the Community—料理を通してボランティア— 予習： Unit 3で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第10回	Unit 4 The First Shinkansen—世界で最初の新幹線— 予習： Unit 4で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第11回	Unit 4 The First Shinkansen—世界で最初の新幹線— 予習： Unit 4で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第12回	Unit 3 & Unit 4の小テスト、Unit 5 Japan's Maglev Train—日本のリニアモーターカー— 予習： Unit 5で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第13回	Unit 5 Japan's Maglev Train—日本のリニアモーターカー— 予習： Unit 5で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習	
	第14回	期末テスト テキストの演習問題を中心に自己の理解度を確認しておく。不明な点は試験までに担当教員にたずねておくこと。	
	第15回	期末テストの確認・フィードバック 期末テストの問題・解答内容の確認と到達度の自己確認。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	新聞やインターネット上の記事など、様々な種類の英文を教材とし、現代社会のさまざまな知識、考え方を学びながら、時事英語に関する特殊な表現や構文に習熟し、リスニングの練習なども取り入れることによって多面的に時事英語の運用能力を高める。		
教科書	CNN 10 Vol.1 関戸冬彦他著 朝日出版社 CNN Student News(4) 関戸冬彦他 朝日出版社		
参考書	インターネット辞典「英辞郎 on the WEB」(英和・和英) アルク www.alc.co.jp/		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み(授業・小テストへの取り組みを含む)を40%、授業の一環として実施する小テスト2回・期末テストの合計点を60%とし、双方の合計(100点満点)が60点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	小テストなどの提出物は、採点后に返却し、到達度を伝達する。		
資格情報			
オフィスアワー	原則的に、火曜日、金曜日 12:00-13:00 本館5階 講師控室に在室		
備考	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価されます。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたいと思います。毎回の授業のための課題学習を着実にやるうちに、ニュース英語を読む力がついていきます。いろいろな課題を楽しみながらやってみてください。また、テキスト以外でも、更に実力アップのため、自分の興味ある題材でいいので、英字新聞やタイム、ニューズウィーク、ビジネスウィーク(あるいはファッション、音楽、趣味)などの雑誌を英語で読んだり、FEN等のラジオ放送、あるいはNHK等の英会話番組、衛星放送、2カ国語放送、またインターネットによるCNN番組放送などを視聴していくことを勧めます。		

履修登録条件	
--------	--

講義科目名称：時事英語B

英文科目名称：Current English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
安藤博光				
外国語				

授業概要	新聞やインターネット上の記事など、様々な種類の英文を教材とし、現代社会のさまざまな知識、考え方を学びながら、時事英語に関する特殊な表現や構文に習熟し、リスニングの練習なども取り入れることによって多面的に時事英語の運用能力を高める。		
授業計画	第1回	授業オリエンテーション 授業の進め方・内容の解説	
	第2回	Unit 6 American High Schoolers Study in China	—中国に留学するアメリカの高校生たち— 予習： Unit 6で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第3回	Unit 6 American High Schoolers Study in China	—中国に留学するアメリカの高校生たち— 予習： Unit 6で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第4回	Unit 6 American High Schoolers Study in China	—中国に留学するアメリカの高校生たち—、Unit 7 Making New Energy —新しいエネルギーを求めて— 予習： Unit 6、7で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第5回	Unit 7 Making New Energy	—新しいエネルギーを求めて— 予習： Unit 7で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第6回	Unit 7 Making New Energy	—新しいエネルギーを求めて— 予習： Unit 7で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第7回	Unit 6 & Unit 7の小テスト、Unit 8 Diving for Sea Urchins	—ウニをつかまえる！— 予習： Unit 8で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第8回	Unit 8 Diving for Sea Urchins	—ウニをつかまえる！— 予習： Unit 8で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第9回	Unit 8 Diving for Sea Urchins	—ウニをつかまえる！—、Unit 9 Reunion of the Little Rock Nine —リトルロック9人の再会の集い— 予習： Unit 8、9で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第10回	Unit 9 Reunion of the Little Rock Nine	—リトルロック9人の再会の集い— 予習： Unit 9で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第11回	Unit 9 Reunion of the Little Rock Nine	—リトルロック9人の再会の集い— 予習： Unit 9で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第12回	Unit 8 & Unit 9の小テスト、Unit 10 Paying for College	—大学学費の返済方法— 予習： Unit 10で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第13回	Unit 10 Paying for College	—大学学費の返済方法— 予習： Unit 10で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習
	第14回	期末テスト テキストの演習問題を中心に自己の理解度を確認しておく。不明な点は試験までに担当教員にたずねておくこと。	
	第15回	期末テスト確認・フィードバック 期末テストの問題・解答内容の確認と到達度の自己確認。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	新聞やインターネット上の記事など、様々な種類の英文を教材とし、現代社会のさまざまな知識、考え方を学びながら、時事英語に関する特殊な表現や構文に習熟し、リスニングの練習なども取り入れることによって多面的に時事英語の運用能力を高める。		
教科書	CNN Student News (4) 関戸冬彦他著 朝日出版社		
参考書	インターネット辞典「英辞郎 on the WEB」 (英和・和英) アルク www.alc.co.jp/		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み(授業・小テストへの取り組みを含む)を40%、授業の一環として実施する小テスト2回・期末テストの合計点を60%とし、双方の合計(100点満点)が60点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	小テストなどの提出物は、採点後に返却し、到達度を伝達する。		
資格情報			
オフィスアワー	原則的に、火曜日、金曜日 12：30-13：00 本館5階 講師控室に在室		
備考	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価されます。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたいと思います。毎回の授業のための課題学習を着実にやるうちに、ニュース英語を読む力がついていきます。いろいろな課		

	題を楽しみながらやってみてください。また、テキスト以外でも、更に実力アップのため、自分の興味ある題材でいいので、英字新聞やタイム、ニューズウィーク、ビジネスウィーク（あるいはファッション、音楽、趣味）などの雑誌を英語で読んだり、FEN等のラジオ放送、あるいはNHK等の英会話番組、衛星放送、2カ国語放送、またインターネットによるCNN番組放送などを視聴していくことを勧めます。
履修登録条件	

講義科目名称：時事英語B

英文科目名称：Current English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
篠原勇次				
外国語				

授業概要	CNNの日々のニュースを教材にし、その時々国内・海外の様々な出来事を通して、現代社会の諸問題について理解を深める。授業では音声面からのアプローチに重点を置き、シャドーイングやリプロダクションなどの手法を取り入れながら、総合的で実践的な英語力を養う。			
授業計画	第1回	授業全般に関する概観 辞書や参考書、教材、ニュース・ソースなどについて全般的な話をする。 毎回、タイムリーなニュースをプロジェクターで提示する。学生諸君は予習よりも授業後の復習に重点を置き、授業中に暗唱した短文が自然に声に出して言えるように毎回練習しておくこと。		
	第2回	イントロダクション 音声と意味との関係、シャドウイングの重要性など今後の授業について短いニュースを取り上げながら説明。 公開ファイルにある資料の使い方の説明 2018年3月のニュース 1 1. ナチュラルスピードの音声を聞く 2. 意味のまとまりごとのシャドウイング 3. スクリプトを見ながら、音声を聞く 4. スクリプトを見ながらリピートする 5. スクリプトの内容理解 6. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 7. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第3回	2018年3月のニュース 2 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース2の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第4回	2018年3月のニュース 3 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース3の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第5回	2018年3月のニュース 4 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース4の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第6回	2018年4月のニュース 1 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース1の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第7回	2018年4月のニュース 2 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース2の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第8回	2018年4月のニュース 3 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース3の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第9回	2018年4月のニュース 4 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース4の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第10回	2018年5月のニュース 1 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース1の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング） 8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する		
	第11回	2018年5月のニュース 2 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する） 2. ニュース2の音声をナチュラルスピードで聞く。 3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながら		

	第12回 リピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング）8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する 2018年5月のニュース3 第13回 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する）2. ニュース3の音声をナチュラルスピードで聞く。3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング）8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する 5月のニュース4 第14回 1. 復習（前回のニュースの内容を日本語で表示し、英語で表現する）2. ニュース4の音声をナチュラルスピードで聞く。3. 意味のまとまりごとのシャドウイング 4. スクリプトを見ながら、音声を聞く 5. スクリプトを見ながらリピートする 6. スクリプトの内容理解 7. スクリプトを見ながら音声をリピートする。 8. スクリプトを見ずに音声をリピートする（シャドウイング）8. スクリーンに表示された日本語の意味を見ながら、ニュースの内容を英語で表現する テスト 第15回 復習および到達度の連絡 試験の結果を伝達。これまでのニュースの意味を日本語で表示し、それを英語で表現する。
準備学習の内容	普段から国内外のニュースに関心を寄せ、その時々々のニュースに現れる用語について「日本語では、あるいは英語ではどのように表現するのだろうか」といった好奇心をもって常日頃の生活を送り、その都度、辞書で調べる習慣をつけてほしい。
教育目標に対する科目の位置付け	日本語や外国語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標2)
教科書	教科書は使用しない。その時々々のニュースを英語で紹介し、プロジェクターで表示し、学生諸君に正確に写し取ってもらう。
参考書	英辞郎（ALC）
評価基準及び成績評価方法	授業への取り組みを30%、不定期の複数回のテストの合計点を70%とし、双方を勘案しながら全体としての到達度60%に達した者に対し単位を認定する。
達成度の伝達及び達成度評価	ノートなどを定期的に提出してもらい、授業への参加度を確認する。また、テストは採点後に返却し、到達度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	原則として、前期は火曜日3コマ目、後期は金曜日3コマ目とするが、質問がある場合には、双方にとって十分な時間を確保し、その日時を設定するためにも授業の直後に申し出ることが望ましい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：時事英語B

英文科目名称：Current English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	講義
担当教員				
河内健志				
外国語				

授業概要	世界中の様々な文化・社会・環境等の時事問題に触れながら、英文を読み、内容を的確に把握することを目指す。また、学習したことに基づき、各トピックについて自分の意見を英語で表現できるようにする。 [到達目標] 1. 時事英語に特有な表現や語彙を身につける。 2. 短い記事内容を的確に把握する能力を養成する。 3. 自分の意見を英語で表現する能力を養う。		
授業計画	第1回	導入 教科書と授業の進め方の説明	
	第2回	Lesson 1 It Takes a Village -カーボンニュートラル イギリスの小さな村の取り組み- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第3回	Lesson 2 Another Exam Hell -中国の受験事情- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第4回	Lesson 3 Talk about Unfair! -世界で拡がる貧富の格差- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第5回	Lesson 1, 2, 3 の小テスト / Lesson 4 Thou Shalt Not Steal -美術品を守れ- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第6回	Lesson 5 Zap! -客室乗務員への暴行- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第7回	Lesson 6 Mind Games -ゲーム中毒- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第8回	Lesson 4, 5, 6 の小テスト / Lesson 7 The Time Has Come -消えゆくサーカス- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第9回	Lesson 8 Briding a Divide -世代を超えて共に暮らす- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第10回	Lesson 9 A Drinking Problem -パキスタンでの飲酒事情- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第11回	Lesson 7, 8, 9 の小テスト / Lesson 10 Transparency International -透明性の高い社会を目指す- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第12回	Lesson 11 Counting Sheep -羊が主役?のニュージーランド- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第13回	Lesson 12 Trains, Planes, and Arrests -差別の撲滅に向けて- 予習：本文の語句を調べ、本文を読んてくる。 復習：今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。	
	第14回	期末試験 これまでの学習内容の確認	
	第15回	期末試験の解説、到達度の伝達 自己の到達度の確認し、これからの英語学習の計画を立てる。	
準備学習の内容	授業の最後に次回授業範囲を説明するので、事前に目を通してわからない語句は調べておくこと。 授業で扱った内容を整理し、不明な点があれば積極的に質問すること。		
教育目標に対する 科目の位置付け	1. 各トピックについて自分の意見を英語で述べたり、書いたりすることで英語の運用能力、自己表現力を養う。 (教育目標2) 【コミュニケーション能力の涵養】 2. テキストの例題および課題英語表現作成を通して、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習の習慣を身につける。 (教育目標6) 【積極性と自己学習の習慣】		
教科書	Jim Knudsen 著 WHAT IN THE WORLD: ちょっと世界を見てみよう！ 南雲堂		
参考書	【Web辞典】 「英辞郎 on the WEB」 (https://www.alc.co.jp) 「Weblio 英和・和英辞典」 (https://ejje.weblio.jp)		
評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み(小テスト、課題を含む) を50点、期末試験を50点とし、双方の合計（100点）が60点以上の者に単位を認定する。		

達成度の伝達及び 達成度評価	小テスト・期末試験を採点后に返却し、達成度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：中国語Ⅰ

英文科目名称：Chinese Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
徳井範子				
外国語				

授業概要	まずは現代中国語で使われる簡体字について知り、続いてピンイン・声調へと発音の学習から始めていく。日常で使われる簡単な挨拶を覚え、使えるようにする。そして初歩の会話文を基に、基本的文法事項を学習する。各課の初めには先ず文法事項に重点を置いて解説し、そのあとで本文を読みながら発音の練習へと続ける。「読む・書く・聞く・話す」のバランスのとれた学習をし、その能力を身に着けるようにする。各課の終了ごとに練習問題を解くことで知識を定着させ、その課のまとめとする。また、時には中国に関するDVDなどを鑑賞することもある。			
授業計画	第1回	ガイダンス（教科書・辞書の紹介） 簡体字を知る（日本の漢字との違い） 簡体字を書く練習をし、基本を覚える。		
	第2回	ピンインと声調 発音（1）母音 声調が自然に区別できるように、声に出して練習する。		
	第3回	発音（2）子音・鼻母音 CDを聞き、声に出して練習する。		
	第4回	発音（3）声調の変化 発音のまとめの練習（聞き取り） CDを聞き、声に出して練習する。		
	第5回	人称代名詞 「是」 を使った文 諾否疑問文 単語の発音・意味の確認。		
	第6回	指示代名詞（1）これ・あれ 疑問詞疑問文 単語の発音・意味の確認。		
	第7回	「的」の用法（1）所有・所属 副詞 単語の発音・意味の確認。		
	第8回	動詞述語文 動詞「有」（1）所有 新出単語、特に動詞の使い方を覚える。		
	第9回	省略疑問文 指示代名詞（2）この・あの これまで習った疑問文を思い出し、語順に注意し書く練習をする。		
	第10回	数詞・量詞 数の言い方・訪ね方 2桁程度の数字は、無理なく言えるように練習する。		
	第11回	形容詞述語文 年月日・時間の言い方（名詞述語文 形容詞述語文・名詞形述語文について復習する（英語・日本語との違い）。		
	第12回	「了」完了を表す言い方 複雑な「了」の用法を整理しながら覚える。		
	第13回	「在」所在を表す言い方 助動詞（1）「想」 単語の発音・意味の確認。		
	第14回	介詞（1）「在」「離」 動詞「有」（2）存在 単語の発音・意味の確認。		
	第15回	反復疑問文 時間量を表す語 単語の発音・意味の確認。		
	第16回	助動詞（2）「得」 介詞（2）「從」 単語の発音・意味の確認。		
	第17回	経験を表す言い方「過」 強調の文（1）「是・・・的」 単語の発音・意味の確認。		
	第18回	介詞（3）「和」「給」 語順に注意し、簡単な文が書けるようにする。		
	第19回	助動詞（3）「能」「会」 補語（1）様態補語 動詞と補語の関係をしっかり理解する。		
	第20回	動作の進行形 補語（2）方向補語 動詞と補語の関係をしっかり理解する。		
	第21回	選択疑問文 強調の文（2）目的語を文頭に 単語の発音・意味の確認。		
	第22回	比較 「的」の用法（2）前に句を置くとき 単語の発音・意味の確認。		
	第23回	動詞と目的語（2つの目的語・主述句） 単語の発音・意味の確認。		
	第24回	長文を読んでみる（1）		

	配布プリントの発音・意味などを調べておく。 第25回 長文を読んでみる（２）皆の前で読む 特に四声に注意し、長い文をスムーズに読めるようにする。 第26回 まとめの問題を解く 発音・文法・訳の問題 出来る範囲で問題を解いてみる。間違い箇所はよく覚える。 第27回 これまでのまとめと期末試験 試験範囲の見直しと復習をし、試験にのぞむ。 第28回 これまで学習した内容を使って、自己紹介文（200字程度）を書いてみる テーマを決めておく（大学生活・家族・将来の夢など）。 第29回 テストの返却と解説 自己紹介文の発表 間違った箇所の見直しをする。自作の文の発音等、確認しておく。 第30回 DVD鑑賞（中国の衣食住、名所旧跡、名作映画など） 興味を引かれた点など、自分でさらに調べてみるのもよい。
準備学習の内容	各課の最後に行う練習問題は必ず復習し、単語・文型をよく覚え、不明な点があったら次の授業で質問すること。また、次の課に入る前には、新出単語に目を通しておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	初めて中国語を学ぶ者を対象とするもので、正確な発音の習得と初歩的な文法事項を学び、中国語の文の構造に慣れてもらうことを目標とする。ヒアリングや練習問題で訓練し、文章を読み・書くために必要な基本表現を身につけるようにする。また、中国語を通して中国の社会と文化についても興味を持つようにする。 (学習・教育目標2) (学習・教育目標6)
教科書	「さあ、中国語をまなぼう！会話・購読」竹島 毅 他著 白水社
参考書	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する
評価基準及び成績 評価方法	原則として、期末テストの点数が60点以上を合格とする。また、数回の小テストの点数も加味する。ただし、60点に満たない者でも、課題やレポートの提出状況およびその内容が十分であると認められる場合には合格とすることもある。
達成度の伝達及び 達成度評価	小テスト・期末テストの返却による。課題については、添削・評価を付けて返却する。
資格情報	
オフィスアワー	火曜日・金曜日の3コマ目
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：中国語Ⅱ

英文科目名称：Chinese 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
徳井範子				
外国語				

授業概要	中国語Ⅰで使用した教科書を、引き続き使用する。まずはこれまでの内容を発音から復習していくので、初めての受講でも十分についていける内容となっている。最初の数回は中国語Ⅰで学習した発音・初級の文法等の復習を行う。付属のCDの音声を聞きながら発音の練習を繰り返すことによって、より正しい発音を身に付けて行く。同時に、課文だけでなく易しい内容の長文を読むことで、語彙を増やす練習もある。各課のまとめとして、ヒヤリングを含めた練習問題を解き知識を定着させるようにする。			
授業計画	第1回	ガイダンス（教科書・辞書の紹介）中国語Ⅰの復習（発音・簡体字・ピンイン） 母音を中心に発音の練習をする。基本的な発音が出来るようにする。簡体字の仕組みを理解し、書けるようにする。		
	第2回	中国語Ⅰの復習 2 発音 子音を含む発音の練習 2 音節以上の語を声調に気を付けて正しく発音できるようにする。		
	第3回	中国語Ⅰの復習 3 基本の3文型 基本文型を使った、簡単な文を作れるようにする。		
	第4回	中国語Ⅰの復習 4 各種疑問文 語順に注意し、疑問文の作り方を覚える。		
	第5回	中国語Ⅰの復習 5 動作の完了・経験・進行の文 複雑な「時制」について正しく理解する。		
	第6回	中国語Ⅰの復習 6 助動詞・副詞・介詞 数字の言い方 文中の位置に注意して覚える。年月日、時刻の言い方を覚える。		
	第7回	中国語Ⅰの復習 補語 様態補語・方向補語 複雑な文型を正しく理解する。		
	第8回	助動詞「可以」～できる 主述述語文 「会」「能」との使い分けを理解する。		
	第9回	動詞の重ね型 いろいろな重ね型 「的」の用法 動詞によって違う型があるのを理解する。		
	第10回	比較の文 仮定法 もし～なら「要是」 肯定・否定形が正しく書けるようにする。		
	第11回	持続を表す「着」 副詞「就」 現在進行形との違いを理解する。		
	第12回	副詞 ちょっとの言い方 連動文 いくつかの言い方があるのを覚える。 動詞を並べる順に注意する。		
	第13回	「了」の用法 変化を表す「了」 完了の「了」との違いを理解する。		
	第14回	強調の文「是～的」 複雑な文型を理解する。		
	第15回	二重目的語をとる動詞 目的語を2つとれる動詞と、とれない動詞があることを理解する。		
	第16回	補語（3）結果補語 複雑な文型を理解する。		
	第17回	存現文「有」「在」 「有」「在」の使い分けを理解する。		
	第18回	近い未来を表す「快～了」 他の「了」の用法との違いを理解する。		
	第19回	使役を表す文 ～させる 正しい文が作れるようにする。		
	第20回	補語（4）可能補語 複雑な文型を理解する。		
	第21回	「被」受け身の文 正しい文が作れるようにする。		
	第22回	「把」の文 複雑な文型を理解し、覚える。		
	第23回	重要事項のまとめと確認 1 「了」の3つの用法 「了」の必要な時とその位置を、正しく理解する。		
	第24回	重要事項のまとめと確認 2 能願動詞の使い分け 配布プリントの問題をやってみる。		

	第25回 重要事項のまとめと確認 3 各種補語 複雑な文型を理解し、覚える。 第26回 長文を読んでみる 配られたプリントの発音・意味などを調べておく。 第27回 これまでのまとめと期末試験 試験範囲の見直しと復習をし、試験に臨む。 第28回 これまで学習した内容を使って、自己紹介文（200字程度）を書いてみる。 テーマを決めておく（大学生活・家族・将来の夢など） 第29回 テストの返却と解説 間違った箇所の見直しをする。 第30回 DVDの鑑賞（中国の衣食住、名所旧跡、季節の行事、名作映画など） 興味を引かれた点など、自分でさらに調べてみるのもよい。
準備学習の内容	各課の最後に行う練習問題は必ず復習し、単語・文型ともによくおぼえること。また、新しい課に入る前に新出単語に目を通してから授業に臨むこと。
教育目標に対する科目の位置付け	中国語の初級の内容を学習した後の者が、中級へのステップアップのための知識の習得を目標とする。同時に基礎的な事項が習得できているかどうかの再確認を行ないながら、繰り返し復習しながら進めて行く。同時に、中国語を通して中国の社会や文化についても興味を持つようにする。(学習・教育目標2)(学習・教育目標6)
教科書	「さあ、中国語を学ぼう！会話・購読」竹島 毅 他著 白水社
参考書	特に指定しない。必要に応じて配布する。
評価基準及び成績評価方法	原則として、期末テストの点数が60点以上を合格とする。また、数回の小テストの点数も加味する。ただし60点に満たない者でも、各小テストの点数および提出すべきレポートや課題の内容が十分であると認められる場合には、合格とすることもある。
達成度の伝達及び達成度評価	小テスト・期末テストの返却による。課題については、添削・評価の後で返却する。
資格情報	
オフィスアワー	火曜日・金曜日の3コマ目
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語会話B

英文科目名称：English Conversation B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
Tengan				
外国語				

授業概要	The main goals of this course are to appropriately use current spoken patterns of the English language, and to improve basic English communication skills including confidence through in-class practice and presentation			
授業計画	Class 1 Class Introduction We will go over class procedures and expectations as well as common questions used in class and how to ask them. Then the students will introduce themselves. Class 2 Unit 1 I Am an Engineering Student. In this unit, the student will review the language and vocabulary used in a self-introduction. Class 3 Unit 2 Terrible ! I Forgot My Math Homework. In this unit, students will learn several greetings as well as be able to ask and answer questions about their current condition. Class 4 Unit 3 I Love Math. In this unit, students will explore their likes and dislikes and share them with their partners via conversation. Class 5 Unit 4 I'm Very Good at Science. In this unit, students will learn how to express what skills they are good in as well as which skills they are bad in. Class 6 Unit 5 How Was the Biology Test? We will review the first four units. Then we will learn to express how something was and the vocabulary that goes with it. Class 7 Unit 6 I Am Going to Take Geometry Next Year. During this lesson, students will learn to talk about the future, whether it be plans for the weekend or ten years from now. Class 8 Unit 7 I Want to Be a Systems Engineer. In this unit, students will learn how to express what they want to be or do in the future. Class 9 Unit 8 Wind Turbines Are Popular in Europe. In this unit, students will learn positive as well as negative responses expressing how they feel about something. Class 10 Unit 9 I Was Late Because of the Typhoon. During this lesson, students will learn how to ask for reasons why something has happened as well as answer these questions and we will review units 5-8. Class 11 Unit 10 Could You Hand Me a Beaker? In this unit, students will learn the language and vocabulary used in making requests or asking permission. Class 12 Unit 11 I Often Play Computer Games. In this unit, students will not learn how to play computer games, rather they will learn how to talk about time and frequency. Class 13 Unit 12 What Do You Think About the New Wi-Fi? In this unit, students will learn and practice expressing positive and negative opinions through conversation. Class 14 Review We will review all units for a final exam. Class 15 Final Exam Good luck!!			
準備学習の内容				
教育目標に対する科目の位置付け				
教科書	Basic Communication for the Sciences (Kinseido)			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	Students will be graded on active participation in daily conversations as well as quizzes, homework, attendance and their final examination.			
達成度の伝達及び達成度評価				
資格情報				
オフィスアワー	I don't have any office hours but feel free to approach me anytime before or after class or anytime you see me!			
備考				
履修登録条件				

講義科目名称：英語会話B

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
Boland				
外国語				

授業概要	当演習の最終目標は、英語による自己表現力を向上させることである。特にリスニング・スピーキングに焦点を当て、様々な場面で活用できるコミュニケーション技術を身に付ける訓練を行う。The primary purpose of this course is to encourage and challenge students to use and improve their existing English ability. The course introduces students to practical strategies useful for everyday communication in English. Though reading and writing English is an important aspect of this course, the emphasis is oral comprehension (listening) and communication (speaking).	
授業計画	1. 講義概要・自己紹介 Course introduction and procedures. 一般的な表現を使用して挨拶、自己紹介を行う。 Commonly used phrases and questions for use in class. Self: greetings and introductions, name order. 授業の予習・復習を行うこと。 2. 家族について Family: identifying family members and describing family relationships. 一般的な表現を使用して家族について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 3. 人物紹介 Appearances: identifying & describing people through physical appearances. 一般的な表現を使用してまわりの人について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 4. 意見を述べる Personality: identifying personal qualities and expressing opinions. 一般的な表現を使用して意見を述べてみる。 授業の予習・復習を行うこと。 5. 住宅事情について Homes: understanding descriptions of homes. Describing homes and furnishings. 一般的な表現を使用して住宅事情について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 6. 町について Cities: understanding description of places and describing cities & landmarks. Understanding and giving directions. 一般的な表現を使用町について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 7. 旅行について Travel & sightseeing: identifying & describing locations in a country, region, or city. Planning a trip. 一般的な表現を使用して旅行について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 8. 天気について Weather: understanding weather reports. Identifying & understanding weather, climate, and related natural phenomena. 一般的な表現を使用天気について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 9. 音楽について Music: identifying likes & dislikes. Understanding & describing different genres of music. 一般的な表現を使用して音楽について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 10. 習慣について Routines: understanding & identifying times, events, and schedules. 一般的な表現を使用して日常生活の習慣について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 11. 飲食について Food & dining: understanding & describing food, ordering food. 一般的な表現を使用して飲食に関して説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 12. スポーツについて Sports: understanding & describing different kinds of sports. 一般的な表現を使用スポーツについて説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 13. 娯楽について Entertainment: recognizing & giving invitations. Understanding & describing different forms of entertainment. 一般的な表現を使用して娯楽について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 14. 買い物について Shopping: recognizing types stores and shopping. Understanding locations within a store. Expressing likes & desires and asking for assistance. 一般的な表現を使用して買い物について説明する。 授業の予習・復習を行うこと。 15. 復習と期末試験Review for final exam. 復習をしてから、期末試験を実施する。	
準備学習の内容	90分授業に対して、週3時間程度は予習・復習に費やすことが望ましい。 Students are advised to study approximately 3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson.	
教育目標に対する科目の位置付け	最終的には、基本的な英語表現能力を身に付けていることが望ましい。具体的には、自分自身や身の回りのこと、過去の経験や未来のことなど、意見を述べることができる能力を身に付ける訓練を行う。 By the end of the course students will be able to communicate basic information about themselves and their	

	surroundings. Students will learn to express practical needs and give instructions. Students will be able to communicate past experiences and future desires. Students will also learn to evaluate information critically and express opinions.
教科書	使用教材は、毎回教員により配布される。また、授業内でパソコン、スマートフォン、タブレットなどで、インターネットにアクセスして、アップデートな情報を入手しながら、コミュニケーション能力の向上に役立つ訓練を行う。 There is no textbook for this course. The instructor provides learning materials. The course will make extensive use of the Internet both in class and for individual study outside of class. Instructor assumes students own or have access to an Internet enabled device. Use of smartphone, tablet, or notebook computers in class is encouraged.
参考書	授業内で紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	成績は、出席（２０％）、授業への貢献（１０％）、個人またはグループによる課題（３０％）、小テスト（２０％）、期末試験（２０％）により評価する。 Grades are based on attendance (20%), class participation (10%), individual and group projects & assignments (30%), quizzes (20%), and final exam (20%).
達成度の伝達及び 達成度評価	受講者は、授業内で実施するディスカッションやプロジェクトに積極的に参加することが望まれる。出席率に関しては大学規定に合わせる。成果については、その都度フィードバックを行う。 Students are expected to participate in class discussions and projects. Attendance policy is consistent with university rules. Students are expected to conduct themselves with academic integrity and honesty.
資格情報	特になし。
オフィスアワー	木曜日１２：００～１４：００ （要予約） Thursdays 12:00 ? 14:00 or by appointment
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語会話C

英文科目名称：English Conversation C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
Tengan				
外国語				

授業概要	The main goals of this course are to appropriately use current spoken patterns of the English language, and to improve basic English communication skills, including confidence, through in-class practice and presentations.			
授業計画	Class 1Class Introduction We will go over class procedures as well as commonly used phrases and questions used during the lessons. Then we will give self-introductions. Class 2Unit 1 New Faces New Places In this unit we will review how to give a self introduction and learn to talk about where you come from. Class 3Unit 2 I Like That, Too! In this unit we will learn how to talk about our likes and dislikes. Questions with 'do' Class 4Unit 3 Special Interests In this unit we will learn how to ask and answer questions about hobbies as well as talking about your family. Class 5Unit 4 I Like Your Clothes In this unit we will learn how to talk about fashion and shopping and the vocabulary that comes with it. Class 6Unit 5 You're Always Late! We will do review game 1 and learn how to tell and ask the time. Class 7Unit 6 Let's Have A Party In this unit we will learn to talk about dates and days and the language that is used in these situations. Class 8Unit 7 Different Abilities In this unit we will learn how to give information on an application form as well as say how good at something you are. Class 9Unit 8 How Was Your Day? In this unit we will learn the vocabulary and language used to talk about things that happened during the day as well as the weekend. Class 10Unit 9 Where Did You Get That Tan? We will do review game 2 then we will learn to talk about our childhood as well as describing vacations. Class 11Unit 10 I Never Knew That In this unit we will continue to learn about how to talk about your childhood as well as talking about your school days. Class 12Unit 11 What Did He Look Like? In this unit we will learn how to give descriptions of people and how to give your opinion of your own appearance. Class 13Unit 12 Planning For Tomorrow In this unit we will learn how to talk about our hopes and plans for the future. We will also learn bout how to talk about holiday plans. Class 14Review We will do review game 3 as well as review all units for the final exam. Class 15Final Exam Good luck!!			
準備学習の内容				
教育目標に対する科目の位置付け				
教科書	Advantage Second Edition Get Going (MacMillan Languagehouse)			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	Students will be graded on active participation in daily conversations as well as quizzes, homework, attendance and a final exam.			
達成度の伝達及び達成度評価				
資格情報				
オフィスアワー	I don't have office hours but feel free to appoach me before or after class or anytime you see me.			
備考				
履修登録条件				

講義科目名称： 日本語 I

英文科目名称： Japanese 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
落合美佐子				
外国語				

授業概要	留学生対象。日本語の総合力向上を目指すと共に、大学で学ぶのに必要な日本語能力を養うことを目標とする。大学生生活全般で必要とされる漢字・語彙を習得し、専門書を読んだりレポートを書いたりする基礎力を身につける。さらに、聴解教材でポイント聴解とノートの取り方などを学習する。			
授業計画	第 1 回	コース・ガイダンス、レベルチェック コースの説明、レベルチェック・インタビュー		
	第 2 回	漢字・語彙 第1課 第1課「掃除」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 3 回	漢字・語彙 第2課 第1課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 4 回	漢字・語彙 第3課 第2課「本屋」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 5 回	漢字・語彙 第4課 第2課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 6 回	漢字・語彙 第5課 第3課「新幹線のおでこ」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 7 回	漢字・語彙 第6課 第3課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 8 回	漢字・語彙 第7課 第4課「体験プレゼント」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 9 回	漢字・語彙 第8課 第4課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 0 回	漢字・語彙 第9課 第5課「そば屋ののれん」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 1 回	漢字・語彙 第10課 第5課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 2 回	漢字・語彙 第11課 第6課「犬の肥満」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 3 回	漢字・語彙 第12課 第6課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 4 回	漢字・語彙 第13課 第7課「卵かけご飯」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 5 回	漢字・語彙 第14課 第7課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 6 回	漢字・語彙 中間テスト まとめと中間テスト 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。わからない表現は調べておく。		
	第 1 7 回	漢字・語彙 第15課 第9課「剣道」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 8 回	漢字・語彙 第16課 第9課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 1 9 回	漢字・語彙 第17課 第10課「落語」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		
	第 2 0 回	漢字・語彙 第18課 第10課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。		

	第 2 1 回 漢字・語彙 第19課 第11課「そばをすする音」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。 第 2 2 回 漢字・語彙 第20課 第11課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。 第 2 3 回 漢字・語彙 第21課 第12課「将棋」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。 第 2 4 回 漢字・語彙 第22課 第12課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。 第 2 5 回 漢字・語彙 第23課 第13課「南極」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。 第 2 6 回 漢字・語彙 第24課 第13課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。 第 2 7 回 漢字・語彙 第25課 第14課「明治神宮の森」 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。 第 2 8 回 漢字・語彙 第26課 第14課つづき 導入漢字・語彙はよく復習しておく。 聴解のノートを整理しておく。 第 2 9 回 まとめと期末テスト わからないところは調べて、総復習をしておく。 第 3 0 回 コースまとめ テスト内容を確認する。 日本語学習を振り返り、自分の課題を見つける。
準備学習の内容	語彙の予復習は必須である。聴解教材で提示される新しい表現は、意味がわかるだけでなく正しく使えるように学習しておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	教育目標②コミュニケーション能力の涵養 教育目標⑥積極性と自己学習の習慣
教科書	アルク『大学・大学院留学生の日本語⑤漢字・語彙編』 スリーエーネットワーク『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 [中上級] 』
参考書	授業の中で指示する。必要に応じて資料を配布する。
評価基準及び成績 評価方法	積極的に課題に取り組み自己学習の習慣が身についているかは、毎回行う既習漢字・語彙クイズ20%、および提出物・授業参加度20%で評価する。 日本語の基礎知識および技能習得については中間テスト30%、期末テスト30%で評価し、全体を100とした60%以上を合格点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	提出物・クイズ・テストはそれぞれ採点・添削し、返却時にその都度解説する。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	留学生のみ履修することができる。

講義科目名称：日本語Ⅰ

英文科目名称：Japanese 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
丁大玉				
外国語				

授業概要	留学生を対象とする本授業では、日本語の語彙を毎回少しずつ学習し、初級文法をピンポイントで復習する。また、日本語の聴解練習や読解練習を実施する。作文の練習を行うこともある。			
授業計画	第 1 回	会話：「尋ねる・確かめる」 会話の練習 漢字の読み方や言葉の意味を尋ねる 会話の練習 聞き取れなかった内容を尋ねる 読解・聴解の練習 掲示板や表示を読んで、意味を確認する		
	第 2 回	会話：「電話で連絡する」 会話の練習 遅刻や休みの連絡 会話の練習 伝言の依頼 読解・聴解の練習 ファックス通信文		
	第 3 回	会話：「頼む」 会話の練習 いろいろな頼み方 読解・聴解の練習 手紙文の読み		
	第 4 回	会話：「許可をもらう」 会話の練習 丁寧に許可を求める 会話の練習 許可が欲しい理由をきちんと説明する 読解・聴解の練習 許可願いの申請書		
	第 5 回	会話：「誘う・断る」 会話の練習 相手の意向や都合を聞きながら誘う 会話の練習 待ち合わせ時間や場所を確かめながら話を進める 読解・聴解の練習 依頼の手紙、御礼の手紙		
	第 6 回	会話：「訪問する・紹介する」 会話の練習 人を訪問したときの挨拶 会話の練習 自分のことや出身地について紹介する 読解・聴解の練習 自己紹介文		
	第 7 回	会話：「症状を伝える」 会話の練習 病気やけがの様子を詳しく話す 会話の練習 医者の説明や注意を聞いて、それを理解する 読解・聴解の練習 問診表の内容		
	第 8 回	会話：「買い物する」 会話の練習 買いたいものを説明する。 会話の練習 理由を説明して、買ったものを取り替えてもらう 読解・聴解の練習 広告やチラシから必要な情を読み取る		
	第 9 回	会話：「道を尋ねる」 会話の練習 道順を尋ねる 会話の練習 道順の説明を聞きながら大切な点を確認する 読解・聴解の練習 町の中で見かける道案内の看板や表示を理解する		
	第 1 0 回	会話：「手順を説明する」 会話の練習 機械などの操作手順の説明 会話の練習 説明を聞きながら分からないところをきちんと尋ねる 読解・聴解の練習 自分の国の料理の作り方を順序よく説明する		
	第 1 1 回	会話：「人とつきあい」 会話の練習 日本人とのつきあいの中で礼儀正しい会話 会話の練習 友達との気持ち良いつきあい方を考える 読解・聴解の練習 あいさつ状や贈り物の習慣について知る		
	第 1 2 回	会話：「比較する」 会話の練習：物事をいろいろな面から比較する 会話の練習：比較して分かった違いや変化について考え、話し合う 読解・聴解の練習：グラフなどの資料から正しく情報を読み取る		
	第 1 3 回	会話：「苦情を言う・謝る」 会話の練習：相手の気持ちを考えながら、苦情を言う 会話の練習：事情を説明して謝る 読解・聴解の練習 注意事項などの掲示物を読んで理解する		
	第 1 4 回	会話：「ほめる・けんそんする」 会話の練習：人の持ち物や能力などがうまく褒められる 会話の練習：褒められた時、適切に答えられる 読解・聴解の練習：店の紹介文を読んで理解する		
	第 1 5 回	会話：「仕事について話す」 会話の練習：自分の仕事について分かりやすく説明する 会話の練習：仕事の経歴や仕事に対する考えなどを話す		
	第 1 6 回	会話：「例える」 会話の練習：いろいろな比喩を使って表現する 会話の練習：擬態語を使った表現		

	第 1 7 回 会話：「相談する・提案する」 会話の練習：困っている状況や理由を分かりやすく伝える 会話の練習：問題解決方法を提案する表現 読解・聴解の練習：いろいろな断り方について理解する 第 1 8 回 会話：「計画を立てる」 会話の練習：計画を立てるための情報を集める 会話の練習：集めた情報を基に、人と相談して計画を立てる 第 1 9 回 会話：「意見を述べる」 会話の練習：相手への理解を示してから、自分の意見を言う 会話の練習：はっきり理由を言って自分の考えを伝える 読解の練習：意見を短く分かりやすい文にまとめる 第 2 0 回 会話：「環境を考える」 会話の練習：環境を例に取り上げ今社会で問題になっていることについて話す 読解・聴解の練習：問題を解決するために、自分に何ができるかを考える 第 2 1 回 初級文法：助詞の使い方 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：助詞 読解の練習：日本語能力試験問題 第 2 2 回 初級文法：「は」と「が」の使い方 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：「は」と「が」 読解の練習：日本語能力試験問題 第 2 3 回 初級文法：活用 1 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：活用 1 読解の練習：日本語能力試験問題 第 2 4 回 初級文法：活用 2 動詞の 3 分類と「て形」・「た形」 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：活用 2 読解の練習：日本語能力試験問題 第 2 5 回 初級文法：動詞の活用と文型 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：動詞の使い方 読解の練習：日本語能力試験問題 第 2 6 回 初級文法：ふつう形 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：ふつう形 読解の練習：日本語能力試験問題 第 2 7 回 初級文法：指示詞 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：こ・そ・あ 自分と相手との関係 読解の練習：日本語能力試験問題 第 2 8 回 初級文法：申し出・勧誘 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：自分の行為の申し出か、相手への働きかけか 読解の練習：日本語能力試験問題 第 2 9 回 初級文法：自分か他者か 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：意志の形、一人称・三人称（意志・意向；心の中のこと） 読解の練習：日本語能力試験問題 第 3 0 回 初級文法：継続性か、瞬間性か 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：状態を表わす動詞、動作・できごとを表す動詞、動詞の後に続く形 読解の練習：日本語能力試験問題
準備学習の内容	
教育目標に対する科目の位置付け	日本語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標2)
教科書	随時、プリントを配布する。
参考書	「新日本語の中級」 「初級日本語文法総まとめ 20ポイント」
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、期末試験を60点とし、その合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達及び達成度評価	毎回、演習問題を解説する。
資格情報	
オフィスアワー	オフィス・アワーは原則として教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は授業後か教員の内線番号に電話してあらかじめ面談の日時を決めておくこと。
備考	
履修登録条件	留学生のみ履修することができる。

講義科目名称： 日本語Ⅱ

英文科目名称： Japanese 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
落合美佐子				
外国語				

授業概要	留学生対象。専門書・レポート等の読解、作成に必要な漢字語彙を学習する。講義を聞く、討論に参加する、発表するなどの活動も視野に入れ、大学生らしい表現ができるようになることを目指す。			
授業計画	第 1 回	コース・ガイダンス	初回テスト	
		コースの説明	初回テストと解説	
	第 2 回	漢字・語彙 第27課	第 1 課「量」	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 3 回	漢字・語彙 第28課	第 1 課つづき	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 4 回	漢字・語彙 第29課	第 2 課「天神様」	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 5 回	漢字・語彙 第30課	第 2 課つづき	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 6 回	漢字・語彙 第31課	第 3 課「暗闇イベント」	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 7 回	漢字・語彙 第32課	第 3 課つづき	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 8 回	漢字・語彙 第33課	第 4 課「知里幸恵さん」	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 9 回	漢字・語彙 第34課	第 4 課つづき	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 1 0 回	漢字・語彙 第35課	第 5 課「開発途上国支援」	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 1 1 回	漢字・語彙 第36課	第 5 課つづき	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 1 2 回	漢字・語彙 第37課	第 6 課「バイオミクリー生物に学ぶ技術―」	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 1 3 回	漢字・語彙 第38課	第 6 課つづき	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 1 4 回	漢字・語彙 第39課	第 7 課「フェアトレード」	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 1 5 回	漢字・語彙 第40課	第 7 課つづき	
		漢字・語彙を予復習しておく。		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 1 6 回	まとめと中間テスト		
		中間テスト		
		間違えた項目の復習		
	第 1 7 回	第 9 課「バイオトイレ」		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 1 8 回	作文編 第 1 課・第 2 課		
		わからない表現を調べておく。		
	第 1 9 回	第 1 0 課「人はなぜ化粧をするのか」		
		聴解ノートを整理しておく。		
	第 2 0 回	作文編 第 3 課		
		わからない表現を調べておく。		
	第 2 1 回	第 1 1 課「茶の湯」		
		聴解ノートを整理しておく。		

	第２２回 作文編 第４課 わからない表現を調べておく。 第２３回 第１２課「ガラスの天井」 聴解ノートを整理しておく。 第２４回 作文編 第５課 わからない表現を調べておく。 第２５回 第１３課「子どもの顔」 聴解ノートを整理しておく。 第２６回 作文編 第６課 わからない表現を調べておく。 第２７回 第１４課「防災教育」 聴解ノートを整理しておく。 第２８回 作文編 第７課 わからない表現を調べておく。 第２９回 まとめと期末テスト 既習事項を総復習しておく。 第３０回 コースのまとめ 日本語学習を振り返り、自分の課題について考える。 課題作文
準備学習の内容	語彙の予復習は必須である。聴解教材で提示される新しい表現は、意味がわかるだけでなく正しく使えるように学習しておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	教育目標②コミュニケーション能力の涵養 教育目標⑥積極性と自己学習の習慣
教科書	アルク『大学・大学院留学生の日本語⑤漢字・語彙編』 スリーエーネットワーク『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 [上級]』 アルク『大学・大学院留学生の日本語②作文編』
参考書	授業の中で指示する。必要に応じて資料を配布する。
評価基準及び成績 評価方法	積極的に課題に取り組み自己学習の習慣が身についているかは、毎回行う既習漢字・語彙クイズ20%、および提出物・授業参加度20%で評価する。 日本語の基礎知識および技能習得については中間テスト30%、期末テスト30%で評価し、全体を100とした60%以上を合格点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	留学生のみ履修することができる。

講義科目名称：日本語Ⅱ

英文科目名称：Japanese 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
丁大玉				
外国語				

授業概要	留学生を対象とする本授業では、日本語の語彙を毎回少しずつ学習し、前期に引き続き初級文法をピンポイントで復習する。初級文法の復習がすべて終われば、さらに中級文法を学ぶ。また、日本語の聴解練習や読解練習を実施する。作文の練習を行うこともある。			
授業計画	第 1 回	初級文法：話者の位置 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：「～ていく・～てくる」の用法 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 2 回	初級文法：他動詞と自動詞の対 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：他動詞文と自動詞文；「する」と「なる」；「～である」と「～ている」 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 3 回	初級文法：可能表現 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：可能動詞 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 4 回	初級文法：事実か、気持ちが入っているか 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：事実を述べた文、話す人の気持ちが入っている文 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 5 回	初級文法：条件など 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：「～たら」、「～ば・～なら」、「～と」の使い方 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 6 回	初級文法：授受 だれがだれに？ 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：ものの授受、行為の授受 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 7 回	初級文法：使役 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：使役文、動詞の使役の形 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 8 回	初級文法：受身・使役受身 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：受身文の作り方、「受身文」と「～てもらう」文、使役受身文の作り方 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 9 回	初級文法：敬語 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：丁寧語、尊敬語、謙讓語 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 1 0 回	初級文法：文のスタイル 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：日本語の 2 つのスタイル 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 1 1 回	中級文法：いろいろな働きをする助詞 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：限定の意味を添える助詞、強調などを表す助詞、同類のことがらを並べる助詞 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 1 2 回	中級文法：話題の取り立て 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：話題を取り立てるときの言葉 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 1 3 回	中級文法：助詞の働きをする言葉 1 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：場所、場面、時点、範囲を表すもの；手段・方法、原因、対象を表すもの；、 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 1 4 回	中級文法：助詞の働きをする言葉 2 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：行動の基準を表すもの；関係ないこと、問題にしないことを表すもの 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 1 5 回	中級文法：助詞の働きをする言葉 3 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：判断、評価、行動の立場を表す言葉；評価の基準を表す言葉；対応を表す言葉 読解の練習：日本語能力試験問題		
	第 1 6 回	中級文法：名詞化の方法		

	漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：「こと」と「の」の用法 読解の練習：日本語能力試験問題 第 17 回 中級文法：複文構造 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：複文の中の「は」と「が」・時制 読解の練習：日本語能力試験問題 第 18 回 中級文法：名詞修飾 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：名詞修飾の用法と作り方 読解の練習：日本語能力試験問題 第 19 回 中級文法：複文を作る言葉 1（時間） 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：時点・時間幅を表す言葉；二つの出来事が同時か前後かを表す言葉 読解の練習：日本語能力試験問題 第 20 回 中級文法：複文を作る言葉 2 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：仮定の言い方・逆接の言い方 読解の練習：日本語能力試験問題 第 21 回 中級文法：複文を作る言葉 3 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：原因・理由を表す言葉；相関関係を表す言葉 読解の練習：日本語能力試験問題 第 22 回 中級文法：否定の言い方 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：強く否定する言い方；部分否定・消極的否定 読解の練習：日本語能力試験問題 第 23 回 中級文法：わたしからの発信 1 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：話者の感覚・強い気持ち・不可能判断 読解の練習：日本語能力試験問題 第 24 回 中級文法：わたしからの発信 2 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：話者の推量・願望・感嘆・提案 読解の練習：日本語能力試験問題 第 25 回 中級文法：決まった使い方の副詞 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：時間関係の副詞；否定の文、条件の文、変化を表す文とともに使う副詞 読解の練習：日本語能力試験問題 第 26 回 中級文法：接続の言葉 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：逆説的なことを言う文が続く；帰結を述べる文が続く；補足的に述べる文が続く 読解の練習：日本語能力試験問題 第 27 回 中級文法：語彙を広げる 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：複合動詞の使い方 読解の練習：日本語能力試験問題 第 28 回 中級文法：硬い文章 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：普通体の文章；連用中止系、硬い文章で使われる言葉 読解の練習：日本語能力試験問題 第 29 回 中級文法：丁寧な言い方 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：尊敬語・謙譲語・丁寧語など（中級レベル） 読解の練習：日本語能力試験問題 第 30 回 中級文法：会話・文章のまとめ 漢字の練習：漢字の読み方 文法の練習：会話のまとめ；文章の流れ 読解の練習：日本語能力試験問題
準備学習の内容	
教育目標に対する 科目の位置付け	日本語の運用力を養い、情報伝達の技術を習得する。また、言語を通して多様な文化を理解する。(学習・教育目標2)
教科書	随時、プリントを配布する。
参考書	「初級日本語文法総まとめ 20ポイント」 「中級日本語文法要点整理 20ポイント」
評価基準及び成績 評価方法	授業における平素の取り組み（小テストを含む）を40点、期末試験を60点とし、その合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。
達成度の伝達及び 達成度評価	毎回、演習問題を解説する。
資格情報	
オフィスアワー	オフィス・アワーは原則として教員の空き時間をあてている。質問等のある学生は授業後か教員の内線番号に電話してあらかじめ面談の日時を決めておくこと。
備考	

履修登録条件

留学生のみ履修することができる。

講義科目名称： 日本語Ⅲ

英文科目名称： Japanese 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
落合美佐子				
外国語				

授業概要	留学生対象。大学生活に必要なアカデミックな日本語表現を身につけることを目指す。主に論述的な文章が書けるようになることを目標とした演習を行う。また、時事的な日本語をまとめて聞く練習を行い、今日的なトピックについても考えていきたい。		
授業計画	第 1 回	コース・ガイダンス、レベルチェックテスト コースの説明、レベルチェックテスト、自分についてまとめて話す。	
	第 2 回	1 表記のしかた 既習事項をまとめておく。	
	第 3 回	経済・金融 1 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 4 回	2 文体 既習事項をまとめておく。	
	第 5 回	政治・行政 1 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 6 回	3 モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ 既習事項をまとめておく。	
	第 7 回	社会・生活 1 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 8 回	4 正しい構造の文 既習事項をまとめておく。	
	第 9 回	経済・金融 2 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 1 0 回	5 文のつながり 既習事項をまとめておく。	
	第 1 1 回	政治・行政 2 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 1 2 回	6 小論文によく使われる表現 既習事項をまとめておく。	
	第 1 3 回	社会・生活 2 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 1 4 回	7 段落 既習事項をまとめておく。	
	第 1 5 回	経済・金融 3 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 1 6 回	まとめと中間テスト 既習事項を総復習しておく。	
	第 1 7 回	8 要約文を書く 既習事項をまとめておく。	
	第 1 8 回	政治・行政 3 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 1 9 回	9 説明文を書く 既習事項をまとめておく。	
	第 2 0 回	社会・生活 3 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 2 1 回	1 0 意見文を書く 既習事項をまとめておく。	
	第 2 2 回	経済・金融 4 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 2 3 回	1 1 事実を示す方法 既習事項をまとめておく。	
	第 2 4 回	政治・行政 4 語彙・表現を予復習しておく。	
	第 2 5 回	1 2 小論文のはじめとおわり	

	既習事項をまとめておく。 第２６回 社会・生活４ 語彙・表現を予復習しておく。 第２７回 経済・金融５ 語彙・表現を予復習しておく。 第２８回 政治・行政５ 語彙・表現を予復習しておく。 第２９回 まとめと期末テスト 既習事項を総復習しておく。 第３０回 コースのまとめ 日本語学習を振り返り、自分の課題を考える。 課題作文
準備学習の内容	わからない表現は調べておく。課題は必ず提出すること。
教育目標に対する 科目の位置付け	教育目標②コミュニケーション能力の涵養 教育目標⑥積極性と自己学習の習慣
教科書	スリーエーネットワーク『小論文への12のステップ』 スリーエーネットワーク『ニュースの日本語聴解50』 スリーエーネットワーク『日本語上級話者への道』
参考書	特になし
評価基準及び成績 評価方法	コミュニケーション能力については、聴解教材の聞き取りとまとめ、意見交換などにおいて評価する。積極的に課題に取り組む姿勢は、演習や提出物の成績により評価する。これら２点を50%、中間・期末テスト各25%、計100として60点以上を合格点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	テストは採点をして返却し、提出物はその都度問題点があれば指摘する。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	留学生のみ履修することができる。

講義科目名称： 日本語Ⅳ

英文科目名称： Japanese 4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
落合美佐子				
外国語				

授業概要	留学生対象。大学生生活における研究活動に必要な表現に加え、社会人となっても通用する改まった日本語表現を学ぶ。コミュニケーションを円滑に行うための表現・マナーについても随時考えていく。また、聴解教材および読解教材により今日的な日本のトピックにも触れ、要約したり意見を述べたりする練習も行う。			
授業計画	第 1 回	コース・ガイダンス、待遇表現概説	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 2 回	I 待遇表現と敬語	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 3 回	経済・金融 6	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 4 回	II 様々な表現と使い方 1. 敬語表現 (1) 動詞の形と使い方	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 5 回	政治・行政 6	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 6 回	(2) あらたまった表現	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 7 回	社会・生活 6	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 8 回	2. 授受表現	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 9 回	経済・金融 7	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 0 回	3 丁寧体と普通体の使い分け	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 1 回	政治・行政 7	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 2 回	待遇表現まとめと中間テスト	既習事項を総復習しておく。	
	第 1 3 回	社会・生活 7	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 4 回	III 待遇表現が用いられる場面 1 依頼・誘いと承諾	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 5 回	経済・金融 8	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 6 回	2. 授受表現助言・忠告	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 7 回	政治・行政 8	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 8 回	3 主張・意見	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 1 9 回	社会・生活 8	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 2 0 回	4 許可・申し出	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 2 1 回	経済・金融 9	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 2 2 回	5 感謝・おわび	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 2 3 回	政治・行政 9	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	
	第 2 4 回	待遇表現まとめとテスト	わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。	

	第 2 5 回 社会・生活 9 わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。 第 2 6 回 上級日本語読解 1 わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。 第 2 7 回 上級日本語読解 2 わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。 第 2 8 回 上級日本語読解 3 わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。 第 2 9 回 上級日本語読解 4 わからない表現は調べておく。既習事項をまとめておく。 第 3 0 回 まとめと期末テスト（聴解・読解） 既習事項を総復習しておく。
準備学習の内容	知識を身につけるだけでなく、実際に使えるように主体的な態度で学習すること。わからないことを整理して質問をしたり自ら調べたりする姿勢が望まれる。
教育目標に対する 科目の位置付け	教育目標②コミュニケーション能力の涵養 教育目標⑥積極性と自己学習の習慣
教科書	スリーエーネットワーク『敬語を中心とした対人関係の表現―待遇表現―』 スリーエーネットワーク『日本語超級話者へのかけはし』 スリーエーネットワーク『ニュースの日本語 聴解50』 スリーエーネットワーク『留学生のための時代を読み解く上級日本語』
参考書	特になし
評価基準及び成績 評価方法	待遇表現に関する知識については中間テスト・期末テストの結果により評価する（各 3 0 %）。積極的に課題に取り組む姿勢および自己学習の習慣に関しては演習問題や提出物、授業参加度などにより評価する（4 0 %）。合計を 1 0 0 として、6 0 点以上を合格点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	テストは採点し、その他課題・提出物はその都度解説する。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	留学生のみ履修することができる。

講義科目名称：ドイツ語Ⅰ

英文科目名称：German 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
三谷泰正				
外国語				

授業概要	ドイツ語の知識ゼロのみなさんを対象とする授業です。ドイツ語の文字・単語を正しく音読する方法を学ぶところから着手して、ドイツ語文法の「基礎の基礎」について学びながら、それを実際にドイツ語を「読み、書き、話す」場面で応用するための練習を重ねてゆきます。 その一方で、時間が許す限り、言語としてのドイツ語、またはドイツ連邦共和国をはじめとするドイツ語圏諸国の文化、社会、歴史、現代事情などについても紹介してゆきたいと思っています。何であれ「ドイツ」に関わる事柄に興味があれば、ぜひ受講してみてください。		
授業計画	第 1 回	ガイダンス、ドイツ語のABC(アーベーツェー)	
	第 2 回	文字と発音(1) 母音	
	第 3 回	文字と発音(2) 子音	
	第 4 回	文字と発音(3) 応用と練習	
	第 5 回	第1課：文法解説と練習（人称代名詞、規則動詞の現在人称変化、seinとhaben、語順、jaとnein）	
	第 6 回	第1課：文法に関する補足学習	
	第 7 回	第1課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 8 回	第1課の補足学習と復習	
	第 9 回	第2課：文法解説と練習(名詞の性、定冠詞・不定冠詞・名詞の格変化、名詞の複数形)	
	第 1 0 回	第2課：文法に関する補足学習	
	第 1 1 回	第2課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 1 2 回	第2課の補足学習と復習	
	第 1 3 回	第3課：文法解説と練習（不規則動詞の現在人称変化、命令形、非人称のes）	
	第 1 4 回	第3課：文法に関する補足学習	
	第 1 5 回	第3課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 1 6 回	第3課の補足学習と復習	
	第 1 7 回	第4課：文法解説と練習（定冠詞類と不定冠詞類、人称代名詞の3格と4格、3格と4格目的語の語順）	
	第 1 8 回	第4課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 1 9 回	第4課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 2 0 回	第4課の補足学習と復習	
	第 2 1 回	第5課：文法解説と練習（疑問代名詞 wer と was、前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形）	
	第 2 2 回	第5課：文法に関する補足学習	
	第 2 3 回	第5課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	

	第 2 4 回 第5課の補足学習と復習 第 2 5 回 「ドイツ語II」への橋渡し(1) (テーマ: 話法の助動詞、分離動詞) 第 2 6 回 「ドイツ語II」への橋渡し(2) (テーマ: 形容詞の変化、比較表現) 第 2 7 回 「ドイツ語II」への橋渡し(3) (テーマ: 再帰表現、zu 不定詞) 第 2 8 回 「ドイツ語II」への橋渡し(4) (テーマ: 過去形、現在完了形) 第 2 9 回 期末試験(前期試験) 第 3 0 回 期末試験の解答解説、まとめ
準備学習の内容	
教育目標に対する科目の位置付け	ドイツ語の正しい音読法の習得、ドイツ語初級文法の核にあたる部分についての知識の獲得、それを「読み・書き・話す」場面で応用する能力の育成を目指します。
教科書	小野寿美子・中川明博・西巻丈児 『ブーメラン・エルエー』 (朝日出版社)
参考書	独和辞典が必要になりますが、あわてて買わなくても大丈夫です。どういう辞書を選ぶべきか、初回授業時に話題にします。
評価基準及び成績評価方法	平常点 (=与えられた課題の充足、授業への貢献など) 30点、期末試験 70点
達成度の伝達及び達成度評価	小テスト、期末試験等の実施後には必ず採点して返却するほか、その結果をめぐって授業内で十分な解説を行ないます。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： ドイツ語Ⅱ

英文科目名称： German 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	選択	演習
担当教員				
三谷泰正				
外国語				

授業概要	この授業は多様な参加者を想定しています。すなわち、「ドイツ語Ⅰ」の学習内容に飽き足りず、もっとドイツのことが知りたい、ドイツ語の力をつけたいと思った継続履修者のみなさんのほか、何らかの理由で「ドイツ語Ⅰ」の単位を取得出来なかったみなさんの再挑戦も可能ですし、後期になって新たにドイツ語を学びたくなったみなさんの新規参加も歓迎します。ドイツ語の予備知識は問いません。何であれ、「ドイツ」または「ドイツ語」関することに興味を持っていることが唯一の参加条件です。 授業は「ドイツ語Ⅰ」の範囲を総復習するところからスタートしますので、新規参加者のみなさんも心配ありません。前期とはまったく異なる方法で扱うので、「ドイツ語Ⅰ」単位習得者のみなさんも退屈させません。復習終了後、その基礎の上に立って、新しい文法事項(ドイツ語初級文法の後半にあたる部分)の学習と、それを「読み・書き・話す」ことに応用するための練習へと進んでゆきます。 もちろん ---「ドイツ語Ⅰ」の場合と同様 ---言語としてのドイツ語、またはドイツ語圏諸国に関するさまざまなトピックにも、可能な限り言及してゆくつもりです。そうすることで、皆さんが「ドイツ通」に一歩でも近づくためのお手伝いをしてゆきたいと思っています。		
授業計画	第 1 回	ガイダンス、文字と発音についての総復習(1)	
	第 2 回	文字と発音についての総復習(2)	
	第 3 回	文法の「基本の基本」についての総復習(1) 動詞	
	第 4 回	文法の「基本の基本」についての総復習(2) 冠詞(類)・名詞	
	第 5 回	文法の「基本の基本」についての総復習(3) 代名詞・疑問詞	
	第 6 回	文法の「基本の基本」についての総復習(4) 前置詞	
	第 7 回	第6課：文法解説と練習（話法の助動詞、複合動詞、従属接続詞と副文）	
	第 8 回	第6課：文法に関する補足学習	
	第 9 回	第6課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 1 0 回	第6課の補足学習と復習	
	第 1 1 回	第7課：文法解説と練習（形容詞の格変化、比較表現）	
	第 1 2 回	第7課：文法に関する補足学習	
	第 1 3 回	第7課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 1 4 回	第7課の補足学習と復習	
	第 1 5 回	第8課：文法解説と練習（動詞の三基本形、現在完了形）	
	第 1 6 回	第8課：文法に関する補足学習	
	第 1 7 回	第8課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 1 8 回	第8課の補足学習と復習	
	第 1 9 回	第9課：文法解説と練習（過去、再帰代名詞と再帰動詞）	
	第 2 0 回	第9課：文法に関する補足学習	
	第 2 1 回	第9課：表現の学習および、辞書を用いた読解の練習	
	第 2 2 回	第9課の補足学習と復習	

	第 2 3 回 第10課： 文法解説と練習（zu 不定詞、関係代名詞） 第 2 4 回 第10課： 文法に関する補足学習 第 2 5 回 第10課： 表現の学習および、辞書を用いた読解の練習 第 2 6 回 第10課の補足学習と復習 第 2 7 回 文法補足(1)（テーマ： 受動態、分詞） 第 2 8 回 文法補足(2)（テーマ： 接続法） 第 2 9 回 期末試験（後期試験） 第 3 0 回 期末試験の解答解説、まとめ
準備学習の内容	
教育目標に対する 科目の位置付け	ドイツ語初級文法全体を俯瞰出来るようになることと、そのなかでも特に重要な項目を、ドイツ語を「読み・書き・話す」場面で生かせるようになることを目指します。
教科書	小野寿美子・中川明博・西巻丈児『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）
参考書	独和辞典が必要になります。どういう辞書を選ぶべきか、初回授業時に話題にします。
評価基準及び成績 評価方法	平常点 (=与えられた課題の充足、授業への貢献など) 30点、期末試験 70点
達成度の伝達及び 達成度評価	小テスト、期末試験等の実施後には必ず採点して返却するほか、その結果をめぐって授業内で十分な解説を行ないます。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：工業英語 C

英文科目名称：Technical English C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
河内健志				
外国語				

授業概要	英語で書かれた先端科学技術の様々な専門分野について書かれている記事を題材にして、書かれている情報を正確に理解する力の向上を主眼に置く。その中で、文の構造や文章構成を理解し、科学技術分野の専門用語の習得も目指す。また、学習した文の構造や文章構成方法を用いて、自身の専門分野についての話題を表現する力の向上を目指す。		
授業計画	第1回 導入 教科書と授業の進め方の説明 第2回 Chapter 5 進化するポータブル・デバイス (1) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第3回 Chapter 5 進化するポータブル・デバイス (2) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第4回 Chapter 5 進化するポータブル・デバイス (3) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第5回 Chapter 6 癌を検知する「賢いメス」 (1) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第6回 Chapter 6 癌を検知する「賢いメス」 (2) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第7回 Chapter 6 癌を検知する「賢いメス」 (3) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第8回 Chapter 7 緊急時に「光る」モノ (1) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第9回 Chapter 7 緊急時に「光る」モノ (2) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第10回 Chapter 7 緊急時に「光る」モノ (3) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第11回 Chapter 8 超電導リニア登場 (1) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第12回 Chapter 8 超電導リニア登場 (2) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第13回 Chapter 8 超電導リニア登場 (3) 予習: 本文の語句を調べ、本文を読んでくる。 疑問点や不明点を明確にしてくる。 復習: 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。 第14回 期末試験 これまでの学習内容の確認 第15回 期末試験の解説、到達度の伝達 自己の到達度の確認し、これからの英語学習の計画を立てる。		
準備学習の内容	授業で扱った内容を整理し、不明な点があれば積極的に質問すること。		
教育目標に対する科目の位置付け	1. 自身の専門分野に関する話題を英語で表現することで英語の運用能力、自己表現力を養う。 (教育目標2) 【コミュニケーション能力の涵養】 2. テキストの例題および課題英語表現作成を通して、積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習の習慣を身につける。 (教育目標6) 【積極性と自己学習の習慣】		
教科書	Junko Murata et al. Getting to Know Engineering Genres ―エンジニアのための総合英語― (Sanshusha)		
参考書	【Web辞典】 「英辞郎 on the WEB」 (https://www.alc.co.jp) 「Weblio 英和・和英辞典」 (https://ejje.weblio.jp) そのほかの参考書については、授業において適宜紹介する。		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み(小テスト、課題を含む) を40点、期末試験を60点とし、双方の合計 (100点) が60点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	課題・期末試験を採点后に返却し、達成度を伝達する。		

資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：時事英語C

英文科目名称：Current English C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
安藤博光				
外国語				

授業概要	新聞やインターネット上の記事など、様々な種類の英文を教材とし、現代社会のさまざまな知識、考え方を学びながら、時事英語に関する特殊な表現や構文に習熟し、リスニングの練習なども取り入れることによって多面的に時事英語の運用能力を高める。		
授業計画	第 1 回 授業オリエンテーション 授業の進め方・内容の解説 第 2 回 Unit 11 Protecting Michaelangelo's Painting ーミケランジェロの絵を守るためにー 予習： Unit 11で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 3 回 Unit 11 Protecting Michaelangelo's Painting ーミケランジェロの絵を守るためにー 予習： Unit 11で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 4 回 Unit 11 Protecting Michaelangelo's Painting ーミケランジェロの絵を守るためにー、Unit 12 Life on Space Station ー宇宙ステーションでの生活ー 予習： Unit 11, Unit 12で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 5 回 Unit 12 Life on Space Station ー宇宙ステーションでの生活ー 予習： Unit 12で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 6 回 Unit 12 Life on Space Station ー宇宙ステーションでの生活ー 予習： Unit 12で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 7 回 Unit 11 & Unit 12の小テスト、Unit 13 Choosing a Jury ー陪審員の選ばれ方ー 予習： Unit 13で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 8 回 Unit 13 Choosing a Jury ー陪審員の選ばれ方ー 予習： Unit 13で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 9 回 Unit 13 Choosing a Jury ー陪審員の選ばれ方ー 予習： Unit 13で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 1 0 回 Unit 14 Mico-Robots ーより小さなロボットへー 予習： Unit 14で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回の授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 1 1 回 Unit 14 Mico-Robots ーより小さなロボットへー 予習： Unit 14で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 1 2 回 Unit 13 & Unit 14の小テスト、Unit 15 Fresh Produce Changes Lives ー新鮮に育てられた食べ物を食べようー 予習： Unit 15で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 1 3 回 Unit 15 Fresh Produce Changes Lives ー新鮮に育てられた食べ物を食べようー 予習： Unit 15で出てくる単語・語句及び英文調べ 復習： 今回までの授業での内容・単語・語句・英文等の復習 第 1 4 回 期末テスト テキストの演習問題を中心に自己の理解度を確認しておく。不明な点は試験までに担当教員にたずねておくこと。 第 1 5 回 期末テスト確認・フィードバック 期末テストの問題・解答内容の確認と到達度の自己確認。		
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	新聞やインターネット上の記事など、様々な種類の英文を教材とし、現代社会のさまざまな知識、考え方を学びながら、時事英語に関する特殊な表現や構文に習熟し、リスニングの練習なども取り入れることによって多面的に時事英語の運用能力を高める。		
教科書	CNN Student News (4) 関戸冬彦他著 朝日出版社		
参考書	インターネット辞典「英辞郎 on the WEB」 (英和・和英) アルク www.alc.co.jp/		
評価基準及び成績評価方法	授業における平素の取り組み(授業・小テストへの取り組みを含む)を40%、授業の一環として実施する小テスト2回・期末テストの合計点を60%とし、双方の合計(100点満点)が60点以上の者に単位を認定する。		
達成度の伝達及び達成度評価	小テストなどの提出物は、採点后に返却し、到達度を伝達する。		
資格情報			
オフィスアワー	原則的に、火曜日、金曜日 12：30-13：00 本館5階 講師控室に在室		
備考	この授業は演習を主体としているので、実際に教室の中で積極的に演習に参加するという態度が授業への参加度として評価されま		

	す。したがって、学生諸君は一日も欠かさず授業に出席し、積極的に授業に関わっていく中で英語学習へのモチベーションを高めてもらいたいと思います。毎回の授業のための課題学習を着実にやるうちに、ニュース英語を読む力がついていきます。いろいろな課題を楽しみながらやってみてください。また、テキスト以外でも、更に実力アップのため、自分の興味ある題材でいいので、英字新聞やタイム、ニューズウィーク、ビジネスウィーク（あるいはファッション、音楽、趣味）などの雑誌を英語で読んだり、FEN等のラジオ放送、あるいはNHK等の英会話番組、衛星放送、2カ国語放送、またインターネットによるCNN番組放送などを視聴していくことを勧めます。
履修登録条件	

講義科目名称：健康とスポーツの科学

英文科目名称：Health and Sports Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
吉田弘法				
健康・スポーツ科学				

授業概要	健康の維持・増進を心がけることは、生活の質（QOL）を向上させるために必要である。入学後の4年間は、社会で活躍するための礎を築く大切な期間である。そこで健康生活を送るためには、体力の維持・向上を目指すために運動習慣が必要となる。しかし、運動（トレーニング）効果は、どのような質（運動種目、強度、回数や時間等）の運動なのか、性別や年齢、体格や体質、更に気候等の環境因子も影響を及ぼすことが知られている。また、様々な病気の発症と運動不足に関わりが深いことも知られている。 本講義は、健康を維持・増進のための運動（スポーツ）を中心に、栄養と休養との関わりも含めて、科学的な側面から解説し、健全な大学生活を送るための基礎知識の修得と実践方法を学習することができる。		
授業計画	第 1 回	ガイダンス 健康の捉え方と獲得するポイント 授業の進め方と成績評価方法等 我が国の健康施策とその現状について	
	第 2 回	生活習慣と運動不足による弊害 健康を阻害する生活習慣とは？ 運動不足による身体への影響 生活習慣病の定義とその予防法	
	第 3 回	健康な生活を送るための体力とは何か？ 体力の定義 体力測定法 体力の向上と低下	
	第 4 回	運動のしくみ（1） 身体エネルギーを生み出す3つのしくみ 筋肉の構造と機能 神経のしくみ	
	第 5 回	運動のしくみ（2） 呼吸循環系のしくみ 無酸素性運動と有酸素性運動	
	第 6 回	トレーニング理論（1） トレーニングの原理原則と基礎理論 筋肥大のメカニズムとディトレーニング	
	第 7 回	トレーニング理論（2） トレーニング計画と実践方法 コンディショニング	
	第 8 回	目的別トレーニングの実践方法（1） レジスタンストレーニング フリーウエイトトレーニングとマシントレーニングの実際	
	第 9 回	目的別トレーニングの実践方法（2） SAQトレーニング コアビリティートレーニング	
	第 1 0 回	健康を維持・増進するための運動 健康を維持・増進するための運動とは？ 年代別・性別を考慮した運動実施の目的と実施方法	
	第 1 1 回	暑熱環境や寒冷環境での運動実施 体温調節のしくみと水分補給 熱中症の予防 高温多湿・寒冷環境下における運動と運動実施と中止の判断 実施の際の留意事項	
	第 1 2 回	ウォーミングアップとクーリングダウン ウォーミングアップとクーリングダウン ストレッチの考え方（日常生活で行うストレッチ）	
	第 1 3 回	いざという時の応急処置方 医療機関搬送までの手順（応急手当の基本） 脳振盪、心臓震盪等 心肺蘇生法の手順（AEDを含む）	
	第 1 4 回	今日の学校保健の問題 薬物乱用、喫煙、飲酒、性感染症と健康	
	第 1 5 回	総説 理解度の確認（筆記試験） 理解度の確認として筆記試験を実施。 終了後に問題の解説と再確認を実施。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	健康で活力のあるエンジニアを目指すための礎となる教科目である。 （学習・教育目標① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得） 健康の維持増進には、知識の習得だけでなく実践し検証することが重要である。 （学習・教育目標⑥ 積極性と自己学習の習慣）		
教科書	安部孝／琉子友男 共著 「これからの健康とスポーツの科学 第4版」 講談社		

参考書	健康スポーツ関連の書籍等
評価基準及び成績 評価方法	評価基準は、小テストおよびレポートを30%、期末試験を70%として、合計100点満点中60点以上を合格点とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度評価 (60) ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 (20) ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	前期後期ともに木曜日5時限目に開設します。場所は体育館 1Fフィットネスルーム（体力づくり相談室）です。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：健康スポーツⅠ

英文科目名称：Health Sports Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	1 単位	選択	講義＋実習
担当教員				
吉田弘法，大須泰治				
健康・スポーツ科学		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	健康スポーツⅠは、健康維持・増進のための理論と運動やスポーツの実践方法について学習する。講義内容は、社会人としての基本的な礼儀作法や健康の自己管理法を中心に学習する。スポーツ実習は、ウォーミングアップやクーリングダウンの重要性を身に付けさせることと、各種スポーツ実習（ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、アルティメット、バスケットボール、卓球等）を通して、ルールを厳守する心のコントロール、他者との協調性、身体を動かす楽しさと積極性を養うことを目標としている。本講は、複数の教員が担当し、各クラスに分かれて講義およびスポーツ実習を行う。スポーツ実習は、屋内競技（体育館）と屋外競技（テニスコートおよび多目的グラウンド）に別れて実施するため、ガイダンスの際に何れかを選択する。（履修登録者数の制限あり。各クラスの最大履修者数は48名）（複数）		
授業計画	第1回	授業ガイダンス 受講時の心得等 受講者の心得（礼儀について） クラス分けおよび履修登録許可等を実施。	
	第2回	スポーツ活動時の効果的な水分補給熱中症の予防 スポーツ活動中の水分補給の重要性について学習し、熱中症の予防法について理解を深める。	
	第3回	体力の測定と評価（身体組成を中心に） 個々の身体機能（身体組成を含む）を確認し、どのような身体機能（体力等）を向上させるべきか学習する。	
	第4回	ウォームアップとクールダウン（ストレッチングを含む）身体の疲労度チェック法（パフォーマンステスト等） ウォームアップとクールダウンの重要性を学習する。また、身体の疲労度チェック法を理解し、その回復方について学習する。	
	第5回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得 用具の取り扱いや場所（コート等）の説明と各競技の基本技術について学習する。	
	第6回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等の基本動作の習得） 各競技毎にテーマを与え、そのテーマに沿った基本技術の習得を目指す。	
	第7回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等のルールを説明し、ミニゲームを体験する 試合のルールの習得とミニゲームを体験する。 集団でのマナーも合わせて学習する。	
	第8回	ソフトテニス、ソフトボール、硬式テニス、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得とミニゲーム 前週に体験したミニゲームで上手くいかなかった基本技術の習得とミニゲームを体験。	
	第9回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等のゲーム ゲームをスムーズに行うための役割分担（審判等）とゲームの実践	
	第10回	ソフトテニス、ソフトボール、硬式テニス、バスケットボール、卓球等のゲーム ゲームをスムーズに行うための役割分担（審判等）とゲームの実践	
	第11回	ソフトテニス、ソフトボール、硬式テニス、バスケットボール、卓球等のゲーム ゲームの展開（攻撃方法を考える）	
	第12回	ソフトテニス、ソフトボール、硬式テニス、バスケットボール、卓球等のゲーム	【レポート課題の提示】 ゲームの展開（守備方法を考える）
	第13回	ソフトテニス、ソフトボール、硬式テニス、バスケットボール、卓球等のゲーム 各競技を楽しんだ際の活動量と健康スポーツとしての取り入れ方	
	第14回	スポーツ実習（技能テスト）と課題レポートの提出 各種種目の基本技術を再確認させる。 課題レポートの提出。	
	第15回	総括 健康生活を送るための体力の維持・増進に必要なスポーツ活動の実践方法について。	
準備学習の内容	気温、湿度等の生活環境の確認と健康の自己管理法に沿って、その日の体調の確認や給水の準備行う。		
教育目標に対する科目の位置付け	健康スポーツⅠは、健康の維持・増進に必要な運動やスポーツの実施方法に関する知識の修得とスポーツ実習の中で、ルールやマナーを厳守する心のコントロールや積極性や協調性を養うことを目標としている。また、自己の健康管理法についての理解を深め、個々の体力の測定と評価を行い、体力の各要素のバランスを向上させるために、必要な運動内容を理解し実践させる。特に健康で質の高い生活を獲得するためには、運動やスポーツを習慣的に取り入れることが肝要であることと、そのことが生活習慣病の予防や生涯にわたる健康生活の基礎作りに大変重要な役割を持つことを認識させる。 （学習・教育目標①）【幅広い視野の修得と技術者倫理の修得】 （学習・教育目標②）【コミュニケーション能力の涵養】 （学習・教育目標⑥）【積極性と自己学習の習慣】		
教科書	教科書の指定なし（別途資料を配付）		
参考書	健康およびスポーツの関連図書		
評価基準及び成績評価方法	成績は、受講態度（積極性、協調性等、技能）等の活動状況（実習日誌を含む）を60%、課題レポートを40%で評価を行い、合計100点満点で60点以上を合格とする。		
達成度の伝達及び達成度評価	レポートおよび実習日誌により確認する		

資格情報	
オフィスアワー	日常生活に運動の習慣をつくりましょう。 木曜日の放課後に体力づくり相談室を開設しています。 その他の時間に相談等を希望される方は、yoshida.hironori@v90.ashitech.ac.jpにご連絡下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：健康スポーツⅡ

英文科目名称：Health Sports 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	講義＋実習
担当教員				
吉田弘法，大須泰治				
健康・スポーツ科学		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	健康スポーツⅡは、健康維持・増進のための理論と運動やスポーツの実践方法について学習する。講義内容は、社会人としての基本的な礼儀作法や健康の自己管理法を中心に学習する。スポーツ実習は、ウォーミングアップやクーリングダウンの重要性を身に付けさせることと、各種スポーツ実習（ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等）を通して、ルールを厳守する心のコントロール、他者との協調性、身体を動かす楽しさと積極性を養うことを目標としている。本講は、複数の教員が担当し、各クラスに分かれて講義およびスポーツ実習を行う。スポーツ実習は、屋内競技（体育館）と屋外競技（テニスコートおよび多目的グラウンド）に別れて実施するため、ガイダンスの際に何れかを選択する。（履修登録者数の制限あり。各クラスの最大履修者数48名）（複数）		
授業計画	第1回	授業ガイダンス 受講時の心得等 受講者の心得（礼儀について）	
	第2回	クラス分け等 体力測定と評価 個々の身体機能（身体組成を含む）を確認し、どのような身体機能（体力等）を向上させるべきか学習する。	
	第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性 ウォーミングアップとクーリングダウンの実践	
	第4回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得 用具の取り扱いや場所（コート等）の説明と各競技の基本技術について学習する。	
	第5回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得 各競技毎にテーマを与え、そのテーマに沿った基本技術の習得を目指す。	
	第6回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得 各競技毎にテーマを与え、そのテーマに沿った基本技術の習得を目指す。	
	第7回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等のルールとミニゲーム 試合のルールの習得とミニゲームを体験する。 集団でのマナーも合わせて学習する。	
	第8回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等のルールとミニゲーム 前週に体験したミニゲームで上手くいかなかった基本技術の習得とミニゲームを体験。	
	第9回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等のゲーム展開 ゲームをスムーズに行うための役割分担（審判等）とゲームの実践	
	第10回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等のゲーム展開 ゲームの展開（攻撃方法を考える）	
	第11回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等のゲーム展開 ゲームの展開（守備方法を考える）	
	第12回	ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等のゲーム展開 【レポート課題の提示】 考えた戦術を活かす。	
	第13回	スポーツ実習（技能テスト）と課題レポートの提出 基本技術の確認（実技テスト） 課題レポートの提出。各競技を楽しんだ際の活動量と健康スポーツとしての取り入れ方	
	第14回	体力向上のためのトレーニングについて 筋力および持久力トレーニングの基礎知識	
	第15回	総括（健康な大学生活を送るために！） 健康生活を送るための生活習慣の再考	
準備学習の内容	気温、湿度等の生活環境の確認と健康の自己管理法に沿って、その日の体調の確認や給水の準備行う。		
教育目標に対する科目の位置付け	健康スポーツⅡは、健康の維持・増進に必要な運動やスポーツの実施方法に関する知識の修得とスポーツ実習の中で、ルールやマナーを厳守する心のコントロールや積極性や協調性を養い、健康を向上させることを目標としている。また、自己の健康管理法についての理解を深め、個々の体力の測定と評価を行い、体力の各要素のバランスを向上させるために、必要な運動内容を理解し実践させる。特に健康で質の高い生活を獲得するためには、運動やスポーツを習慣的に取り入れることが肝要であることと、そのことが生活習慣病の予防や生涯にわたる健康生活の基礎作りに大変重要な役割を持つことを認識させる。（複数） （学習・教育目標①）【幅広い視野の修得と技術者倫理の修得】 （学習・教育目標②）【コミュニケーション能力の涵養】 （学習・教育目標⑥）【積極性と自己学習の習慣】		
教科書	教科書の指定なし（別途資料を配付）		
参考書	健康およびスポーツの関連図書		
評価基準及び成績評価方法	成績は、受講態度（積極性、協調性等、技能）等の活動状況（実習日誌を含む）を60%、課題レポートを40%で評価を行い、合計100点満点で60点以上を合格とする。		

達成度の伝達及び 達成度評価	レポートおよび実習日誌により確認する
資格情報	
オフィスアワー	日常生活に運動の習慣をつくりましょう。 木曜日の放課後に体力づくり相談室を開設しています。 その他の時間に相談等を希望される方は、yoshida.hironori@v90.ashitech.ac.jpにご連絡下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：健康スポーツⅢ

英文科目名称：Health Sports 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	講義＋実習
担当教員				
吉田弘法，大須泰治				
健康・スポーツ科学		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	健康スポーツⅢは、健康維持・増進のための理論と運動やスポーツの実践方法について学習する。講義内容は、社会人としての基本的な礼儀作法や健康の自己管理法を中心に学習する。スポーツ実習は、ウォーミングアップやクーリングダウンの重要性を身に付けさせることと、各種スポーツ実習（ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、アルティメット、バスケットボール、卓球等）を通して、ルールを厳守する心のコントロール、他者との協調性、身体を動かす楽しさと積極性を養うことを目標としている。本講は、複数の教員が担当し、各クラスに分かれて講義およびスポーツ実習を行う。スポーツ実習は、屋内競技（体育館）と屋外競技（テニスコートおよび多目的グラウンド）に別れて実施するため、ガイダンスの際に何れかを選択する。（履修登録者数の制限あり。各クラスの履修者は最大48名）（複数）		
授業計画	第 1 回	授業ガイダンス 受講者の心得（礼儀について） クラス分け等	
	第 2 回	健康と体力（生活習慣病の予防） 生活習慣病とその予防法について解説（運動の必要性）	
	第 3 回	動きやすいからだづくり（筋肉を増やすレジスタンストレーニング） 筋力や筋肉を増強する意義について学習する。 レジスタンストレーニングとエアロビクストレーニングの方法と効果	
	第 4 回	運動の効果を高める睡眠のポイント 睡眠の重要性について	
	第 5 回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得 用具の取り扱いや場所（コート等）の説明と各競技の基本技術について学習する。	
	第 6 回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等の基本動作の習得） 各競技毎にテーマを与え、そのテーマに沿った基本技術の習得を目指す。	
	第 7 回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等のルールを説明し、ミニゲームを体験する 試合のルールの習得とミニゲームを体験する。 集団でのマナーも合わせて学習する。	
	第 8 回	ソフトテニス、ソフトボール、硬式テニス、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得とミニゲーム 前週に体験したミニゲームで上手くいかなかった基本技術の習得とミニゲームを体験。	
	第 9 回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等のゲーム ゲームをスムーズに行うための役割分担（審判等）とゲームの実践	
	第 1 0 回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等のゲーム ゲームの展開（攻撃方法を考える）	
	第 1 1 回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等のゲーム ゲームの展開（守備方法を考える）	
	第 1 2 回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等のゲーム	【レポート課題の提示】 戦術の試行
	第 1 3 回	ソフトテニス、硬式テニス、ソフトボール、バスケットボール、卓球等のゲーム 各競技を楽しんだ際の活動量と健康スポーツとしての取り入れ方	
	第 1 4 回	スポーツ実習（技能テスト）と課題レポートの提出 スポーツ実習（技能テスト）と課題レポートの提出	
	第 1 5 回	総括（運動習慣の必要性について） スポーツ実習（技能テスト）と課題レポートの提出	
準備学習の内容	気温、湿度等の生活環境の確認と健康の自己管理法に沿って、その日の体調の確認や給水の準備行う。		
教育目標に対する科目の位置付け	健康スポーツⅢは、健康の維持・増進に必要な運動やスポーツの実施方法に関する知識の修得とスポーツ実習の中で、ルールやマナーを厳守する心のコントロールや積極性や協調性を養うことを目標としている。また、自己の健康管理法についての理解を深め、個々の体力の測定と評価を行い、体力の各要素のバランスを向上させるために、必要な運動内容を理解し実践させる。特に健康で質の高い生活を獲得するためには、運動やスポーツを習慣的に取り入れることが肝要であることと、そのことが生活習慣病の予防や生涯にわたる健康生活の基礎作りに大変重要な役割を持つことを認識させる。 (学習・教育目標①)【幅広い視野の修得と技術者倫理の修得】 (学習・教育目標②)【コミュニケーション能力の涵養】 (学習・教育目標⑥)【積極性と自己学習の習慣】		
教科書	特になし		
参考書	健康・スポーツ関連図書		
評価基準及び成績評価方法	成績は、受講態度（積極性、協調性等、技能）等の活動状況（実習日誌を含む）を60%、課題レポートを40%で評価を行い、合計100点満点で60点以上を合格とする。		
達成度の伝達及び達成度評価	課題レポートと実習日誌により確認する		

資格情報	
オフィスアワー	日常生活に運動の習慣をつくりましょう。 木曜日の放課後に体力づくり相談室を開設しています。 その他の時間に相談等を希望される方は、yoshida.hironori@v90.ashitech.ac.jpにご連絡下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：健康スポーツⅣ

英文科目名称：Health Sports 4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	講義＋実習
担当教員				
吉田弘法，大須泰治				
健康・スポーツ科学		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	健康スポーツⅣは、健康維持・増進のための理論と運動やスポーツの実践方法について学習する。講義内容は、社会人としての基本的な礼儀作法や健康の自己管理法を中心に学習する。スポーツ実習は、ウォーミングアップやクーリングダウンの重要性を身に付けさせることと、各種スポーツ実習（ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バドミントン、バスケットボール、卓球等）を通して、ルールを厳守する心のコントロール、他者との協調性、身体を動かす楽しさと積極性を養うことを目標としている。 本講は、複数の教員が担当し、各クラスに分かれて講義およびスポーツ実習を行う。スポーツ実習は、屋内競技（体育館）と屋外競技（テニスコートおよび多目的グラウンド）に別れて実施するため、ガイダンスの際に何れかを選択する。但し、日没時間の影響により、屋外競技の後半は、体育館での実習となる。（履修登録者数の制限あり。各クラスの履修登録者は最大48名）（複数）			
授業計画	第 1 回 授業ガイダンス 受講者の心得 クラス分け等 第 2 回 フィットネストレーニング（柔軟性トレーニング等） 動きやすい身体を作るための柔軟性トレーニング 第 3 回 フィットネストレーニング（スタビリティートレーニング等） 機能的でバランスの良い動作を行うために必要な体幹の強化を中心としたスタビリティートレーニング 第 4 回 フィットネストレーニング（スロートレーニング等） 自重を利用した筋力トレーニング法 第 5 回 ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得（用具の取り扱い方） 用具の取り扱いや場所（コート等）の説明と各競技の基本技術について学習する。 第 6 回 ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得（基本動作の習得） 各競技毎にテーマを与え、そのテーマに沿った基本技術の習得を目指す。 第 7 回 ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得（基本動作の習得） 各競技毎にテーマを与え、そのテーマに沿った基本技術の習得を目指す。 第 8 回 ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、アルティメット、バスケットボール、卓球等の基本技術の習得（ルールとゲームの理解） 試合のルールの習得とミニゲームを体験する。 集団でのマナーも合わせて学習する。 第 9 回 バドミントン、アルティメット、バスケットボール、卓球等のルールとミニゲーム 前週に体験したミニゲームで上手いかなかった基本技術の習得とミニゲームを体験。 ゲームをスムーズに行うための役割分担（審判等）とゲームの実践 第 1 0 回 バドミントン、アルティメット、バスケットボール、卓球等のゲーム型式（戦術）の理解 ゲームの展開（攻撃方法を考える） 第 1 1 回 バドミントン、アルティメット、バスケットボール、卓球等のゲーム型式（戦術）の理解 ゲームの展開（守備方法を考える） 第 1 2 回 バドミントン、アルティメット、バスケットボール、卓球等のゲーム 【レポート課題の提示】 戦術の試行 第 1 3 回 バドミントン、アルティメット、バスケットボール、卓球等の活動量と健康スポーツとしての取り入れ方 各競技を楽しんだ際の活動量と健康スポーツとしての取り入れ方 第 1 4 回 スポーツ実習（技能テスト）【課題レポートの提出】 スポーツ実習（技能テスト）と課題レポートの提出 第 1 5 回 総括 運動習慣の必要性について			
準備学習の内容	気温、湿度等の生活環境の確認と健康の自己管理法に沿って、その日の体調の確認や給水の準備行う。			
教育目標に対する科目の位置付け	健康スポーツⅣは、健康の維持・増進に必要な運動やスポーツの実施方法に関する知識の修得とスポーツ実習の中で、ルールやマナーを厳守する心のコントロールや積極性や協調性を養うことを目標としている。また、自己の健康管理法についての理解を深め、個々の体力の測定と評価を行い、体力の各要素のバランスを向上させるために、必要な運動内容を理解し実践させる。特に健康で質の高い生活を獲得するためには、運動やスポーツを習慣的に取り入れることが肝要であることと、そのことが生活習慣病の予防や生涯にわたる健康生活の基礎作りに大変重要な役割を持つことを認識させる。 （学習・教育目標①）【幅広い視野の修得と技術者倫理の修得】 （学習・教育目標②）【コミュニケーション能力の涵養】 （学習・教育目標⑥）【積極性と自己学習の習慣】			
教科書	特になし			
参考書	スポーツ実習関連図書			

評価基準及び成績 評価方法	成績は、受講態度（積極性、協調性等、技能）等の活動状況（実習日誌を含む）を60%、課題レポートを40%で評価を行い、合計100点満点で60点以上を合格とする。
達成度の伝達及び 達成度評価	実習時は、適宜コメントする。課題レポートは、コメントを記載し最終授業で解説する。
資格情報	
オフィスアワー	日常生活に運動の習慣をつくりましょう。 木曜日の放課後に体力づくり相談室を開設しています。 その他の時間に相談等を希望される方は、yoshida.hironori@v90.ashitech.ac.jpにご連絡下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：工学基礎演習

英文科目名称：Basics of Engineering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
橋本哲，新高誠司，高橋大輔				
教養ゼミ				

授業概要	科学・工学に関する実験や「ものづくり」の設計において、様々な数値データが得られ、処理されていく。 また、その処理された結果を正しく表現し、伝達していかなければならない。 そのためには、基礎的な自然科学の知識、特に、数学の表現方法を知っておく必要がある。 工学基礎演習では、主に、整式の四則計算、分数式の計算、実数と絶対値・平方根、複素数、1 次方程式・2 次方程式、数の大小と 1 次不等式・連立 1 次不等式、さらに、三角比について復習をする。 簡単な解説の後で、十分な演習をすることにより、基本的な数学に関する事項を習得していく。			
授業計画	第 1 回	整式の加法・減法（第 1 章 1・1） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。 ○初回なので、「学習への心構え」についてのガイダンスを実施します。		
	第 2 回	整式の乗法（第 1 章 1・2） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		
	第 3 回	因数分解（第 1 章 1・3） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		
	第 4 回	整式の除法（第 1 章 1・4） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。 ○「剰余の定理と因数定理」（第 1 章 1・5）の項目はカットします。 ○難しい項目だと思いますが、各自で教科書を読んでおくようにして下さい。		
	第 5 回	分数式の計算（第 1 章 2・1） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		
	第 6 回	実数（第 1 章 2・2） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		
	第 7 回	平方根（第 1 章 2・3） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		
	第 8 回	複素数（第 1 章 2・4 の前半） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。 ○「複素数平面」と「複素数の絶対値」（第 1 章 2・4 の後半）はカットします。 ○『線形代数入門』で取り扱いますが、一応、教科書に目を通しておきましょう。		
	第 9 回	1 次方程式の解法の復習と連立 1 次方程式の解法（第 2 章 1・3 の一部） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。 ○1 次方程式の解法は、教科書には書かれていません。 ○プリントを配付する予定ですので、プリントを用いて復習しましょう。		
	第 1 0 回	2 次方程式の解法（第 2 章 1・1 の前半） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		
	第 1 1 回	2 次方程式の解の判別（第 2 章 1・1 の後半） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。 ○「解と係数の関係」（第 2 章 1・2）、「いろいろな方程式」（第 2 章 1・3 の一部）、「恒等式」（第 2 章 1・4）、「等式の証明」（第 2 章 1・5）はカットします。 ○難しい項目だと思いますが、各自で教科書を読んでおくようにして下さい。		
	第 1 2 回	不等式の性質／1 次不等式の解法／連立 1 次不等式（第 2 章 2・1／2・2／2・3 の一部 ） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。 ○「2 次不等式」以降はカットしますが、各自で教科書を読んでおくようにして下さい。 ○特に、「2 次不等式」については、しっかりと復習しておきましょう。		
	第 1 3 回	鋭角の三角比（第 5 章 1・1） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		
	第 1 4 回	鈍角の三角比（第 5 章 1・2） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		
	第 1 5 回	三角比の応用（第 5 章 1・3） 予習：教科書の対応した項目を読んでおく。 復習：授業内容のおさらいおよび整理。		

準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した教科書の項目を記入したので、しっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の教科書の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみることに。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する科目の位置付け	数学は、自然科学分野の主要科目の1つです。 理工学書を読むときの必須の知識であり、内容を理解する言語として欠かせないものです。 『工学基礎演習』は、主に解析学の基礎となる事項を習得し、問題解決のための計算技能を養うための科目です。 (1) 基本的な計算能力を養成する。(学習・教育目標：③) (2) 自然科学や工学の基礎能力を養成する。(学習・教育目標：③)
教科書	『新基礎数学』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書
参考書	『新基礎数学 問題集』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 『これだけはおさえておきたい理工系の基礎数学』 北原直人 ほか4名 共著 実教出版 『カラー版 忘れてしまった高校の数学を復習する本』 柳谷晃 著 中経出版 『もういちど読む数研の高校数学 第1集』 岡部恒治・数研出版編集部 共著 数研出版 『もういちど読む数研の高校数学 第2集』 岡部恒治・数研出版編集部 共著 数研出版
評価基準及び成績評価方法	授業中の授業態度、演習状況により評価する。 提出課題等を課すこともある。 全てを総合して、60%以上を合格とする。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 各回の演習については、その場で問題点を指摘し、訂正してもらい、達成度を伝達します。 提出課題を課した場合は、採点后に返却し、達成度を点数により伝達します。 ◎達成度評価 (100)学習・教育目標：③自然科学の理解
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂1Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認にして下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 文章表現 I

英文科目名称： Composition 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
教養科目担当教員ほか				
教養ゼミ				
授業概要	この科目は大学での学習のための導入教育科目として位置づけられている。大学のみならず、レポート、プレゼンテーション、論文などの手段を用いて、自分の考えを相手に伝えることが必要となる。そのためには、自ら学んだ知識をもとに、伝えるべき内容を自分の力で考え出し、相手に対して適切な表現を用いる必要がある。特に、文章を書くことは思考のプロセスが自覚されるので、より論理的な思考力や表現力が養われる。			
授業計画	第 1 回 講義概要の説明、課題の相談、自己紹介の実施 第 2 回～ 相談して課題を決める。それについて取り組む。 課題の選定～取り組み～発表・意見交換を複数回行う。 第 1 5 回 取り組んだ課題を発表する。意見交換を行い、適切にまとめられていたか確認する。 課題の選定～取り組み～発表・意見交換を複数回行う。			
準備学習の内容	次回までに準備することを相談して決めて、各自がそれについて準備する。 取り組んだ課題について添削や指摘が行われた場合は、それに対する復習を行う。			
教育目標に対する 科目の位置付け	(1) 正確な日本語による表現のため、日本語の運用力を養い、日本語による情報伝達の技術を習得する(教育目標2)【コミュニケーション能力の涵養】。(2) 積極的に課題に取り組み、自らの力で文章を考え出す力を養う(教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】。 授業時間：(1) 12回、(2) 3回			
教科書	必要に応じて担当教員から指示される。または必要に応じて資料が配付される。			
参考書	必要に応じて担当教員から指示される。または以下の参考書が作文技術を高めるために役立つ。 ・大学生のための日本語再発見ドリル× ・文章上達トレーニング45 ・非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門 ・天声人語書き写しノート ・語彙・読解力検定公式テキスト ・伝わる文章が「速く」「思い通り」に書ける87の法則 ・大学生のための日本語表現トレーニング ・留学生のための ここが大切 文章表現のルール（留学生用テキスト）			
評価基準及び成績 評価方法	(1) 課題の内容、(2) 課題の取組状況を総合的に評価し、60点以上を合格とする。 この科目の到達すべき目標は、自らの力で文章を考え出し、相手に対して適切な表現を用いることである。			
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 授業中での教員とのコミュニケーションや課題の添削などにより行われる。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (80) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (20) ⑥ 積極性と自己学習の習慣			
資格情報				
オフィスアワー				
備考	シラバスはあくまで一例として示している。			
履修登録条件				

講義科目名称： 文章表現Ⅱ

英文科目名称： Japanese Composition 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
茂木謙之介				
教養ゼミ				

授業概要	種々の文章構造を学ぶとともに、それをもとに自らの意見および考察について論理的に表現する。読むこと、書くこと、話すこと、聞くことを意識的にを行い、総合的な日本語力の向上を目指す。異なる意見を見据えつつ、その差異を究明し問題解決を図る文章力の獲得に主眼を置く。		
授業計画	第 1 回	イントロダクション 文章表現の方法	
	第 2 回	小論文（Yes/No型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んてくること。	
	第 3 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 4 回	小論文（Yes/No型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んてくること。	
	第 5 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 6 回	小論文（Yes/No型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んてくること。	
	第 7 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 8 回	小論文（Yes/But型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んてくること。	
	第 9 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 1 0 回	小論文（Yes/But型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んてくること。	
	第 1 1 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 1 2 回	小論文（Yes/But型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んてくること。	
	第 1 3 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 1 4 回	小論文（分析／推論型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んてくること。	
	第 1 5 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	論理的な思考と表現の獲得によって、コミュニケーション能力を向上させるとともに（教育目標②）、様々なテーマとそれに関連する文章を読解することによって幅広い教養を獲得する（教育目標①）。		
教科書	石塚正英・黒木朋興編『日本語表現力』（朝倉書店）		
参考書	授業中適宜指示する。		
評価基準及び成績評価方法	授業における小論文（70％）とプレゼンテーション（30％）で配点し、60点以上を合格とする。		
達成度の伝達及び達成度評価	小論文は添削の上、点数を付して返却する。プレゼンテーションについても講評を行う。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称： 文章表現Ⅱ（留学生クラス）

英文科目名称： Japanese Composition 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
丁大玉				
教養ゼミ				

授業概要	この科目は、文章表現Ⅰの成果に立って、キャリア科目の入門編として位置づける。ここではゼミ形式によって、学生が所属する専門分野及び関連分野に焦点を当て、実業界の現状やトピックス的な新しい動きを捉え、その中で紹介される話題・課題等について学生達がどのような評価をするのか、あるいは投げかけられた課題についての自分の意見をまとめることを中心に日本語能力の発展を図る。授業は輪読・議論等を経て、各自が自分の意見を文章にまとめ、それを添削する形で進める。	
授業計画	第 1 回	レポートに使われる文体 読書と作文練習
	第 2 回	文の基本(1) 自動詞や受身形、助詞の使い方 読書と作文練習
	第 3 回	文の基本(2) 語や文の名詞化、首尾一貫した分 読書と作文練習
	第 4 回	句読点の打ち方 読書と作文練習
	第 5 回	引用のしかた 読書と作文練習
	第 6 回	文章の段落 読書と作文練習
	第 7 回	仕組みや状態を説明する文章の書き方 読書と作文練習
	第 8 回	事柄の歴史的経過を述べる文章の書き方 読書と作文練習
	第 9 回	「分類」、分類に使われる文型・表現 読書と作文練習
	第 1 0 回	「定義」、定義に使われる文型・表現 読書と作文練習
	第 1 1 回	要約・概要などの書き方 読書と作文練習
	第 1 2 回	「比較・対照」の文章表現 読書と作文練習
	第 1 3 回	因果関係の述べ方 読書と作文練習
	第 1 4 回	資料の利用 読書と作文練習
	第 1 5 回	レポートの作成 読書と作文練習
	第 1 6 回	期末試験（400-600字の作文）
準備学習の内容		
教育目標に対する科目の位置付け	大学生、社会人として書く文章には、一定の形式があり、文体があり、文章表現としての約束事が多々あり、それらを学びながら、わかりやすく正確な文章を書くことを目標とする。(学習・教育目標2)	
教科書	資料プリントを配布する。	
参考書	「留学生のための論理的な文章の書き方」（スリーエーネットワーク出版）	
評価基準及び成績評価方法	毎回のドリルを提出しそれを採点する。2点×15回で30点、期末試験で70点、合計60点以上で合格。	
達成度の伝達及び達成度評価	毎回のドリルを返却する。試験も採点后返却する。	
資格情報		
オフィスアワー		
備考		
履修登録条件	留学生のみ履修することができる。	

講義科目名称： 文章表現Ⅲ

英文科目名称： Japanese Composition 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
茂木謙之介				
教養ゼミ				

授業概要	種々の文章構造を学ぶとともに、自らの意見および考察について論理的に表現する。読むこと、書くこと、話すこと、聞くことを意識的にを行い、総合的な日本語力の向上を目指す。研究論文執筆も視野に入れ、分析と推論を主眼とした文章表現に主眼を置く。		
授業計画	第 1 回	イントロダクション 文章表現の方法	
	第 2 回	小論文（Yes/No型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んでくること。	
	第 3 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 4 回	小論文（Yes/But型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んでくること。	
	第 5 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 6 回	小論文（分析/推論型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んでくること。	
	第 7 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 8 回	小論文（分析/推論型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んでくること。	
	第 9 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 1 0 回	小論文（分析/推論型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んでくること。	
	第 1 1 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 1 2 回	小論文（分析/推論型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んでくること。	
	第 1 3 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
	第 1 4 回	小論文（分析/推論型） 方法について復習するとともに、教科書の指定ページを読んでくること。	
	第 1 5 回	小論文の返却・講評・プレゼンテーション 前回の自分の主張についてまとめるとともに、適宜必要な情報を収集すること。	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	論理的な思考と表現の獲得によって、コミュニケーション能力を向上させるとともに（教育目標②）、様々なテーマとそれに関連する文章を読解することによって幅広い教養を獲得する（教育目標①）。		
教科書	石塚正英・黒木朋興編『日本語表現力』（朝倉書店）		
参考書	授業中適宜指示する。		
評価基準及び成績 評価方法	授業における小論文（70%）とプレゼンテーション（30%）で配点し、60点以上を合格とする。		
達成度の伝達及び 達成度評価	小論文は添削の上、点数を付して返却する。プレゼンテーションについても講評を行う。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件	文章表現Ⅱを履修済みのこと。		

講義科目名称： 文章表現Ⅲ（留学生クラス）

英文科目名称： Japanese Composition 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
丁大玉				
教養ゼミ				

授業概要	この科目は更に文章表現Ⅱの成果に立って、キャリア科目としての実務的な能力向上を目指す。具体的な求人企業の求人要項に従った、エントリーシートの作文を中心に演習を行う。この間各自の就職意欲の高揚とそのための広範な情報検索・提供が必要となる。その結果、自分が選択した工業分野に対する幅広い知識や情報を基として、将来への希望、希望職種、当該企業の長所、そこでの自分の役割等に関して、文章にまとめる能力を養う。	
授業計画	第 1 回	表記のしかたと文章表現 読書と作文練習
	第 2 回	文体 読書と作文練習
	第 3 回	モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ 読書と作文練習
	第 4 回	正しい構造の文 読書と作文練習
	第 5 回	文のつながりと段落 読書と作文練習
	第 6 回	要約文の書き方 読書と作文練習
	第 7 回	説明文の書き方 読書と作文練習
	第 8 回	意見文の書き方 読書と作文練習
	第 9 回	事実を示す方法 読書と作文練習
	第 1 0 回	工学系研究論文および卒業論文の書き方 読書と作文練習
	第 1 1 回	論文のはじめとおわり 読書と作文練習
	第 1 2 回	エントリーシートと自己PR文の書き方 読書と作文練習
	第 1 3 回	ビジネス文書の文例(社外特定宛と社内複数宛) 読書と作文練習
	第 1 4 回	手紙やメールの書き方と文例 読書と作文練習
	第 1 5 回	総括 総合演習
準備学習の内容		
教育目標に対する 科目の位置付け	就職活動に直結するような論理的な思考能力と論理的な文章力を養うことを目的とする。(学習・教育目標2)	
教科書	資料プリントを配布する。	
参考書	講義中に紹介する。	
評価基準及び成績 評価方法	毎回のドリルを提出しそれを採点する。2点×15回で30点、期末試験で70点、合計60点以上で合格。	
達成度の伝達及び 達成度評価	毎回のドリルを返却する。試験も採点后返却する。	
資格情報		
オフィスアワー		
備考		
履修登録条件	留学生のみ履修することができる。	

講義科目名称： 自己表現Ⅰ

英文科目名称： Japanese Expressions Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
川中子 敬至				
教養ゼミ				

授業概要	自らの適性と適職を客観的に理解し、自らの将来をイメージさせる。また、大学1～2年次の学生生活を振り返らせると共に、3～4年次の学生生活に目的意識を持たせる。この科目では、キャリア講座や就職ガイダンスの他に、卒業後の学生自身の社会的・職業的自立をめざした指導が行われる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション オリエンテーション・自己表現とは・キャリアとは、就職活動とは 第2回 キャリアデザインとは キャリア理論～キャリアプランを考える 第3回 社会人基礎力 社会人基礎力とは何か 第4回 自己理解 個人の能力と活かせる能力ポイント 第5回 第1回就職ガイダンス 就職とは何か、就職情報配信合同登録（4社） 第6回 第2回就職ガイダンス 就活イメージトレーニング、インターシップ、無料適性検査 第7回 インターンシップとは インターンシップの活用意義　～実際に動くためには～ 第8回 職業パネルディスカッション 社会での「自己表現とは何か」（企業からゲストスピーカーを招き講演） 第9回 社会形成とは 社会での業界の違いと興味をまとめる 第10回 適職診断 WEB検査使用　「MATCH」の活用方法 第11回 適職診断　解説 診断結果の読み方 第12回 自己表現①（小論文編） 自己を表現する 小論文方式で記述できるようにする 第13回 適性ワーク ※ホランドワーク　全体説明から小グループ 第14回 コミュニケーションとは 言葉を使用したコミュニケーションとは インターン中の注意点 第15回 自己表現② 自己を表現する 短い文章で表現する		
準備学習の内容	毎回の授業内容をまとめて整理すること。なお、論作文等については多くの指導時間を費やすことが困難なため、自学自習を促す。		
教育目標に対する科目の位置付け	本科目は、自らの適性を理解する、将来の進むべき方向を見つける、就職に対する心構えを学ぶ、就職試験対策を図る、以上4項目が主な内容であり、キャリア科目として3年前期に用意されている。そのため、(1)自己を理解して自分の考えを相手に正しく伝えることが目標となる(教育目標2)【コミュニケーション能力の涵養】。また、(2)自ら就職試験の対策をする必要がある(教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：(1)10回、(2)5回		
教科書	資料は毎回配布する。配布資料を保存するファイルを用意して毎回持ってくること。		
参考書	特に指定しない。		
評価基準及び成績評価方法	成績は、適性アセスメント、論作文、配付資料の保管状況を参考にして総合的に評価する。 この科目の到達すべき目標は、自己を理解し、論作文を用いて、自分の考えを相手に正しく伝えることである。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 適性アセスメントの解説を行う。SPI模擬試験の返却と解説を行う。論作文の添削と指導を行う。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (70) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (30) ⑥ 積極性と自己学習の習慣		

資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 自己表現Ⅱ

英文科目名称： Japanese Expressions 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
川中子 敬至				
教養ゼミ				

授業概要	企業の採用情報を具体的に読み解きながら、企業を選択する方法を学ぶ。この科目では、キャリア講座や就職ガイダンスの他に、卒業後の学生自身の社会的・職業的自立をめざした指導が行われる。		
授業計画	第 1 回	自己表現とは 前期振り返りと自己表現を考える	
	第 2 回	第 3 回就職ガイダンス 就職対策講話（公務員関係、次年度・就職活動の動向）	
	第 3 回	自己理解① ターニングポイントを考える キャリア理論：社会学的キャリア	
	第 4 回	第 4 回就職ガイダンス 希望登録進路の説明、求人情報検索システム説明	
	第 5 回	自己理解② 自身の過去行動を振り返る 自身の能力の源をさぐる	
	第 6 回	職業パネルディスカッション 企業からゲストスピーカーを招き講演	
	第 7 回	コミュニケーションスキル 表情の重要性、気遣い、傾聴力とは	
	第 8 回	インターンシップの重要性 冬のインターンシップにむけて	
	第 9 回	自己表現① 自己 P R を作成する I S 選考にも照準を置く	
	第 1 0 回	成道会、特別講演 栃木県経営者協会からゲストスピーカーを招き講演	
	第 1 1 回	採用活動フローを理解する 就職活動の動き、企業の行動を理解する	
	第 1 2 回	キャリアを考える キャリアを具体的に考える	
	第 1 3 回	第 5 回就職ガイダンス 平成 3 1 年度の就職活動の動向	
	第 1 4 回	キャリアデザイン 就職 SPI模擬テスト	
	第 1 5 回	自己表現② 自身を表現するバリエーションを増やす	
準備学習の内容	毎回の授業内容をまとめて整理すること。なお、SPI試験、エントリーシートや自己紹介シート等については多くの指導時間を費やすことが困難なため、自学自習を促す。		
教育目標に対する科目の位置付け	本科目は就職試験に向けた実践的な内容であり、キャリア科目として3年後期に用意されている。そのため、(1) 自己を理解して自分の考えを相手に正しく伝えることが目標となる(教育目標2)【コミュニケーション能力の涵養】。また、(2) 自ら就職試験の対策をする必要がある(教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】。 講義時間：(1)10回、(2)5回		
教科書	資料は毎回配布する。配布資料を保存するファイルを用意して毎回持ってくること。		
参考書	特に指定しない。		
評価基準及び成績評価方法	成績は、エントリーシート、面接指導、SPI模擬試験、配付資料の保管状況を参考にして総合的に評価する。 この科目の到達すべき目標は、自己を理解し、いろいろな就職試験の項目を用いて、自分の考えを相手に正しく伝えることである。		
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 エントリーシートの診断を行う。自己紹介シート、面接、SPI試験の指導を行う。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (70) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (30) ⑥ 積極性と自己学習の習慣		
資格情報			

オフィスアワー	
備考	今期課題研究に着手した学生の履修が望ましい。または、来年度前期に課題研究に着手できる学生の履修が望ましい。
履修登録条件	

講義科目名称： 人文・社会科学総合 A（夏期集中）

英文科目名称： Humanities A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
茂木謙之介				
人文・社会科学				

授業概要	本講義は、諸メディアで再現・表現された様々なイメージを対象に、その歴史的背景や文化的文脈とのかかわりから論じるものである。まず表象文化論について概説した上で、主に「他者」がどのように表現されてきたのかに注目しつつ、時代とテーマを横断してイメージを解説し、同時に広く文化・時代状況の検討を行う。
授業計画	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 表象とはなにか 第 3 回 エリートと倫理① 第 4 回 エリートと倫理② 第 5 回 動物と人間① 第 6 回 動物と人間② 第 7 回 怪獣と人間① 第 8 回 怪獣と人間② 第 9 回 怪異という他者① 第 1 0 回 怪異という他者② 第 1 1 回 死者と生者① 第 1 2 回 死者と生者② 第 1 3 回 戦争の他者性 第 1 4 回 まとめ
準備学習の内容	特に必要としない。
教育目標に対する 科目の位置付け	人びとがこれまでに作り上げてきた文化について「表象」という観点から考察を加えることによって文化の多面性・多層性を理解する可能性が開かれるとともに、それらの文化を問う際の倫理性を研ぎ澄ますことともなる。それは幅広い視野を習得することを目指す教育目標①に位置づけられる。 また、本授業においては二回に一度筆記による課題を課す。これに伴って文章表現力を向上させることが望めるため、コミュニケーション能力の涵養を目指す教育目標②に位置づけられる。 そして、表象を読み解く行為は人文社会科学の諸分野にわたる知見を参照することを伴うため、諸学の知識を統合することを目指す教育目標③にも位置づけられる。
教科書	毎回資料を配布する。
参考書	適宜講義中に紹介する。
評価基準及び成績 評価方法	二回に一回課題を課し、その合計点で評価する。
達成度の伝達及び 達成度評価	
資格情報	
オフィスアワー	
備考	印刷配布済みのシラバスとは内容が異なるので注意すること。
履修登録条件	

講義科目名称： 人文・社会科学総合B（春期集中）

英文科目名称： Humanities B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
大沼美雄				
人文・社会科学				

授業概要	人間をテーマとする総合講座である。教育学と哲学の観点から人間を考察する。教育学においては、「教育基本法」を中心に日本の戦後、現代の教育の問題、課題について学ぶ。哲学においては、中国、インド、ギリシアの伝統的哲学の概要を学び、それを受けて現代哲学における人間観のはらむ問題を考察する。人間というものが、我々人間にとって一番大事であるが、同時に一番の難題であることを理解してほしい。教育学の部分は麻生が哲学の部分は古賀が担当する。（オムニバス）			
授業計画	第 1 回終戦直後の状況と「教育基本法」の制定（麻生） 配布された資料をよく読み、要点をまとめる。 第 2 回戦後教育の目的・人間像（前文、第一条）（麻生） 配布された資料をよく読み、要点をまとめる。 第 3 回教育の機会均等（第三条）と義務教育の理念（第四条）（麻生） 配布された資料をよく読み、要点をまとめる。 第 4 回男女共学の理念（第五条）、高校共学化の動向、ジェンダーフリー教育（麻生） 配布された資料をよく読み、要点をまとめる。 第 5 回現代日本の法規上の学校（第六条）（麻生） 配布された資料をよく読み、要点をまとめる。 第 6 回社会教育の意義、定義、形態と方法（麻生） 配布された資料をよく読み、要点をまとめる。 第 7 回現代社会のの課題と「教育基本法」の改正（2006年・平成18年）（麻生） 配布された資料をよく読み、要点をまとめる。 第 8 回講義内容についての試験（麻生） 7 回にわたる講義内容の要点をよく整理しておく。 第 9 回講義の進め方の説明とプリント配布（古賀） 配布されたテキストの概要を理解する。 第 1 0 回三つの伝統（古賀） 哲学の三つの伝統（ギリシア、インド、中国）を理解する。 第 1 1 回三つの伝統と論理性（古賀） 三つの伝統における論理性の違いを理解する。 第 1 2 回近代科学と近代哲学（古賀） 近代科学が誕生したことにより、哲学の孕む内部分裂が顕在化し、尖鋭化したことを理解する。 第 1 3 回人間と自由（古賀） 現代哲学における人間観の根本的問題を理解する。 第 1 4 回人間の価値（古賀） 科学的世界観と人間の価値は両立するのかという問題を理解する。 第 1 5 回まとめとテスト（古賀） これまでの復習をして、テストの準備をしておく。			
準備学習の内容				
教育目標に対する科目の位置付け	人文社会科学は何よりもまず人間を対象とする学問である。この講義は、人間を教育学と哲学がどのような観点から考察しているかを紹介し、それによって、人文社会科学がどのようなものであるかを理解してもらおうとするものである。（学習・教育目標1）幅広い視野の修得と技術者倫理の修得			
教科書	なし（適宜プリント配布）			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	二人の担当者ごとにテストないしレポートを課し、それらを総合して評価する。			
達成度の伝達及び達成度評価	二人の教員による集中講義なので、授業中に評価を伝達するのは難しい。自分の評価を知りたい学生は講義終了後、研究室に来てほしい。			
資格情報				
オフィスアワー				
備考				
履修登録条件				

講義科目名称：自然科学 A（夏期集中）

英文科目名称：Natural scienceA

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
川島俊雄				
自然科学				

授業概要	本授業では、1 変数関数の微分・積分の基礎について学習します。 特に、工学で用いられることが多い初等関数（整関数、指数・対数関数、三角関数など）の微分を学びます。 また、定積分を定義し、不定積分の概念を学びます。 この授業では、基本的な概念の理解と基礎的な計算力を身につけるための演習を行います。 授業の構成は、「解説を約60分、演習を約30分」とします。 （クラス別）			
授業計画	第 1 回	数列・等差数列・等比数列・いろいろな数列の和（参考書③ 第 7 章 2・1, 2・2, 2・3, 2・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 2 回	数列と極限（参考書① 第 1 章 § 1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 3 回	関数と極限（参考書① 第 1 章 § 2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 4 回	連続関数・いろいろな関数の極限（参考書① 第 1 章 § 3；第 3 章 § 7 § 10） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 5 回	微分係数と導関数（参考書① 第 2 章 § 4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 6 回	微分の線形性・積の微分・商の微分・合成関数の微分（参考書① 第 2 章 § 5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 7 回	逆関数の微分・パラメータ表示された関数の微分（参考書① 第 2 章 § 6） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 8 回	指数関数・対数関数・三角関数の微分法（参考書① 第 3 章 § 8 § 10） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 9 回	逆三角関数とその微分法（参考書① 第 3 章 § 11） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 10 回	微分法の演習（参考書① 第 1 章 § 1～ 第 3 章 § 11） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 11 回	定積分の定義（参考書① 第 5 章 § 19） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 12 回	微分積分学の基本定理（参考書① 第 5 章 § 20） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 13 回	簡単な関数の不定積分（参考書① 第 6 章 § 21） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 14 回	積分法の演習（参考書① 第 5 章 § 19, § 20；第 6 章 § 21） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第 15 回	まとめと試験		

	予習：試験に備えて勉強しておく。 復習：後日返却される解答を見直し、やり直しをする。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した項目をしっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみることに。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	理工学の諸分野において観測される現象の多くは、微分積分学を用いて記述されています。 近年、これまで関連性の薄いとされてきた社会科学の分野にまで、微分積分学は活用の版図を拡げています。 この先、理工学の諸分野において、微分積分学は今まで以上に活躍し、必要とされていきます。 したがって、工学を学ぶ者には、『微分積分Ⅰ』は必ず習得してもらいたい科目です。 (1) 微分を考え方を理解し、基本的な計算力を身につける。(学習・教育目標：③) (2) 積分を考え方を理解し、基本的な計算力を身につける。(学習・教育目標：③) (3) 自然科学の学習を通じて、技術革新の一翼を担いうる基礎的な学力と技術を習得する。(学習・教育目標：③)
教科書	各クラスの担当教員が指定する。
参考書	①『理工系入門 微分積分』 石原繁・浅野重初 共著 裳華房 ②『新微分積分Ⅰ』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ③『新基礎数学』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ④『微分積分』 高坂良史・高橋雅朋・加藤正和・黒木場正城 共著 学術図書 ⑤『微分積分学入門』 藤本敦夫 著 培風館
評価基準及び成績 評価方法	期末試験及び提出課題・演習等の結果を総合して評価します。 期末試験を約70%、提出課題・演習等を約30%で評価し、合計の60%以上を合格とします。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 提出課題は、採点後に返却し、達成度を伝達します。 各回の演習については、その場で問題点を指摘し、訂正してもらい、達成度を伝達します。 期末試験は、採点後に返却し、達成度を伝達するようにします。 ◎達成度評価 (100)③自然科学の理解
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂1Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認にして下さい。
備考	この科目は、学期中の『微分積分Ⅰ』と同一の内容のため、『微分積分Ⅰ』の単位を取得した者は履修できない。 また、この科目の単位を取得した者は、学期中の『微分積分Ⅰ』を履修できない。
履修登録条件	内容に重複が多いため、解析学Ⅰ、数学Ⅰの単位未履修者に限る。また、担当教員と面談のうえ、受講を認めるかどうかを判断する。

講義科目名称： 自然科学B（夏期集中）

英文科目名称： Natural science B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
加藤隆幸，大背戸豊，丁大玉				
自然科学				

授業概要	原子と分子、およびそれらにより形成される化合物の特質につて考える。 講義の前半では、液体窒素を用いた空気の液化など実際の演示実験を行い、事実を確認した上で物質の三態について学習する。次いで、ボイル・シャルルの法則の日常温度における実験を行い、外そうして絶対0度を求め、次いで実験と気体分子運動論から理想気体の状態方程式を導き、両方を比較して実験結果と理想気体の状態方程式とのずれを確認する。次いで状態方程式の実在気体に対しての適正な適応範囲を確認する。この結果を用いて理想気体の状態方程式に適当な補正項を導入して実在気体の状態方程式を知り、その式の意味などについて議論する。 後半では、有機化合物の代表として炭素数 1－9 個のアルコールを実際に手にとり、その臭いや粘度の違いなど物性の違いを分子量や化学構造の違いから類推する。また人体の構成物質である脂肪や糖の概略の化学構造を知ることにより、アルコールの人体に対する位置付けなどを化学構造式を見比べることによって類推し、身近な化合物の構造と物性の理解を深める。		
授業計画	第 1 回	物質の分類 混合物と純物質、化合物と単体	
	第 2 回	物質の三態 気体・液体・個体	
	第 3 回	原子構造、分子構造 原子、分子、イオン 簡単な電子配置	
	第 4 回	化学量論（原子量、分子量、物質量） 原子量、分子量、物質量（モル概念）	
	第 5 回	気体分子の振るまい（ボイルの法則） ボイルの法則の実験 レポート提出	
	第 6 回	気体分子の振るまい （シャルルの法則の実験） シャルルの法則の実験 予想と実際の実験 レポートの提出	
	第 7 回	実験に対する予想と結果について 絶対0度を求める レポートの提出	
	第 8 回	ボイル・シャルルの実験 ボイル・シャルルの実験の統合	
	第 9 回	気体分子運動論1 力積、運動エネルギー	
	第 1 0 回	気体分子運動論2 気体分子運動論から求めた理想気体の状態方程式	
	第 1 1 回	実在気体の状態方程式 実在気体の状態方程式につて調べ、これと理想気体の状態方程式に付いて考える	
	第 1 2 回	アルコールとアセトンの分子構造 炭素数 1 から 9 までのアルコールの分子量と沸点などの関係 アセトンの物性 レポート作成	
	第 1 3 回	臭いや粘度などに現れるアルコールを主にした有機分子 アルコールの構造と分子間結合について	
	第 1 4 回	身の回りにある薬や材料物質について化学の目で見直す リチウム電池などの実用電池各種について調べる	
	第 1 5 回	終講試験とまとめ レポート内容に基づいた討論 終講試験	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	編入・転入生のための化学。 自然科学の一分野である化学を「物質」の構造・性質・反応について、それを構成する原子や分子などの微視的レベルから学ぶ。 まず原子構造を学び、次いで原子と原子を結びつけて分子を形成する化学結合（イオン結合、共有結合、金属結合）や、更に分子間結合について理解を深める。ついで気体の法則や状態方程式に着目して化学量論的な計算を実施するなか、ミクロな分子構造とマクロな物性との関係を学ぶ。これらの学習過程で、随時身の回りにある多種多様な材料とその応用などについてトピックスを交えながら紹介し、科学的応用力をつける。		
教科書	乾利成・中原昭次・山内脩・吉川要三郎共著：「改訂 化学」-物質の構造、性質および反応-, 化学同人		
参考書	これまでに各自が用いた教科書や参考書		
評価基準及び成績 評価方法	講義中の様々なテーマについて課される 3－4 回のレポートに合格し、学習への取り組み方や積極性などに基づき総合的な評価を 50%とし、最終試験を50%として総合で60点以上を合格とする。		

達成度の伝達及び 達成度評価	講義中のディスカッションや小テストなどにより、達成度を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	短期の集中講義であるため、予習・復習の時間はあまり取れないと考える。従って、授業に100パーセント集中して、時間内に提示されたテーマについて進行形的によく考え理解することに努め、またレポートし、授業中ですべてを完結させるように努めること。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：自然科学C（春期集中）

英文科目名称：Natural scienceC

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
川島俊雄				
自然科学				

授業概要	本授業では、数の計算規則の復習から始め、ベクトル、行列について学びます。 一つの数を扱うのではなく、複数の数を同時に扱う方法があることについて学びます。 数の演算規則と行列の演算規則には似ている点もあるが、異なる点もあることについて学びます。 この授業では、基本的な概念の理解と基礎的な計算力を身につけるための演習を行います。 授業の構成は、「解説を約60分、演習を約30分」とします。 (クラス別)			
授業計画	第1回	実数と数直線・絶対値・集合（参考書② 第1章 §2 2・2；第2章 §2 2・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第2回	平面ベクトルの定義と演算（第1章 1・1, 1・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第3回	ベクトルの演算と位置ベクトル（第1章 1・2 1・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第4回	位置ベクトルとベクトルの成分（第1章 1・3 1・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第5回	ベクトルの内積（第1章 1・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第6回	複素数とその演算（プリントを配付） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第7回	複素数平面と極形式（プリントを配付） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第8回	空間ベクトルの基本事項（第2章 2・1） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第9回	直線と平面の方程式（第2章 2・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第10回	外積（第2章 2・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第11回	行列の定義と演算（第3章 3・1 3・2） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第12回	行列の演算に関する性質（第3章 3・3） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第13回	ブロック分割による計算（第3章 3・4） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第14回	正方行列（第3章 3・5） 予習：教科書の指定された項目を読み、例題等を解いておく。 復習：授業内容のおさらい及び整理をし、練習問題を解く。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。		
	第15回	まとめと試験		

	予習：試験に備えて勉強しておく。 復習：後日返却される解答を見直し、やり直しをする。 『学習支援室』を利用することで不明な点を解決しておく。
準備学習の内容	予習：各回の項目に対応した教科書の項目を記入したので、しっかりと読んでくること。 また、その中で取り扱われている例、例題等にチャレンジし、理解を深める努力をすること。 復習：授業内容に対応した項目の教科書の読み直しをすること。 また、節末問題の中から今回の項目に対応した問題を探し出しトライしてみること。 注意：当然のことながら、日本語で授業は進めていくので、日本語の理解力を十分に高めておくこと。
教育目標に対する 科目の位置付け	線形代数学は、数学全般に応用される重要な基礎理論の1つです。 また、自然科学、社会科学、情報科学、工学の諸分野においても、理論とモデルを構築するために広く用いられます。 したがって、工学を学ぶ者にとって、『線形代数入門』は必須の科目です。 (1) ベクトルの概念を理解し、基本的な計算能力を身につける。(学習・教育目標：③) (2) 行列の概念を理解し、基本的な計算能力を身につける。(学習・教育目標：③) (3) 自然科学の学習を通じて、技術革新の一翼を担いうる基礎的な学力と技術を習得する。(学習・教育目標：③)
教科書	『タイトル未定』 川島俊雄 著 2017年4月の段階で未出版のため、プリントを配付する。 秋に出版予定であるから、後期に購入するようにして下さい。
参考書	①『新線形代数』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ②『新基礎数学』 高遠節夫 ほか5名 共著 大日本図書 ③『線形代数学講義（改訂版）』 対馬龍司 著 共立出版 ④『基礎線形代数』 菅原昭博 著 横浜図書
評価基準及び成績 評価方法	期末試験及び提出課題・演習等の結果を総合して評価します。 期末試験を約70%、提出課題・演習等を約30%で評価し、合計の60%以上を合格とします。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 提出課題は、採点后に返却し、達成度を伝達します。 各回の演習については、その場で問題点を指摘し、訂正してもらい、達成度を伝達します。 期末試験は、採点后に返却し、達成度を伝達するようにします。 ◎達成度評価 (100)③自然科学の理解
資格情報	
オフィスアワー	○教養科目の質問・疑問に対応する施設として、食堂1Fに『学習支援室』を開室しています。 開室時間、科目担当者の配置は各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。 『学習支援室』を利用することで、不明な点は早急に解決する努力をして下さい。 ○数学担当専任教員のオフィスアワーは各学期初めに決定しますので、掲示等で確認して下さい。
備考	この科目は、学期中の『線形代数入門』と同一の内容のため、『線形代数入門』の単位を取得した者は履修できない。 また、この科目の単位を取得した者は、学期中の『線形代数入門』を履修できない。 履修に際しては、担当教員による面談を受けなければならない
履修登録条件	内容に重複が多いため、線形代数学Ⅰ、線形代数学ⅠA、数学Ⅱの単位未履修者に限る。また、担当教員と面談のうえ、受講を認めるかどうかを判断する。

講義科目名称：自然科学D（春期集中）

英文科目名称：Natural scienceD

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
新高誠司				
自然科学				

授業概要	物理学の一分野である力学は多くの専門工学科目の基礎となるものである。本講義では力学分野のうちの質点の力学（質点に作用する力と質点の運動の関係）の基礎的事項について取り扱う。講義を通じ、工学を修める上で必須となる論理力、思考力、数学力も養成する。工学は様々な現象を数学の言葉で表現し、それを数学的に解き、現象の本質の理解とその応用を創生する学問であるが、それに向けてスムーズな導入となるように授業を進めます。		
授業計画	第 1 回	ガイダンス 数学の準備 1（方程式と関数） （予習）一次・二次方程式の解法および一次・二次関数の式とグラフについて復習しておくこと。 （復習）講義で扱った方程式や関数の問題が解答できるようにしておくこと。	
	第 2 回	数学の準備 2（ベクトルと微積分） （予習）ベクトルと多項式の微分積分について復習しておくこと。 （復習）講義で扱ったベクトルと多項式の微分積分の問題が解答できるようにしておくこと。	
	第 3 回	様々な力 （予習）教科書の力とベクトルの章を読んでおくこと。 （復習）講義で取り上げた様々な力の三要素を正確に答えられるようにしておくこと。	
	第 4 回	力のつりあい （予習）教科書の力のつり合いの節を読んでおくこと。 （復習）力のつり合いをベクトルの計算を用いて議論できるようにしておくこと。	
	第 5 回	運動学 1（位置、変位、移動距離、平均の速度） （予習）教科書の運動学の章を読んでおくこと。 （復習）位置の時間依存性から変位、移動距離、平均距離が求められるようにしておくこと。	
	第 6 回	運動学 2（瞬間の速度、加速度、速度図） （予習）教科書の速度と加速度の部分を読んでおくこと。 （復習）瞬間の速度を微分計算によって求めることと速度図から加速度と変位を求めることができるようにしておくこと。	
	第 7 回	運動学 3（具体的な運動の運動学的考察） （予習）第 5 回、第 6 回の講義内容を復習しておくこと。 （復習）位置、速度、加速度の時間依存性の相互関係について理解しておくこと。	
	第 8 回	運動の 3 法則と万有引力の法則 （予習）教科書の運動の法則の章を読んでおくこと。 （復習）教科書の運動の法則の章の例題を解いて法則に関する理解を深めること。	
	第 9 回	運動方程式の解法 （予習）教科書の力と運動の章を読んでおくこと。 （復習）運動方程式の解法の手順を理解しておくこと。	
	第 1 0 回	運動方程式の解法による運動の考察 （予習）教科書の一定の力によって引き起こされる運動の例の節を読んでおくこと。 （復習）鉛直投げ上げ運動を考察できるようにしておくこと。	
	第 1 1 回	仕事とエネルギー （予習）教科書の仕事の章を読んでおくこと。 （復習）仕事の計算方法と運動・位置エネルギーの定義を理解しておくこと。	
	第 1 2 回	仕事と運動エネルギーの関係 （予習）第 8 回と第 1 1 回の講義内容を復習しておくこと。 （復習）仕事を受けた物体の速度の変化について考察ができるようにしておくこと。	
	第 1 3 回	力学的エネルギーの保存則 1（保存則とその成立する条件） （予習）教科書の力学的エネルギー保存則の章を読んでおくこと。 （復習）保存力がする仕事と位置エネルギーの関係について理解しておくこと。	
	第 1 4 回	力学的エネルギーの保存則 2（保存則を利用した運動の解法） （予習）第 7 回と第 1 0 回の講義内容を復習しておくこと。 （復習）鉛直投げ上げ運動を保存則を用いて考察できるようにしておくこと。	
	第 1 5 回	まとめと試験 （予習）これまでの講義内容を復習すること。 （復習）試験問題を再度解答し、十分に復習すること。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	◎学習・教育目標に対する科目の位置付け (1) 専門工学科目の履修の基礎となる質点の力学の基礎的事項を習得・養成する。 (学習・教育目標3)【自然科学の理解】 (2) 例題演習を通じて積極的に課題に取り組む姿勢や自己学習する習慣を身につける。 (学習・教育目標6)【積極性と自己学習の習慣】 講義時間：(1) 10回、(2) 5回		
教科書	物理研究室で編纂する教科書		
参考書	「力学」 原島 鮮 裳華房 「よくわかる初等力学」 前野昌弘 東京図書 「考える力学」 兵頭俊夫 学術図書出版社 「物理学入門Ⅰ.力学」 市村宗武、狩野寛 東京化学同人		

	「力学」 副島雄児、杉山忠男 講談社
評価基準及び成績 評価方法	◎評価基準 質点の位置、速度、加速度の関係が記述できること。質点に加わる力を図や数式を用いて表現し運動方程式をたて、質点の加速度、速度、位置を求めること。保存則を理解し、それを利用できること。 ◎成績評価方法 成績は試験の結果を約70%、授業中の演習およびレポートの結果を約30%で評価する。評価点が60点以上を合格とする。レポートは本人の考えが反映されている場合のみ受領され、原則として課せられたすべてのレポートの受領が試験の受験資格となる。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 レポートおよび試験を採点後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 () ② コミュニケーション能力の涵養 (70) ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 (30) ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	本科目は編転入者のための導入科目となっています。 履修登録は、内容重複の都合、物理入門、力学Iおよび物理学Iの単位未取得者に限ります。 また、担当教員と面談の上、受講を認めるかどうか判断します。 物理研究室では物理関連科目（物理入門、力学IおよびII、応用物理学IおよびII、総合科学実験、自然科学D）の学習相談室を開設しています。各教員の相談時間は2305室：物理学学習相談室前に掲示しますので、確認してください。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語 A（夏期集中）

英文科目名称：English A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
篠原勇次				
外国語				

授業概要	英語運用力の基礎となる基本的な文法事項の理解を基軸に、今日の大学生に求められる基本的な英語の読み書き能力を養うために15回30時間にわたって演習を行う。途中3回の成績評価テストを行う。		
授業計画	第1回	be動詞・現在 英語の基本的な文構造。名詞の単数と複数。am, is areの使い分け。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第2回	一般動詞・現在 be動詞と一般動詞の違い。一般動詞の3・単・現のsについて。一般動詞の疑問文と否定文および疑問文への答え方。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第3回	多様な疑問文 5Ws, 1Hを使った疑問文。Whoとwhose, orのある疑問文。付加疑問文の作り方。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第4回	be動詞・過去 wasとwereの使い方。過去形で使われる副詞。be動詞を用いた疑問文と否定文および疑問文への答え方。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第5回	一般動詞・過去 および、まとめ1規則動詞と不規則動詞の過去形。過去分詞形についても言及。疑問文と否定文および疑問文の答え方。疑問詞のついた過去形の疑問文。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第6回	未来形 willとbe going to の用法。未来形の疑問文と否定文および疑問文の答え方。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第7回	過去形、未来形の復習。理解度が低いと思われる点についての再確認。後半で学習予定の進行相、完了相、完了進行相についての簡単な説明。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第8回	進行形 相の概念の説明。時制と相との関係。現在進行形と過去進行形。疑問文と否定文および疑問文の答え方。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第9回	助動詞 can, may, mustの用法。動詞句としてのbe able toとhave to助動詞を使った疑問文と否定文。canからbe able toへ。 must からhave toへ。must notとdon' t have to 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第10回	完了形 および、まとめ 2 完了・結果、継続、経験の用法について。用法ごとに使われる副詞。疑問文と否定文。過去完了についての簡単な説明。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第11回	受動態能動態から受動態へ。SV00、SV0Cの構造を持つ文の受動態。助動詞を含む受動態。受動態の疑問文と否定文。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第12回	比較 原級、比較級、最上級の作り方とその用法。betterとbest, moreとmostの使い方。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第13回	不定詞 名詞的、形容詞的、副詞的用法。原型不定詞。使役動詞。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第14回	動名詞と現在分詞動名詞と現在分詞との比較。動名詞を目的語とする動詞。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
	第15回	まとめ 3 学生からの質問に基づく、完了形、分詞、不定詞、動名詞に関する包括的な復習。理解度が低いと思われる項目について復習。 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。	
準備学習の内容	p		
教育目標に対する科目の位置付け	(学習・教育目標 2)【コミュニケーション能力の涵養】 講義時間：15回		
教科書	プリントを配布する		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価基準及び成績評価方法	評価については、学習・教育目標を成績評価テスト（3回）と授業における平素の取り組みで評価する。評価の割合は、授業における平素の取り組みを40点、成績評価テストを60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。この授業を通		

	じて到達すべきポイントは、i) 基本的な文法事項を理解し、身につけることができる、ii) 教科書の練習問題の答を自ら導くことができる、iii) 身近な事柄について平易な英語表現を用いて描写したり、発表したりできるの3つとなる。成績評価テストではi)を40%、ii)を40%、iii)を20%程度の割合で出題する。
達成度の伝達及び 達成度評価	◎達成度の伝達 成績評価テストを採点后に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 () ① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 (100) ② コミュニケーション能力の涵養 () ③ 自然科学の理解 () ④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 () ⑤ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 () ⑥ 積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	・受講者は必ず学習英和辞典を持参し、授業中に適宜参照すること。 ・3回のテストは、たとえ1回でも未受験であれば単位は認めない。 ・可能な限り皆出席するよう求める。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：英語B（春期集中）

英文科目名称：English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
飛田ルミ				
外国語				

授業概要	本講座では、英語運用力の基礎となる基本的な文法事項の理解を基軸に読解力の向上を目指す。タイムリーなトピック、科学論説文、TOEICのリーディング問題など、受講者のニーズに適合した教材を用いて、15回30時間にわたり読解演習を行うことにより、英語4技能の中でも特にインプット能力を高める。インプット能力を高めることにより、自然にアウトプット能力が鍛えられ、最終的には英語コミュニケーション能力の向上が期待できる訓練を実施する。	
授業計画	第1回	ガイダンス、文法事項の復習、訓練方法の紹介、プリリーディング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第2回	トピック1-1 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第3回	トピック1-2 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第4回	トピック1-3 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第5回	まとめ1 テスト 英文1の理解度の確認 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第6回	トピック2-1 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第7回	トピック2-2 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第8回	トピック2-3 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第9回	英文2-4 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第10回	まとめ2 テスト トピック2の理解度の確認 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第11回	トピック3-1 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第12回	トピック3-2 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第13回	トピック3-3 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第14回	トピック3-4 把握した意味を日本語で表現、およびシャドウイング 今回の内容を教科書とノートで復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。次回の内容を調べ、疑問点を抽出しておく。
	第15回	まとめ3 テスト 英文3の理解度の確認と総括
準備学習の内容	これまで授業で学習した内容を復習しておくこと。	
教育目標に対する科目の位置付け	(学習・教育目標 2)【コミュニケーション能力の涵養】 講義時間：15回	
教科書	適宜プリントを配布する。	
参考書	授業中にて紹介する。	
評価基準及び成績評価方法	授業における平常の取り組み（小テストを含む）を40点、授業の一環として実施する3回の成績評価テストの合計点を60点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。	
達成度の伝達及び達成度評価	小テスト、成績評価テスト、課題レポートについては採点后に返却し到達度を伝達する。	
資格情報		

オフィスアワー	短期集中講義のため、可能な限り全授業を出席すること。 また、辞書（電子辞書可能）を持参し適宜授業内で使用し、授業外では予習、復習もしっかり行うこと。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：ゼミナール（人文・社会科学）哲学入門

英文科目名称：Seminar（Humanities）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
大沼美雄				
人文・社会科学				

授業概要	デカルトの書いた『方法序説』を輪読する。デカルトは権威に頼らず自分で考えることを唱道し、近代を切り開いた哲学者である。この本は、現代の我々にもう一度原点に立ち戻って、じっくりと考え反省するように誘っている。デカルト読みながら、自分で考える訓練をするのが、このゼミの狙いである。		
授業計画	第1回	ゼミの進め方の紹介。学生同士の自己紹介。 教科書を紹介するので次回までに入手すること。	
	第2回	哲学とは何か。デカルトとは何者か。 簡単に哲学とデカルトを紹介する。インターネット等で下調べをしてくること。	
	第3回	『方法序説』を読む：第 1 部 学校教育 デカルトが学校教育に対して懐いた不満を理解する。	
	第4回	『方法序説』を読む：第 2 部 学問の方法 有名なデカルトの方法の特徴を理解する。	
	第5回	『方法序説』を読む：第 3 部 デカルトの生き方 テキストを読み直し、復習すること。	
	第6回	『方法序説』を読む：第 4 部の 1 デカルト懐疑 テキストを読み直し、復習すること。	
	第7回	『方法序説』を読む：第 4 部の 2 神の存在証明 テキストを読み直し、復習すること。	
	第8回	『方法序説』を読む：第 4 部の 3 神の存在証明 テキストを読み直し、復習すること。	
	第9回	『方法序説』を読む：第 5 部 自然の研究 テキストを読み直し、復習すること。	
	第10回	『方法序説』を読む：第 6 部の 1 学問の有用性 テキストを読み直し、復習すること。	
	第11回	『方法序説』を読む：第 6 部の 2 本を出版する理由 テキストを読み直し、復習すること。	
	第12回	デカルト哲学における神の役割 皆で議論するのでよく考えてくること。	
	第13回	デカルト哲学における心身問題 皆で議論するのでよく考えてくること。	
	第14回	デカルト哲学の構造 皆で議論するのでよく考えてくること。	
	第15回	まとめとレポート提出 レポートを書いてくること。	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	哲学の本を読み、批判的に自分で考える態度を養う。 （学習・教育目標 1）幅広い視野の修得と技術者倫理の修得		
教科書	デカルト著、谷川多佳子訳『方法序説』、岩波文庫		
参考書			
評価基準及び成績 評価方法	ゼミへの参加度（50％）とレポート（50％）で評価する。		
達成度の伝達及び 達成度評価			
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：ゼミナール（自然科学）地球温暖化の科学

英文科目名称：Seminar (Natural Science)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
加藤隆幸				
自然科学				

授業概要	地球温暖化の科学-うそとほんと- ハワイの高地（マウナ・ロア山4169m）で測定したKeelingの二酸化炭素増加曲線(1958~61年)は、大気中二酸化炭素濃度が増加している事を観測的に示した。これに端を発して産業革命以来の地球温暖化は人為的(工業)二酸化炭素の増加が原因であると帰結して、COP21や世界の政治的リーダーの発言が喧しい。しかしこの帰結は正しいのだろうか。一度立ち止まって考えて見よう、原因と結果が転倒している事に気付かないだろうか。人類はまだ富士山の体積の1/3も石油を燃やしてはいない。現在の地球全体の炭素循環による大気中二酸化炭素量に対して、有史(産業革命)以来の人為的二酸化炭素量は3%余りと計算でき、97%は自然界由来である。この二酸化炭素量3%が地球全体の温暖化にどれ程の影響力を持つものか、疑問であろう。地質年代的現在は、たまたま短期的な地球の呼吸によって少し温暖化して、大気中二酸化炭素濃度が温暖化分平衡が移動して増えているのであって、二酸化炭素濃度が増加しているから地球が温暖化しているのではない、と考えるのが自然であろう。地質年代的にはいつれまた寒冷化する。		
授業計画	第 1 回	地球温暖化イントロダクション テレビやラジオ、新聞書籍などにみられる地球温暖化に対する一般論の整理	
	第 2 回	Keelingのグラフ、温室効果ガス ハワイマウナ・ロア山でのKeelingの二酸化炭素の変化グラフの解釈（1） 多様な温室効果ガス	
	第 3 回	ホッケイスティック理論 産業革命以来の気温変化と人為的二酸化炭素排出量	
	第 4 回	地球温暖化に対する経済、社会、政治 京都議定書からCOP21まで	
	第 5 回	クライメートスキャンダル IPCCやNASA、国連の主張等	
	第 6 回	地球温暖化に対する日本と世界各国の取り組み方 自分の意見のレポート作成	
	第 7 回	古代から現在までの時間軸における大気組成と平均気温の変化 氷河期がどうして終わり、その後現在の温暖な気候になったか これからの気候変化の予想 暖かいことは良いこと、寒いとどうなる？	
	第 8 回	6000年前の地球の気候は 6000年前はエジプトやメソポタミヤは水が溢れ緑豊かな温暖な地帯だった	
	第 9 回	平安時代、鎌倉時代の気温は 今よりも暖かい時代も、寒い時代もあった	
	第 1 0 回	地球の公転軌道の変化 地球の公転軌道の変化や太陽活動の変化	
	第 1 1 回	太陽定数 太陽定数と雲、深層海流など	
	第 1 2 回	都市型気候と気候の陽性化 ゲリラ雨や局所的気温上昇	
	第 1 3 回	Keelingの二酸化炭素の変化グラフの解釈（2） 地球全体の炭素循環 産業革命と人為的二酸化炭素 広大な海とヘンリーの法則	
	第 1 4 回	レポート作成（2） これまでに学習してきた事柄を踏まえてレポート作成	
	第 1 5 回	総括・「自分はどうか考えるか」 発表と討論	
準備学習の内容	インターネットを有効に利用すると共に、各自の興味ある出版物を紹介しあいながら進める。Keelingの二酸化炭素増加曲線に考察を加え、また産業革命以来の人為的二酸化炭素量の来し方行く末を考えるとともに、テレビやラジオのニュースを基にして現在の日本の状況（産業的姿勢）や世界の趨勢を把握する。一方、地球環境の地質学的時間における変化と地球規模における温度変化を調べ、これと現在の平均気温を比べて科学的に考察する。さらに、加えてホッケイスティック理論や、地球の平均気温を算出する際の気温検出点の偏りと処理問題、およびクライメートスキャンダル等に触れながら、議論を進める。		
教育目標に対する科目の位置付け	昨今の地球温暖化についての議論の着地点は、物を大事にしよう、省エネルギーに心がけようという一般の生活においては良い方向に進んでいるので、取りあえずはよしとしよう。しかしながら大学レベルの学生諸君は、地球温暖化問題を地質学的時間と地球化学的な考察を加えながらサイエンスで切り込み、サイエンスとしての本質と、人間の経済活動からもたらされる帰結の本質を理解し、常識人として活動しなければならない。		
教科書	インターネットで様々なことを調べ、あるいは出版物を模索するとともに配布プリントを随時教科書とする		
参考書	インターネット、現代化学、ネイチャー 392, p779 (23, april 1998) など		
評価基準及び成績評価方法	授業時の討論への参加状態、数回のレポートの内容、終講時の考察論文などから総合的に判断し、60点以上を合格とする。		

達成度の伝達及び 達成度評価	レポートの返却と、レポートに関する自己表現（スタンドポイントを明瞭にして）
資格情報	
オフィスアワー	正解は無いと考えて下さい、いかに自己の考えを明瞭にし主張するかに心がけて下さい。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：ゼミナール（自然科学）ロボットサイエンス入門

英文科目名称：Seminar（Natural Science）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
佐藤友哉，久芳頼正				
自然科学				

授業概要	コミュニケーションロボット「Pepper」を利用して、ロボット制御の基礎的な考え方、プログラムの作り方等を実習を通して学ぶ。各自のノートパソコンに必要なアプリケーションを導入して、教科書に基づき、何らかの動作を設計・製作し、プレゼンテーションを行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス及びアプリケーションの導入 ガイダンスを実施し、グループを作成する。 各自のノートパソコンでバーチャルロボットが操作できるようにアプリケーションをインストールする。	
	第2回	Pepperについて（その１） Pepperの概要、ハードウェアの仕様についての説明	
	第3回	Pepperについて（その２） アプリケーションの使い方	
	第4回	基礎例題の体験 バーチャルロボットで基礎的な例題を実行する	
	第5回	はじめてのロボット制御（その１） 実機稼働を体験（前半）する	
	第6回	はじめてのロボット制御（その２） 実機稼働を体験（後半）する	
	第7回	動作設計 イメージ図等を作成する	
	第8回	設計の検証 安全確認や動作範囲確認等を行う	
	第9回	動作制御プログラム作成（その１） グループで動作制御プログラムを作成する（その１）	
	第10回	動作制御プログラム作成（その２） グループで動作制御プログラムを作成する（その２）	
	第11回	動作制御プログラム作成（その３） グループで動作制御プログラムを作成する（その３）	
	第12回	実機による動作の検証（その１） 実機を使って動作を確認し検証した上で、修正を行う（その１）	
	第13回	実機による動作の検証（その２） さらに、検証を加えて修正を実施する（その２）	
	第14回	プレゼンテーション用資料の作成 設計からプログラムの作成、さらに検証と修正を数回繰り返し、発表するためのプレゼンテーションを作成する	
	第15回	プレゼンテーション 限られた持ち時間内でプレゼンテーション	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	教育目標 ②コミュニケーション能力の涵養 ⑤知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 に重きを置いている。 高いレベルのコミュニケーション・ロボットを通して、「人とロボットの共生」を意識して、今後の社会システムにおけるITC技術の進展を考え得る能力の養成を目指していく。		
教科書	Pepper プログラミング 基本動作からアプリの企画・演出まで ソフトバンクロボティクス SBクリエイティブ株式会社		
参考書	必要に応じてプリント資料を配布する。 サンプル・プログラムその他は公開サーバに提示する。 特に、関係するPDF文書は必ず目を通しておく。		
評価基準及び成績 評価方法	学期を通して、数回の考査を実施する。この数回の試験等を経験して、指定された課題に対するプレゼンテーションを各自が行う。この場合、単純に「ロボットが動いた」だけでは、評価の対象にはならない。何を考え、何を実行させ、何が伝わるか、何が変化したか等の内容で成績を評価する。ただし、無断で欠席した場合は評価の対象としない。		
達成度の伝達及び 達成度評価	初期段階	指定されたアプリケーション・ソフトウェアがインストールでき、 簡単な例題プログラムをバーチャル・ロボットで実行できる。	
	中間段階	利用するコマンドの内容を理解し、必要なパラメータを入力できる。	
	後期段階	計画しているロボットの動作を説明する資料が用意でき、	

	プログラムの概要設計の資料も作成できる。 単にプログラムを実行できるだけではない。
資格情報	
オフィスアワー	各自のノートパソコンにアプリケーションをインストールし、さらに、教科書を元に講義が進められるので、毎回、ノートパソコンと教科書が持参できない場合は、受講を希望しないでください。オフィスアワーとして特別な時間は設定しませんので、質問等があれば、情報科学センター・佐藤まで。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：ゼミナール（外国語）イギリスの歴史を知ろう

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	1 単位	選択	講義
担当教員				
篠原勇次				
外国語				

授業概要	イギリスの歴代国王の治世を概観しながら、イギリス国民と王室との関係について考察し、日本の皇室と国民の関係などについても考察しながら、ユーラシア大陸の西と東に位置する日本とイギリスの類似点、相違点などについて理解を深める。		
授業計画	第1回	ノルマン征服以前のブリテン島 ローマ帝政時代のブリテン島、ケルト人の生活、7王国時代	
	第2回	ノルマン征服とウィリアム1世 エドワード懺悔王、ハロルド2世とウィリアム1世の関係 課題：ノルマン征服について調べてくること	
	第3回	ノルマン朝のイングランド ウィリアム1世、ウィリアム2世、ヘンリー1世、スティーブン王の治世 課題：ノルマン朝からプランタジネット朝への道筋、およびそれに至る内乱について調べてくること	
	第4回	プランタジネット朝のイングランド 1 ヘンリー2世、リチャード1世、ジョン王、ヘンリー3世の治世 課題：マグナカルタについて調べてくること	
	第5回	プランタジネット朝のイングランド 2 エドワード1世、エドワード2世、エドワード3世、リチャード2世の治世 課題：当時のイングランドとスコットランドとの関係、およびフランスとの100年戦争について調べてくること	
	第6回	ランカスター朝のイングランド ヘンリー4世、ヘンリー5世、ヘンリー6世の治世 課題：バラ戦争について調べてくること。また、エドワード3世の4男の家系について調べてくること	
	第7回	チューダー朝のイングランド 1 ヘンリー7世、ヘンリー8世、エドワード6世、メアリー女王の治世 課題：ヘンリー8世の宗教改革とはどのようなものだったかを調べてくること。また、メアリー女王の宗教政策についても調べてくること	
	第8回	チューダー朝のイングランド 2 エリザベス1世の治世 課題：エリザベス1世の主な業績について調べてくること また、次のステュアート朝初代ジェームス1世およびその母親メアリーとのエリザベス1世はどのような関係にあったかについても調べてくること	
	第9回	ステュアート朝のイングランドそして共和制 ジェームス1世、チャールズ1世の治世を経て共和制へ、そして王政復古、チャールズ2世の時代へ 課題：クロムウェルの共和制とはどのようなものであったか。また、どのような経緯を経て共和制に移行し、そして王政復古へとつながったのかを調べてくること	
	第10回	スチュアート朝からハノーバー朝へ ジェームズ2世、ウィリアム3世とメアリー2世、アン女王の治世からハノーバー朝へ 課題：ウィリアム3世とメアリー2世の共同統治とはどのようなものであったかを調べてくること また、アン女王時代の現代イギリスにつながる連合王国の成立の過程を調べてくること	
	第11回	ハノーバー朝 1 ジョージ1世、ジョージ2世、ジョージ3世、ジョージ4世、ウィリアム4世の治世 課題：どのようにしてイギリス連合王国が世界に植民地を建設していったのか、その背景について調べてくること	
	第12回	ハノーバー王家とヴィクトリア女王 ヴィクトリア女王時代のイギリス、その光と影 課題：世界に冠たる大帝国を築き上げたイギリスの社会ではどのような社会問題が存在したのか、また、それをどのように解決しようとしたのか調べてくること	
	第13回	サクス・ゴバーク・ゴータ家からウィンザー家へ エドワード7世、ジョージ5世、エドワード8世、ジョージ6世、エリザベス2世の治世 課題：近現代史においてイギリスが果たしてきた役割について、とくに第1次大戦と第2次大戦においてイギリスはどのような役割を果たしたのか調べてくること	
	第14回	まとめ これまでのまとめをした上で、各自レポートを発表し、最後にそれを提出してもらう。 レポートの課題は「歴代イギリス国王の中で最も誰に魅力を感じるか、2000字ほどでまとめなさい」	
	第15回	到達度の伝達 各自のレポートを返却した上で、クラス全員でそれぞれのレポートについてディスカッションをする。	
準備学習の内容	シラバスの毎回の授業欄に課題が書いてあるので、それに沿って下調べをする。		
教育目標に対する科目の位置付け			
教科書			
参考書	図説イギリスの歴史（ふくろうの本）、イギリスの歴史が2時間でわかる本（KAWADE夢文庫）、英国王室史話（大修館書店）		
評価基準及び成績評価方法	課題の発表およびレポートを総合的に判断して成績評価をする。		

達成度の伝達及び 達成度評価	最後のまとめの授業において成績を伝達する。
資格情報	
オフィスアワー	火曜日12時10分~13時
備考	ディスカッションを中心に授業を進めていくので、出席することが肝要。
履修登録条件	

講義科目名称：ゼミナール（健康・スポーツ科学）フィットネス入門

英文科目名称：Healthy sports science seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	1 単位	選択	演習
担当教員				
吉田弘法				
健康・スポーツ科学				

授業概要	健康づくりのための「フィットネス・エクササイズ」の入門的な内容を中心に解説、理解、実践を演習形式で行う。授業では、個々の身体的（体力）要素を測定し確認した後に、健康で動きやすい身体作りのための機能的なトレーニング（ファンクショナルトレーニング）を中心に学習する。授業形態は、理論についての解説と資料（教科書を含む）を参照し、グループで実践、確認、工夫と修正を行いながら、正しいトレーニング方法について学習する。		
授業計画	第 1 回	ガイダンス 授業概要の説明。	
	第 2 回	健康の維持・増進のためのフィットネスとは？ フィットネスとは？（実習ノートの配布等）	
	第 3 回	トレーニングの基礎知識 トレーニングの目的と種類。 トレーニング効果を高める因子と妨げる因子について	
	第 4 回	トレーニングの前に、身体をリセット セルフチェックテスト	
	第 5 回	ウォーミングアップ ウォーミングアップの方法と時間（ストレッチングを含む）	
	第 6 回	ファンクショナルトレーニングとは？ 正しい動きをすると、どんな効果があるのか？ 身体の機能を上げるために、どんなことをするのか？	
	第 7 回	ファンクショナルトレーニング 基本編 「固める関節」を固定しつつ、正しい動作をマスターする	
	第 8 回	ファンクショナルトレーニング 基本編 グループで動作チェック	
	第 9 回	ファンクショナルトレーニング 応用編 「固める関節」を固定した上で、「動かす関節」を動かす	
	第 1 0 回	ファンクショナルトレーニング 応用編 グループで動作チェック	
	第 1 1 回	ファンクショナルトレーニング 上級編 正しい「姿勢」と「動作」に加えて、「速さ」を意識する	
	第 1 2 回	ファンクショナルトレーニング 上級編 グループで動作チェック レポート課題の提示	
	第 1 3 回	トレーニング後のウォーミングダウン 適切な運動強度と時間（ストレッチングを含む）	
	第 1 4 回	競技別 ワンポイントトレーニング グループ別に競技を選択し、それに適したファンクショナルトレーニング・プログラムの作成を試みる課題レポート と実習ノートの提出	
	第 1 5 回	総説 課題レポートと実習ノートの返却	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	健康で活力のあるエンジニアを養成するための教養知識の習得を目指す。 （学習・教育目標① 幅広い視野の修得と技術者倫理の修得） グループ学習の中で、実践と確認および修正を行い、正しい方法を模索する。（学習・教育目標② コミュニケーション能力の涵養） 課題に対する積極的な参加と理解を深めるための情報収集（調べ学習） （学習・教育目標⑥ 積極性と自己学習の習慣）		
教科書	ファントレ トップアスリートのトレーニングを自宅で!：鈴木岳（著），朝日新聞出版（2013）		
参考書	フィットネス関連図書		
評価基準及び成績 評価方法	評価については、学習・教育目標①を課題レポートで評価し、学習・教育目標②と⑥を各テーマの課題に対するグループ内での積極的な取り組む姿勢と工夫について、実習ノートにより評価する。評価の割合は、①を60%、②と③を20%、20%とし、100点満点中60点以上を合格とする。		
達成度の伝達及び 達成度評価	達成度の伝達は、実習ノートとレポートを評価後に返却し、確認させる。		
資格情報			
オフィスアワー	掲示にて相談日をお知らせします。		

備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 国際文化体験 I

英文科目名称： Study abroad 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	2 単位	選択	集中実習
担当教員				
清水尚				
海外研修				

授業概要	将来に向けて、学生時代に姉妹校交流、語学学校への留学、国外企業でのインターンシップなどを体験することは、コミュニケーション能力の向上に大いに寄与するのみならず、国際人としてより広い視野を持ち、異文化と共生できる資質を高めることになる。そこで、国際文化体験 I では海外での異文化体験の成果に基づき単位を認定する。現在実施されている海外短期留学制度は、夏期休暇中に実施されるアメリカのイリノイ大学スプリングフィールド校 (UIS) とその周辺で実施される3週間にわたる研修制度がある。その他留学に関する多くの情報は、国際交流委員会や教務課、学生支援課、留学生支援課から得られる。
授業計画	短期海外留学の例：アメリカ・イリノイ大学スプリングフィールド校 (UIS) への夏季休暇を利用した留学。
準備学習の内容	事前に実施される数度の概略的なガイダンスや、渡航直前に集中して実施されるより実際の最終ガイダンスに積極的に参加することで、早い段階から短期交換留学に向けての意識を高め、各自課題を設定し、渡航直後から学びがスタートできるように心がける。単なる観光ではなく、探究心をもって臨む異文化体験となるよう事前に十分な準備をすることが求められる。
教育目標に対する科目の位置付け	姉妹校への短期交換留学経験等を通じて、異文化と共生できる資質を実験的に獲得・伸張することを目的とする。これを実現するため、以下の目標を設定する。 （1）日々の英会話授業への参加や見学先での聴解・質問などを通じて英語でのコミュニケーション技術の向上を図る（教育目標2）【コミュニケーション能力の涵養】。 （2）滞在中は極力英語中心の生活を送り、現地の人々と積極的に交流するなどして自ら学習する習慣を修得する（教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】。
教科書	
参考書	
評価基準及び成績評価方法	評価については、教育目標を事前・事後の取り組みと、渡航中の取り組みとを総合的に評価する。評価の割合は、事前・事後の取り組みを60点、渡航中の取り組みを40点とし、双方の合計（100点満点）が60点以上の者に単位を認定する。この授業を通じて到達すべきポイントは、i) 事前準備に真剣に取り組むことができる、ii) 渡航中、諸活動に積極的に取り組むことができる、iii) 渡航中、自ら進んで英語を用いたコミュニケーションを取ることができる、iv) 帰国後、海外留学に関する日誌、レポートや関連資料を首尾よくまとめて提出することができる、v) 最終面接で体験成果を簡潔に説明することができるの5つとなる。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 レポート類はチェック後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 （ ）①幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 （70）②コミュニケーション能力の涵養 （ ）③自然科学の理解 （ ）④専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 （ ）⑤知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 （30）⑥積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	
備考	インターネットやマスメディアの普及により国際情報は身近となってきている。しかし、世界的経済不況や政治的混迷が続く中で、ややもすると日本全体が内向き傾向となりがちで、国外への関心が薄れつつあるとされている。そのような現在、実地に一定期間以上、海外を訪れて異文化体感する機会が少なくなって来ている。「百聞は一見にしかず」である。学生時代には是非海外留学を経験して、異文化体験を積むことを強く奨励する。
履修登録条件	

講義科目名称： 国際文化体験Ⅱ

英文科目名称： Study abroad 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期・後期	1 年次	2 単位	選択	集中実習
担当教員				
清水尚				
海外研修				

授業概要	国際文化体験Ⅱでは、これからの国際社会においてリーダーシップを取り、活躍できる人材の育成を目指す。そのために、諸外国の科学・技術・政治・経済・文化などをより深く理解し、より高い外国語運用力の習得を期待する。そこで、国際文化体験Ⅱでは、海外留学や海外企業でのインターンシップなどで、国際文化体験Ⅰの認定を上回る成果をあげた学生を評価し、単位を認定する。そのためには海外体験をレポートにまとめて提出し、口頭試問あるいはそれに変わる試験に合格しなければならない。参考事例としては、姉妹校であるイリノイ大学スプリングフィールド校への留学後、その体験をレポートにまとめる、留学中の写真展の開催、学生ホールでの体験発表などがある。
授業計画	海外留学についての報告書の作成と発表の準備を一回以降続ける。
準備学習の内容	渡航後、現地での滞在中は、初日から最終日まで日々の活動や感想を子細に記録し、適宜写真撮影するなどして、帰国後のレポート執筆の材料を可能な限り潤沢に揃えておく。
教育目標に対する科目の位置付け	国際文化体験Ⅰの成果に満足せず、さらに深い洞察力を伴ったかたちでの取り組みが期待される。具体的には、大学卒業後、技術者・研究者などとして国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。 （１）渡航先では英語でのコミュニケーション技術の一層の向上を図る（教育目標2）【コミュニケーション能力の涵養】。 （２）滞在中は現地の人々と一層積極的に交流するなどして自ら学習する習慣を修得する（教育目標6）【積極性と自己学習の習慣】。
教科書	
参考書	
評価基準及び成績評価方法	評価については、教育目標を帰国後のレポート提出、成果発表、口頭試問によって評価する。事前準備や渡航中の取り組みに対する評価については「国際文化体験Ⅰ」に準じるが、この「国際文化体験Ⅱ」では、帰国後の成果報告の充実度を一層重視して評価する。
達成度の伝達及び達成度評価	◎達成度の伝達 レポート類はチェック後に返却し、達成度を伝達する。 ◎達成度評価 （ ）①幅広い視野の修得と技術者倫理の修得 （70）②コミュニケーション能力の涵養 （ ）③自然科学の理解 （ ）④専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得 （ ）⑤知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成 （30）⑥積極性と自己学習の習慣
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： ヒューマン・エネルギー入門

英文科目名称： Introduction to Human Energy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
牛山泉				
建学の理念に関わる科目				

授業概要	新入生がもっている多様な知的好奇心と潜在能力を呼び起こすために、まずオンリーワンの自分を認識し、自己肯定した上で、足利の町で足利工業大学で学ぶことの意義を歴史的に検証する。 まず、空間的には地元から国内、そして国外まで、時間的には過去から現在まで、郷土足利から出発して日本全体そして世界のオンリーワンの人物の生き方を学び、地域から、日本全土そして世界にむけてオンリーワンの地域、国を調べてみる。 さらに、グローバル化の時代にあって日本はどうあるべきか、個人はどうあるべきかを明らかにする。 講義の中では、講師の出演したNHKプロジェクトXを始めとするテレビのVTRなども積極的に活用したりして、興味・関心を高める。		
授業計画	第 1 回	ガイダンスと「ナンバーワンよりオンリーワンを」 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 2 回	人間の特性； ホモ・サピエンス、ホモ・ファール、ホモ・ルーデンス、ホモ・ヴィアートルを活かすには 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 3 回	フランシスコ・ザビエルの見た日本、そして足利 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 4 回	わが郷土のオンリーワン； 田中正造、山本有三、そして相田みつを 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 5 回	オンリーワンの人； 本田宗一郎、井深大、そして杉原千畝 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 6 回	オンリーワンの人； レオナルド・ダ・ヴィンチ、フェルディナント・ポルシェ、そしてマザー・テレサ 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 7 回	究極のエコロジスト； 東の良寛和尚と西の聖フランチェスコ 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 8 回	真の国際人とは； 新渡戸稲造、内村鑑三、新島襄、そして鈴木大拙 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 9 回	オンリーワンの国； デンマーク、プロシヤ戦争敗戦による最貧国から世界一の高福祉国への秘密 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 1 0 回	逆転の発想； 山形県立川町（現庄内町）と大分県 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 1 1 回	国際協力の新しい風； 中田正一と私、適正技術とは 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 1 2 回	技術立国・日本の生きる道； 国民性と技術風土を生かす 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 1 3 回	持続可能な社会を目指して； 地球環境と再生可能エネルギー 予習：配布物を読んでおく。 復習：提出物の回答について確認する。	
	第 1 4 回	まとめと試験・レポート提出 予習：第1回から第13回までに学んだ内容について復習する。 復習：試験に出たところについて再確認する。	
	第 1 5 回	試験の解説 復習：間違えたところの見直しを行い、正しい知識を身につける。	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	新入生諸君に対して、一人一人の潜在能力としてのヒューマンパワーを呼び起こし、各人の固有な能力を最大限発揮しうるように、工学を主題としつつも人文・社会的な視点も含めて講義を行うように努める。これにより、それぞれの学科の専門課程において自分の夢を実現しうるのみでなく、将来、社会人となっても環境問題など各種の課題に対して倫理観を持って総合的に判断し、決断することのできる「心あるエンジニア」の育成を心がけている。		
教科書	毎回パワーポイントで講義資料を作成し、最終的には教科書にまとめる		
参考書	そのつど参考書を指示して図書館を利用するように指導する		
評価基準及び成績 評価方法	出席回数 2 / 3 （10回以上）を必要とし、毎回提出してもらうリアクションペーパーで平常点を評価し、最後に提出してもらうレポートと併せて最終評価を行う。60点以上を合格とする。		

達成度の伝達及び 達成度評価	毎回提出してもらいアクションペーパーで達成度を確認し、翌週はじめにその解説を行って理解の深化に努める。
資格情報	
オフィスアワー	この講義は、まずオンリーワンの自分を認識し、自己肯定するところから出発し、自信を持って自分の夢の実現に向かって歩みだすことができるようになるはずである。したがって、将来社会人になってからも、自信を持って課題解決を実現できる基礎が与えられることになる。
備考	
履修登録条件	